八尾市文化財調査報告65
平成22年度国庫補助事業

# 八尾市内遺跡平成22年度発掘調査報告書

2011年３月

八尾市教育委員会

# は　じ　め　に

八尾市は、大阪府のほぼ中央部に位置しており、市域は、東方の生駒山地西麓から、西方の大阪平野東部にかけての範囲に広がっております。古くは、北に河内湖、河内潟に面し、旧大和川の支流であった多くの河川によって、肥沃な平野が形成されてきました。旧石器時代から連綿と遺跡が形成されており、全国的にも有数の遺跡の宝庫と呼べる地域であります。

本書は、当教育委員会が、平成22年度に(財)八尾市文化財調査研究会に委託して実施した市内の周知の埋蔵文化財包蔵地における個人住宅等の建設に伴う発掘調査や民間の各種事業の開発工事等に伴う遺構確認調査の成果を収めております。

弥生時代中期から後期の集落の存在を知ることができる多量の土器が出土した亀井遺跡、古墳時代前期の完形品の古式土師器を含む土坑や船材を使用した井戸を確認した小阪合遺跡、奈良から平安時代の墨書人面土器が出土した久宝寺遺跡、中世の集落の広がりを確認できた美園遺跡、萱振寺内町の近世以降の様相が明らかになった萱振遺跡の調査など様々な貴重な成果を得ることができました。

今後、埋蔵文化財の重要性を市民の方々をはじめとして、多くの人々にご理解をいただき、地域の貴重な歴史資産のひとつとして、保存・活用していくことが文化財行政の重要な課題となります。本書が、その役割の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査に際し、ご理解とご協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成23年３月

八尾市教育委員会
教育長　中原敏博

# 例　　言

１．本書は、平成22年度の国庫補助事業（市内発掘調査）として、大阪府八尾市で実施した発掘調査の報告書である。

２．これらの発掘調査は、八尾市教育委員会が平成22年度に(財)八尾市文化財調査研究会に委託して実施したものである。

３．本書には、市内の埋蔵文化財包蔵地での発掘調査及び遺構確認調査と埋蔵文化財包蔵地外での試掘調査のうち、平成22年度に実施した平成22年4月から12月までの調査と、平成21年度に実施した平成22年1月から3月までの調査を掲載している（掲載順序は遺跡名の五十音順となっている。）。そのうち、特に成果のあった調査については、その概要を掲載している。

４．調査した場所及び位置については、それぞれの年度の巻頭に一括して位置図を掲載している。

５．本書の作成にあたっては、(財)八尾市文化財調査研究会　高萩千秋・坪田真一・成海佳子・原田昌則・樋口　薫　が執筆を行い、各執筆分担は目次末に記している。

６．本書に掲載している出土品及び図面類は、埋蔵文化財の活用に資するため、八尾市立埋蔵文化財調査センター（八尾市幸町四丁目58-2）において保管している。

７．本書の編集は、八尾市教育委員会生涯学習部文化財課が行った。

# 本　文　目　次

はじめに
例言
Ⅰ　平成21年度市内遺跡発掘調査報告（平成22年１月～３月）
１．平成21年度１～３月発掘調査一覧表……１・２
２．平成21年度１～３月発掘調査位置図……３～12
３．市内遺跡発掘調査報告……13
１）跡部遺跡(2009-356)の調査……(坪田) 13
２）跡部遺跡(2009-431)の調査……(成海) 14
３）植松遺跡(2009-461)の調査……(坪田) 17
４）萱振遺跡(2009-409)の調査……(原田) 18
５）小阪合遺跡(2009-419)の調査……(坪田) 20
６）成法寺遺跡(2009-415)の調査……(坪田) 22
７）中田遺跡(2009-449)の調査……(成海) 23
８）東弓削遺跡(2009-490)の調査……(高萩) 24
９）八尾寺内町(2009-457)の調査……(成海) 25
Ⅱ　平成22年度市内遺跡発掘調査報告（平成22年４月～12月）
1. 平成22年度４～12月発掘調査一覧表……27～31
2. 平成22年度４～12月発掘調査位置図……33～53
３．市内遺跡発掘調査報告……55
１）跡部遺跡(2010-269)の調査……(樋口) 55
２）恩智遺跡(2010-153)の調査……(樋口) 57
３）恩智遺跡(2010-175)の調査……(樋口) 58
４）亀井遺跡(2010-40)の調査……(成海) 59
５）亀井遺跡(2010-185)の調査……(樋口) 60
６）萱振遺跡(2010-239)の調査……(原田) 65
７）久宝寺遺跡(2009-488)の調査……(坪田) 66
８）久宝寺遺跡(2010-27)の調査……(坪田) 67
９）久宝寺遺跡(2010-249)の調査……(坪田) 68
10）久宝寺寺内町(2009-48)の調査……(樋口) 71
11）郡川遺跡(2009-477)の調査……(成海) 74
12）郡川遺跡(2010-17)の調査……(坪田) 76
13）郡川遺跡(2010-35)の調査……(樋口) 77
14）郡川遺跡(2010-328)の調査……(成海) 78
15）小阪合遺跡(2010-12)の調査……(坪田) 80
16）小阪合遺跡(2010-232)の調査……(樋口) 80
17）小阪合遺跡(2010-105)の調査……(坪田) 83
18）渋川廃寺(2010-95)の調査……(樋口) 88
19）成法寺遺跡(2010-65)の調査……(樋口) 89
20）成法寺遺跡(2010-165)の調査……(樋口) 90
21）東郷遺跡(2010-76)の調査……(原田) 92

22） 東郷遺跡(2010-221)の調査 ……(樋口) 92
23） 東郷遺跡(2010-244)の調査 ……(樋口) 93
24） 東郷遺跡(2010-177)の調査 ……(成海) 94
25） 中田遺跡(2010-142)の調査 ……(樋口) 95
26） 中田遺跡(2010-198)の調査 ……(原田) 96
27） 中田遺跡(2010-257)の調査 ……(樋口) 97
28） 中田遺跡(2010-315)の調査 ……(成海) 98
29） 東弓削遺跡(2009-481)の調査 ……(成海) 99
30） 東弓削遺跡(2009-453)の調査 ……(成海) 99
31） 東弓削遺跡(2010-291)の調査 ……(樋口)102
32） 東弓削遺跡(2010-359)の調査 ……(坪田)103
33） 水越遺跡(2010-107)の調査 ……(原田)105
34） 美園遺跡(2010-179)の調査 ……(樋口)106
35） 宮町遺跡(2010-87)の調査 ……(坪田)109
36） 八尾寺内町(2010-145)の調査 ……(樋口)110
37） 弓削遺跡(2009-433)の調査 ……(坪田)112

# 図　版　目　次


| | | |
|---|---|---|
| 図版１ | Ⅰ－３－１）跡部遺跡(2009-356) | 周辺状況(西から)　北壁 |
| | Ⅰ－３－２）跡部遺跡(2009-431) | 周辺状況(北東から)　１区６・７層上面全景(西から) |
| | | １区８層上面全景(西から)　２区土坑121(西から) |
| | | ２区８層上面(北西から)　２区８層上面全景(西から) |
| 図版２ | Ⅰ－３－２）跡部遺跡(2009-431) | ３区全景(南西から)　３区下層状況南から) |
| | | ４区西壁(北東から)　５区東壁(西から) |
| | | ６区西壁(南東から)　７区南壁(北から) |
| | | 出土遺物　出土遺物 |
| 図版３ | Ⅰ－３－３）植松遺跡(2009-461) | 全景(西から)　ＳＫ１(北西から) |
| | | 北壁(南から)　調査状況(南から) |
| | | 出土遺物　出土遺物 |
| | | 出土遺物　出土遺物 |
| 図版４ | Ⅰ－３－４）萱振遺跡(2009-409) | 周辺状況(北から)　西壁(東から) |
| | | ＳＫ１(南東から)　周辺状況(東から) |
| | Ⅰ－３－５）小阪合遺跡(2009-419) | １区８層上面(北から)　ＳＤ１遺物出土状況(北から) |
| | | 出土遺物　出土遺物 |
| 図版５ | Ⅰ－３－５）小阪合遺跡(2009-409) | 出土遺物　出土遺物 |
| | | 出土遺物　出土遺物 |
| | Ⅰ－３－６）成法寺遺跡(2009-415) | 周辺状況(北から)　１区西壁(東から) |
| | | ２区東壁(西から)　３区西壁(東から) |
| 図版６ | Ⅰ－３－６）成法寺遺跡(2009-415) | ４区東壁(西から)　調査状況(西から) |
| | Ⅰ－３－７）中田遺跡(2009-449) | 全景(南西から)　遺物出土状況(南東から) |
| | Ⅰ－３－８）東弓削遺跡(2009-490) | 出土遺物　周辺状況(南東から) |
| | | 北壁(南東から)　出土遺物 |
| 図版７ | Ⅰ－３－９）八尾寺内町(2009-457) | 周辺状況(北から)　１区第１面全景(西から) |
| | | １区第２面全景(南西から) |
| | | 出土遺物 |
| 図版８ | Ⅱ－３－１）跡部遺跡(2010-269) | 周辺状況(南から)　１区西壁(南東から) |
| | | ２区西壁(東から)　３区西壁(北東から) |
| | | ４区西壁(東から)　５区西壁(北東から) |
| | | 出土遺物 |
| 図版９ | Ⅱ－３－２）恩智遺跡(2010-153) | ２区東壁　２区20層上面(北から)　３区東壁　出土遺物 |
| | Ⅱ－３－３）恩智遺跡(2010-175) | 周辺状況(西から)　北壁(南東から) |
| | Ⅱ－３－４）亀井遺跡(2010-40) | １区北壁(南西から)　２区北壁(東から) |
| | Ⅱ－３－５）亀井遺跡(2010-185) | 周辺状況( 南西から)　１区北壁(南から) |
| 図版10 | Ⅱ－３－５）亀井遺跡(2010-185) | ２区北壁(南から)　３区北壁(南から) |
| | | ５区北壁(南東から)　６区北壁(南東から) |
| | | ７区北壁(南東から)　８区北壁(南東から) |
| | | ９区北壁(南から)　出土遺物 |

図版11　Ⅱ－３－５）亀井遺跡(2010-185)　出土遺物　出土遺物
出土遺物　出土遺物
出土遺物　出土遺物
Ⅱ－３－６）壹振遺跡(2010-239)　周辺状況(東から)　１区南壁(北から)
図版12　Ⅱ－３－６）壹振遺跡(2010-239)　２区南壁(北から)　３区南壁(北から)
Ⅱ－３－７）久宝寺遺跡(2009-488)　周辺状況(南から)　１区西壁(東から)
２区西壁(東から)　３区西壁(東から)
４区北壁(南から)　掘削状況(南から)
図版13　Ⅱ－３－８）久宝寺遺跡(2010-27)　周辺状況(南から)　１区北壁(南から)
１区第１面(東から)　２区西壁(東から)
出土遺物　出土遺物
出土遺物
図版14　Ⅱ－３－９）久宝寺遺跡(2010-249)　周辺状況(東から)　１区東壁(西から)
２区北壁(北西から)　３区東壁(西から)
４区東壁(西から)　５区西壁(東から)
１区第２面（南から）　２区第２面(南から)
図版15　Ⅱ－３－９）久宝寺遺跡(2010-249)　出土遺物　出土遺物
出土遺物　出土遺物
Ⅱ－３-10）久宝寺寺内町(2010-48)　西壁(南東から)　ＳＤ１(北東から)
Ⅱ－３-11）郡川遺跡(2009-477)　周辺状況(南から)　１区第１面(南から)
図版16　Ⅱ－３-11）郡川遺跡(2009-477)　１区第２面(南から)　ＳＫ121(南から)
２区第１面(西から)　３区北壁(南西から)
Ⅱ－３-12）郡川遺跡(2010-12)　周辺状況(南から)　ＳＥ121(東から)
２区北壁(南から)　２区第１・２面(西から)
図版17　Ⅱ－３-13）郡川遺跡(2010-35)　周辺状況(北西から)　１区北壁(南から)
２区南壁(北から)　３区北壁(南から)
４区南壁(北から)　出土遺物
Ⅱ－３-14）郡川遺跡(2010-328)　周辺状況(南西から)　１区第１面(東から)
図版18　Ⅱ－３-14）郡川遺跡(2010-328)　２区第１面(南から)　２区第２面(南から)
１区北壁(南から)　２区北壁(南から)
Ⅱ－３-15）小阪合遺跡(2010-12)　周辺状況(南東から)　西壁(東から)
Ⅱ－３-16）小阪合遺跡(2010-232)　周辺状況(南西から)　１区南壁(北から)
図版19　Ⅱ－３-16）小阪合遺跡(2010-232)　104土坑(北東から)　２区北壁(南から)
２区２面(南から)　３区北壁(南東から)
301鋤溝(南東から)　302・303土坑(南東から)
出土遺物　出土遺物
図版20　Ⅱ－３-17）小阪合遺跡(2010-105)　周辺状況(北東から)　機械掘削状況(北東から)
１区西壁(東から)　２区東壁(西から)
３区第２面(北から)　ＳＥ321(東から)
４区第２面(西から)　ＳＯ421(東から)

図版21　Ⅱ－３-17）小阪合遺跡(2010-105)　出土遺物
図版22　Ⅱ－３-17）小阪合遺跡(2010-105)　出土遺物
図版23　Ⅱ－３-17）小阪合遺跡(2010-105)　出土遺物　出土遺物
Ⅱ－３-18）渋川廃寺(2010-95)　周辺状況(南東から)　３区北壁(南東から)
Ⅱ－３-19）成法寺遺跡(2010-65)　周辺状況(東から)　ＳＫ１(北から)
出土遺物　出土遺物
図版24　Ⅱ－３-20）成法寺遺跡(2010-165)　西壁(北東から)　ＳＥ１(北東から)
Ⅱ－３-21）東郷遺跡(2010-76)　周辺状況(南西から)　北壁(南東から)
Ⅱ－３-22）東郷遺跡(2010-221)　周辺状況(南東から)　ＳＫ１(北東から)
２区西壁(北東から)　３区西壁(東から)
図版25　Ⅱ－３-23）東郷遺跡(2010-244)　周辺状況(北から)　柱穴１(東から)
１区北壁(南から)　３区北壁(南から)
Ⅱ－３-24）中田遺跡(2010-177)　全景(北から)　ＳＫ201(北から)
Ⅱ－３-25）中田遺跡(2010-142)　周辺状況(北東から)　南壁(北から)
図版26　Ⅱ－３-25）中田遺跡(2010-142)　出土遺物　出土遺物
出土遺物　出土遺物
出土遺物　出土遺物
Ⅱ－３-26）中田遺跡(2010-198)　周辺状況(東から)　南壁(北から)
図版27　Ⅱ－３-27）中田遺跡(2010-257)　周辺状況(北西から)　１区東壁(西から)
２区北壁(南から)　出土遺物
Ⅱ－３-28）中田遺跡(2010-315)　周辺状況(南から)　南壁(北から)
Ⅱ－３-29）東弓削遺跡(2010-481)　大塚の石碑(北西から)　北壁(南から)
図版28　Ⅱ－３-30）東弓削遺跡(2010-453)　１区北壁(南から)　１区全景(南から)
２区南壁(北西から)　２区全景(北から)
Ⅱ－３-31）東弓削遺跡(2010-291)　周辺状況(北西から)　西壁(北東から)
土器10出土状況(北西から)　土器11出土状況(南西から)
図版29　Ⅱ－３-31）東弓削遺跡(2010-291)　出土遺物　出土遺物
Ⅱ－３-32）東弓削遺跡(2010-359)　土遺物　１区第２面(北から)
１区東壁(西から)　２区第２面(北から)
Ⅱ－３-33）水越遺跡(2010-107)　２区東壁(西から)　周辺状況(北西から)
図版30　Ⅱ－３-33）水越遺跡(2010-107)　１区西壁(東から)　２区西壁(東から)
Ⅱ－３-34）美園遺跡(2010-179)　周辺状況(北東から)　１区南壁(北東から)
２区北壁(南から)　３区北壁(南東から)
ＳＫ４(南西から)　出土遺物
図版31　Ⅱ－３-34）美園遺跡(2010-179)　出土遺物
図版32　Ⅱ－３-35）宮町遺跡(2010-87)　南壁(北から)　５層上面(西から)
調査状況(東から)　出土遺物
出土遺物　出土遺物
出土遺物
図版33　Ⅱ－３-36）八尾寺内町(2010-145)　周辺状況(北東から)　１区北壁(南から)
ＳＤ１(南から)　２区東壁(西から)
出土遺物　出土遺物　出土遺物

Ⅱ－３-37）弓削遺跡(2009-433)　　周辺状況(北東から)　１区北壁(南から)

図版34　Ⅱ－３-37）弓削遺跡(2009-433)　　２区西壁(東から)　掘削状況(北西から)

出土遺物　出土遺物

出土遺物

# Ⅰ　平成21年度市内遺跡発掘調査報告

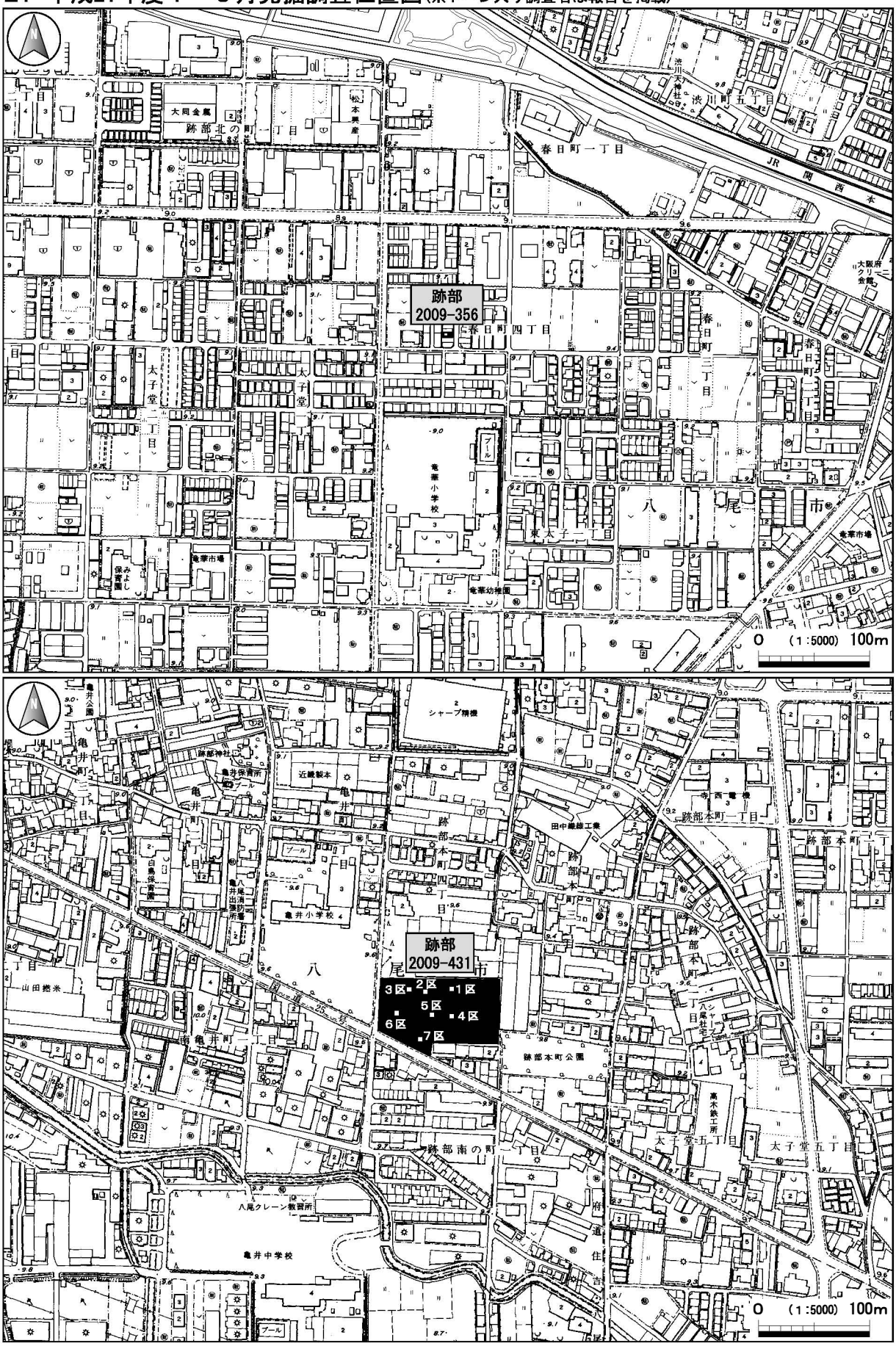
（平成22年１月～３月）

## １．平成21年度１～３月発掘調査一覧表

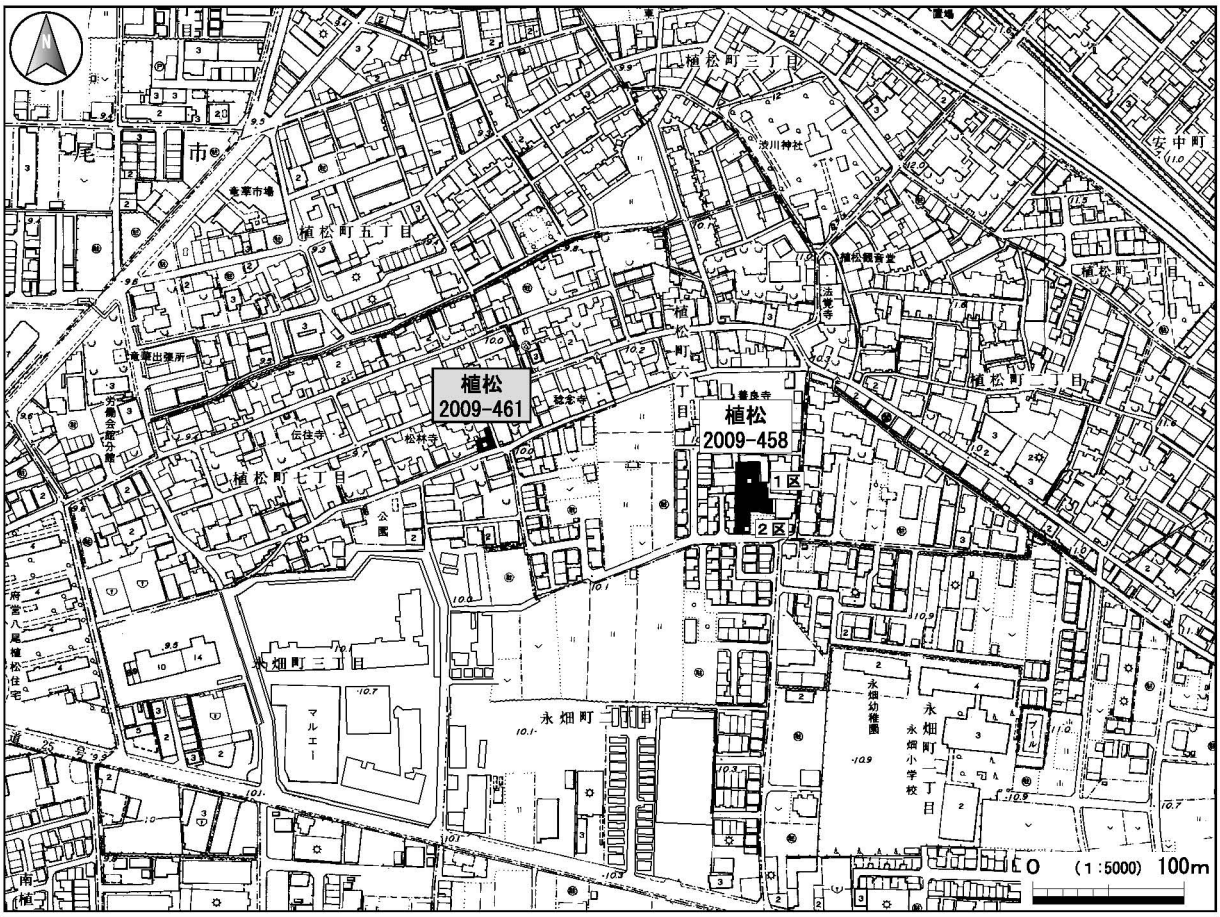
| 遺跡名<br>(申請番号) | 調査地 | 調査日 | 目的：対象<br>(調査原因) | 調査方法 | 面積<br>(㎡) | 調査結果 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 跡部遺跡<br>(2009-356) | 春日町４丁目11番12の一部 | H22年<br>１月７日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 1.5×2.5mの調査区１ヶ所<br>深さ2.0mまで調査 | 3.75 | 詳細はＩ－３－１)に記載 | 坪田 |
| 跡部遺跡<br>(2009-431) | 跡部本町4丁目59 | H22年<br>２月23･24･25日、<br>３月１日 | 店舗：<br>基礎・防火水槽部分<br>(試掘・確認調査) | 3.5×3.5mの調査区７ヶ所<br>深さ2.5mまで調査 | 85.75 | 詳細はＩ－３－２)に記載 | 成海 |
| 植松遺跡<br>(2009-461) | 植松町７丁目66の一部 | H22年<br>３月４日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×2.0mの調査区１ヶ所<br>深さ1.6mまで調査 | 4.00 | 詳細はＩ－３－３)に記載 | 坪田 |
| 植松遺跡<br>(2009-458) | 植松町６丁目86番・89番１ | H22年<br>３月８日 | 分譲住宅：人孔部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0mの調査区２ヶ所<br>深さ1.6mまで調査 | 8.00 | 当地は旧平野川の河川流路の南端部、古代渋河路や中世以降の奈良街道に近接した位置にあたる。江戸時代前期後半期については池状遺構が広がる環境であったことが推定される。 | 原田 |
| 大竹西遺跡<br>(2009-361) | 楽音寺２丁目128番１、128番３ | H22年<br>１月14日 | 分譲住宅：人孔部分<br>(試掘・確認調査) | 2.5×1.5mの調査区１ヶ所<br>深さ2.0mまで調査 | 3.75 | 当地一帯が永く生産域として利用されていたことを確認した。 | 原田 |
| 恩智遺跡<br>(2009-465) | 恩智北町４丁目535-２ | H22年<br>３月12日 | 個人住宅：<br>基礎・浄化槽部分<br>(記録保存調査) | 2.0×2.0mの調査区１ヶ所<br>1.0×2.0mの調査区１ヶ所<br>深さ1.6mまで調査 | 6.00 | 現耕土直下が地山層であることを確認した。当地が居住域となるのは近　以降と考えられる。 | 坪田 |
| 萱振遺跡<br>(2009-409) | 萱振町６丁目53番の一部 | H22年<br>２月25日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.5×2.5mの調査区１ヶ所<br>深さ2.0mまで調査 | 6.25 | 詳細はＩ－３－４)に記載 | 原田 |
| 木の本遺跡<br>(2009-347) | 木の本３丁目22番 | H22年<br>１月12日 | 分譲住宅：人孔部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0mの調査区４ヶ所<br>深さ1.0mまで調査 | 16.00 | 旧耕土上面は、南北が高く、中央部が約30㎝低いことが判明した。１区では農業用井戸に関連する堆積層を確認した。 | 高萩 |
| 郡川遺跡<br>(2009-389) | 郡川４丁目51－２ | H22年<br>２月４日 | 個人住宅：浄化槽部分<br>(記録保存調査) | 2.0×2.0mの調査区１ヶ所<br>深さ1.9mまで調査 | 4.00 | 本地は、東から伸びる尾根の南側斜面にあたり、６・７層は土石流に伴う堆積層と考えられる。既往調査成果からは、５・８層上面が遺構構築面になる可能性が高い。 | 成海 |
| 小阪合遺跡<br>(2009-419) | 青山町４丁目247番 | H22年<br>１月29日 | 倉庫：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.5×2.5mの調査区２ヶ所<br>深さ2.5mまで調査 | 12.50 | 詳細はＩ－３－５)に記載 | 坪田 |
| 成法寺遺跡<br>(2009-386) | 松山町１丁目57－2.57－３ | H22年<br>２月９日 | 分譲住宅：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0mの調査区２ヶ所<br>深さ1.4～2.1mまで調査 | 8.00 | 旧耕土以下４層までが耕作にかかわる地層と考えられ、最下の４層は耕作地の最終ベース(耕盤)と考えられる。２～４層耕作土内には、平安時代～中世の遺物が含まれることから、近隣に当該期の集落が存在した可能性が高い。 | 成海 |
| 成法寺遺跡<br>(2009-415) | 清水町１丁目９番１、９番３ | H22年<br>３月８・16日 | 事務所：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 3.5×3.5mの調査区４ヶ所<br>深さ3.0～3.4mまで調査 | 49.00 | 詳細はＩ－３－６)に記載 | 坪田 |
| 太子堂遺跡<br>(2009-446) | 南太子堂６丁目４番 | H22年<br>２月16日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 1.5×3.0mの調査区１ヶ所<br>深さ1.9mまで調査 | 4.50 | ４層は古平野川の堆積層と考えられる。同様の砂層は植松遺跡・亀井遺跡などでも確認されており、埋没時期は平安時代頃と考えられている。 | 成海 |
| 田井中遺跡<br>(2009-437) | 田井中３丁目120番11 | H22年<br>３月26日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 1.5×2.0mの調査区１ヶ所<br>深さ2.0mまで調査 | 3.00 | 北方約70m地点の調査(ＴＮ96－14)では、T.P.+9.0m付近で古墳時代後期後半の水田や室町時代中期前半の井戸が検出されたが、本地では近世の耕作土で削平されたことが想定される。 | 岡田 |
| 高安古墳群<br>(2009-472) | 垣内５丁目61番５、61番６、61番８ | H22年<br>３月17日 | 分譲住宅：<br>基礎・浄　　部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0mの調査区２ヶ所<br>深さ2.0mまで調査 | 8.00 | ４層遺物包含層や２区検出の遺構から、当地に古墳時代中期の集落が存在した可能性が考えられる。 | 岡田 |
| 高安古墳群<br>(2009-408) | 神立６丁目127番1 | H22年<br>３月19日 | 個人住宅：<br>切土・浄　　部分<br>(記録保存調査) | 2.0×4.0mの調査区２ヶ所<br>深さ2.0mまで調査 | 16.00 | 当地は高安古墳群包蔵範囲の北部で、東の高安山から広がる扇状地上に位置する。南側の一段低くなった東西道路が谷状地形にあたり、当地は地山層を削り整地していることが判明した。 | 高萩 |
| 東郷遺跡<br>(2009-421) | 荘内町１丁目26番３ | H22年<br>１月27日 | 分譲住宅：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.5×2.0mの調査区１ヶ所<br>深さ2.0mまで調査 | 5.00 | 湿地性堆積層が続く状況を確認した。５層が東部で確認されている古墳時代前期遺物包含層に対応する　能性があるが、生活面を形成するような層位は見られず、当地には居　域が及んでいないと考えられる。 | 坪田 |

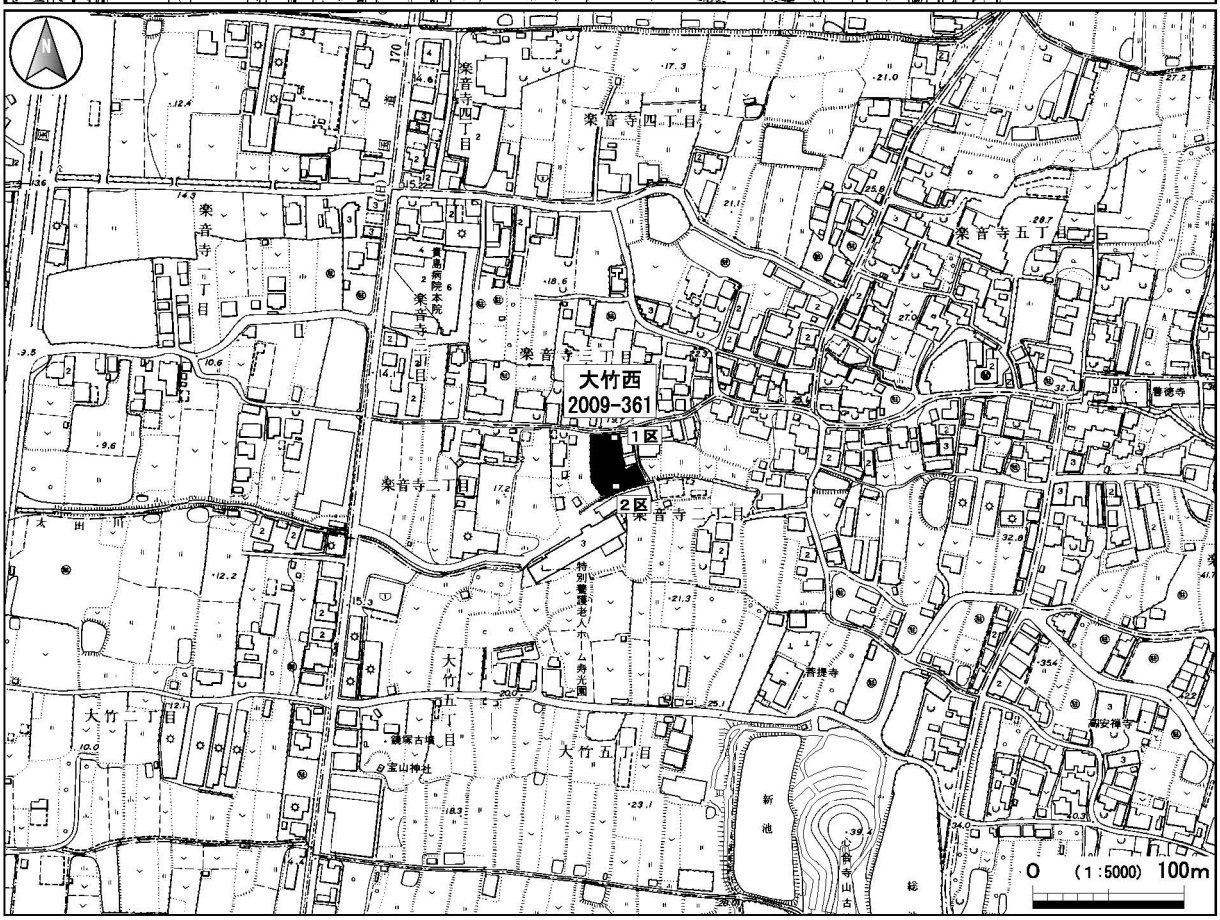
| 遺跡名<br>(申請番号) | 調査地 | 調査日 | 目的：対象<br>(調査原因) | 調査方法 | 面積<br>(㎡) | 調査結果 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 中田遺跡<br>(2009-407) | 刑部１丁目<br>130番 | H22年<br>２月17日 | 個人住宅：基礎部分<br>（記録保存調査） | 2.5×2.5mの調査区１ヶ所<br>深さ2.3mまで調査 | 6.25 | 耕作土内から平安～中世の土器類、および現地表下1.5mから弥生土器と考えられる遺物が出土した。弥生時代後期の当地は、遺構の存在が希薄な地域であった考えられる。 | 成海 |
| 中田遺跡<br>(2009-449) | 刑部２丁目<br>192番 | H22年<br>２月19日 | 個人住宅：基礎部分<br>（記録保存調査） | 2.5×2.5mの調査区１ヶ所<br>深さ1.5mまで調査 | 6.25 | 詳細はＩ－３－７）に記載 | 成海 |
| 花岡山遺跡<br>(2009-140) | 楽音寺６丁目１番地 | H22年<br>３月１日 | 学校新校建設：<br>基礎・防火水槽部分<br>（試掘・確認調査） | 3.0×3.0mの調査区４ヶ所<br>深さ3.0mまで調査 | 36.00 | 南西下がりの旧地形を確認したほか、４層が既往調査で検出された古墳時代中期以降の土壌化層に対応する可能性がある。 | 岡田 |
| 東弓削遺跡<br>(2009-399) | 八尾木１丁目１番１号 | H22年<br>１月21日 | 個人住宅：基礎部分<br>（記録保存調査） | 2.5×2.5mの調査区１ヶ所<br>深さ1.8mまで調査 | 6.25 | 表土直下検出の井戸は「息吹き竹」の存在や人為的な埋め方から、旧建物建設の際に祭祀を行い、埋められたことが判明。６層上面は平安時代後期の遺構面に対応する可能性が高い。 | 成海 |
| 東弓削遺跡<br>(2009-443) | 八尾木東１丁目141番１ | H22年<br>３月11日 | 個人住宅：基礎部分<br>（記録保存調査） | 3.0×2.5mの調査区１ヶ所<br>深さ2.5mまで調査 | 7.50 | 中世～近世の作土層や自然河川を確認した。６・８層については北部で確認した古墳時代初頭～前期の遺構面に相当する可能性がある。 | 坪田 |
| 東弓削遺跡<br>(2009-490) | 八尾木２丁目23番地・21番３・21番２の一部 | H22年<br>３月26日 | 個人住宅：基礎部分<br>（記録保存調査） | 2.5×2.5mの調査区１ヶ所<br>深さ2.0mまで調査 | 6.25 | 詳細はＩ－３－８）に記載 | 高萩 |
| 八尾寺内町<br>(2009-374) | 本町５丁目<br>118-1 | H22年<br>１月21日 | その他住宅(長屋住宅)：基礎部分<br>（試掘・確認調査） | 2.5×2.5mの調査区１ヶ所<br>深さ2.0mまで調査 | 6.25 | 当地は八尾寺内町の北東隅にあたる。『河内国若江郡八尾郷絵図』では居住域ではなく耕作地となっているが、今回の調査では作土は認められず、沼沢地であったことが確認された。 | 坪田 |
| 八尾寺内町<br>(2009-457) | 本町５丁目<br>57-2、57-3,58-7,58-8 | H22年<br>３月３日 | 個人住宅：基礎部分<br>（記録保存調査） | 2.0×2.0mの調査区１ヶ所<br>2.5×4.0mの調査区１ヶ所<br>深さ1.5mまで調査 | 14.00 | 詳細はＩ－３－９）に記載 | 成海 |
| 矢作遺跡<br>(2009-412) | 高美町４丁目143番３ | H22年<br>２月18日 | 個人住宅：基礎部分<br>（記録保存調査） | 2.5×2.5mの調査区１ヶ所<br>深さ2.2mまで調査 | 6.25 | 既往調査で検出している古墳時代後期以降と平安時代後期～鎌倉時代に対応する地層を確認した。 | 成海 |

## ２．平成21年度１～３月発掘調査位置図(※トーン入り調査名は報告を掲載)

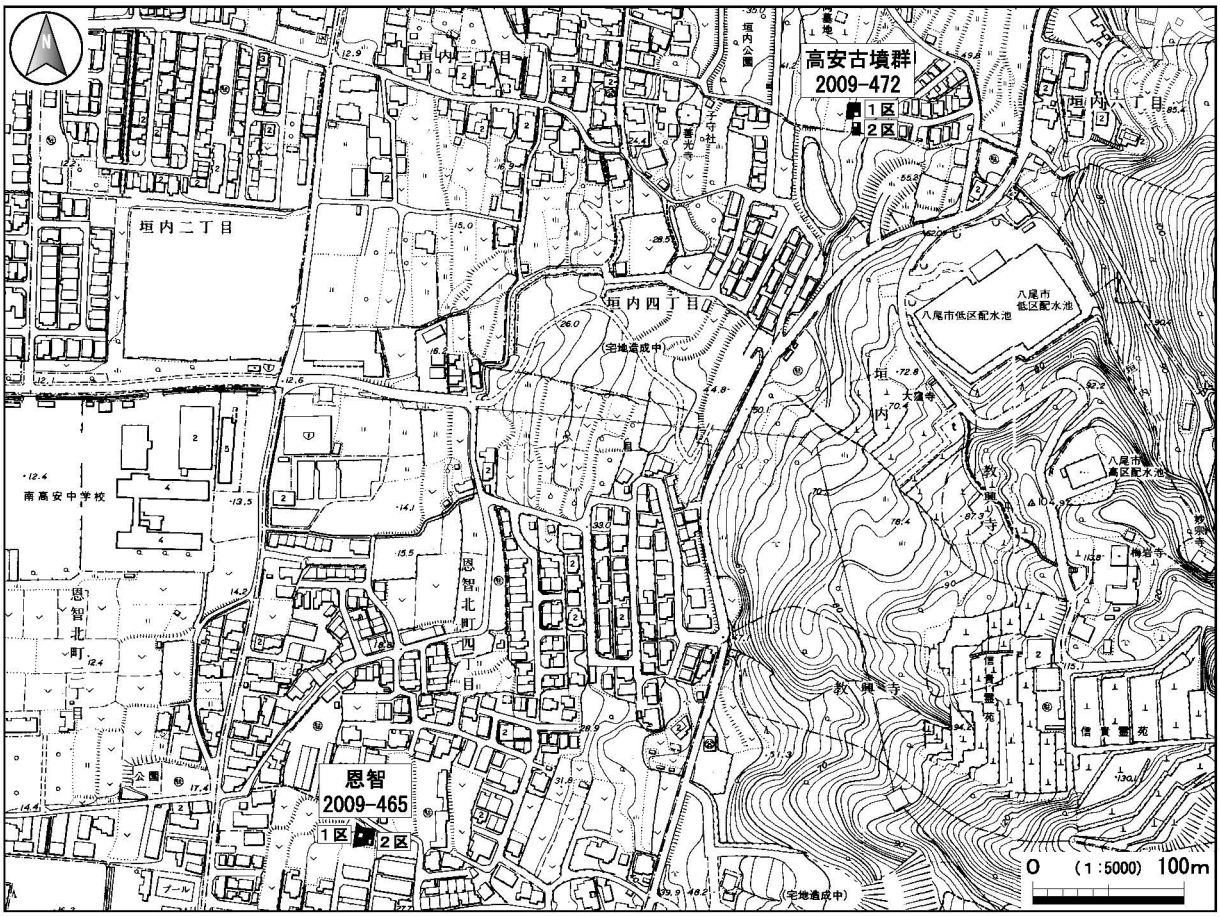


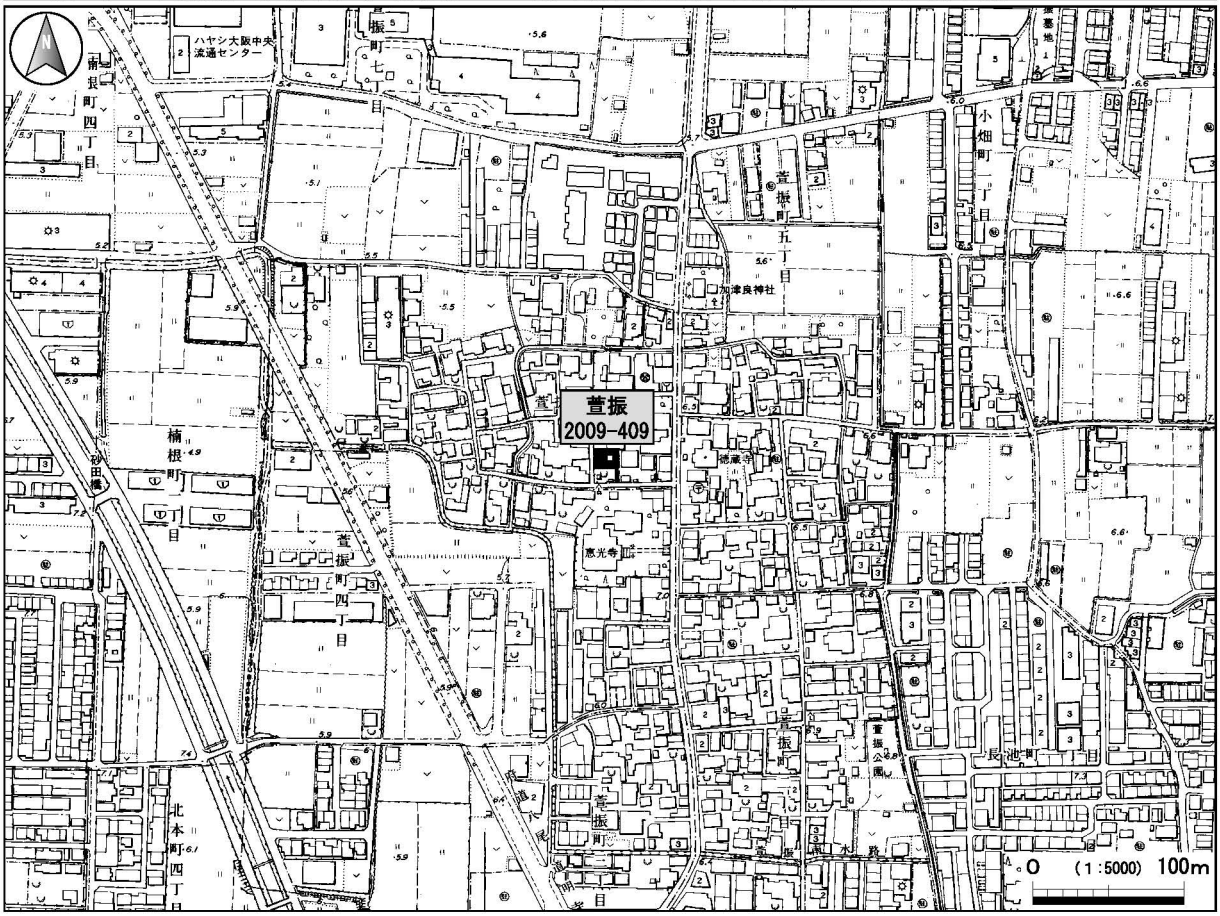

第１図


植松
2009-461
植松
2009-458
1区
2区
植松町三丁目
植松町五丁目
植松町七丁目
植松町二丁目
植松町一丁目
永畑町三丁目
永畑町一丁目
永畑幼稚園
永畑小学校
マルエー
0 (1:5000) 100m

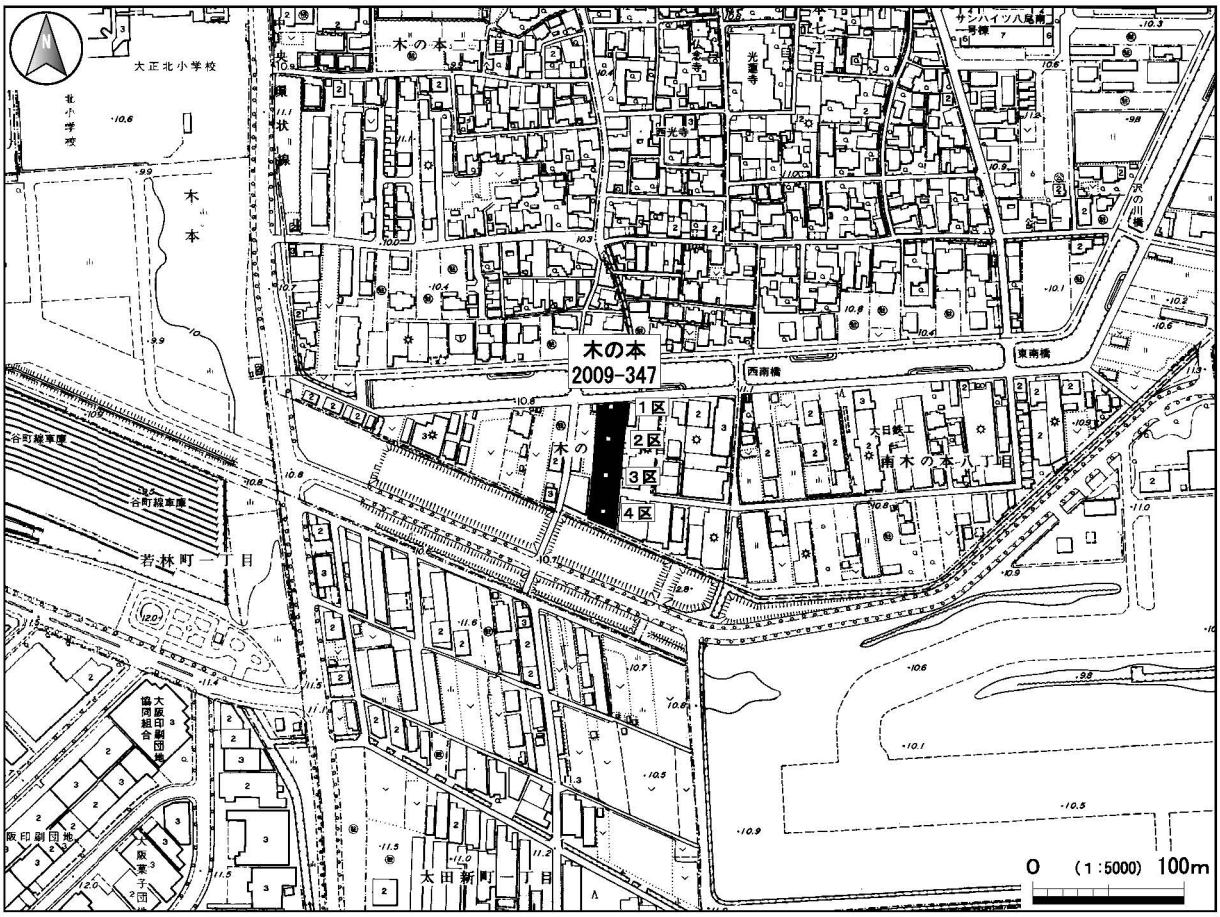

大竹西
2009-361
1区
2区
楽音寺四丁目
楽音寺五丁目
楽音寺三丁目
楽音寺二丁目
楽音寺一丁目
楽音寺四丁目
楽音寺二丁目
大竹五丁目
大竹二丁目
大竹五丁目
特別養護老人ホーム寿光園
新池
0 (1:5000) 100m

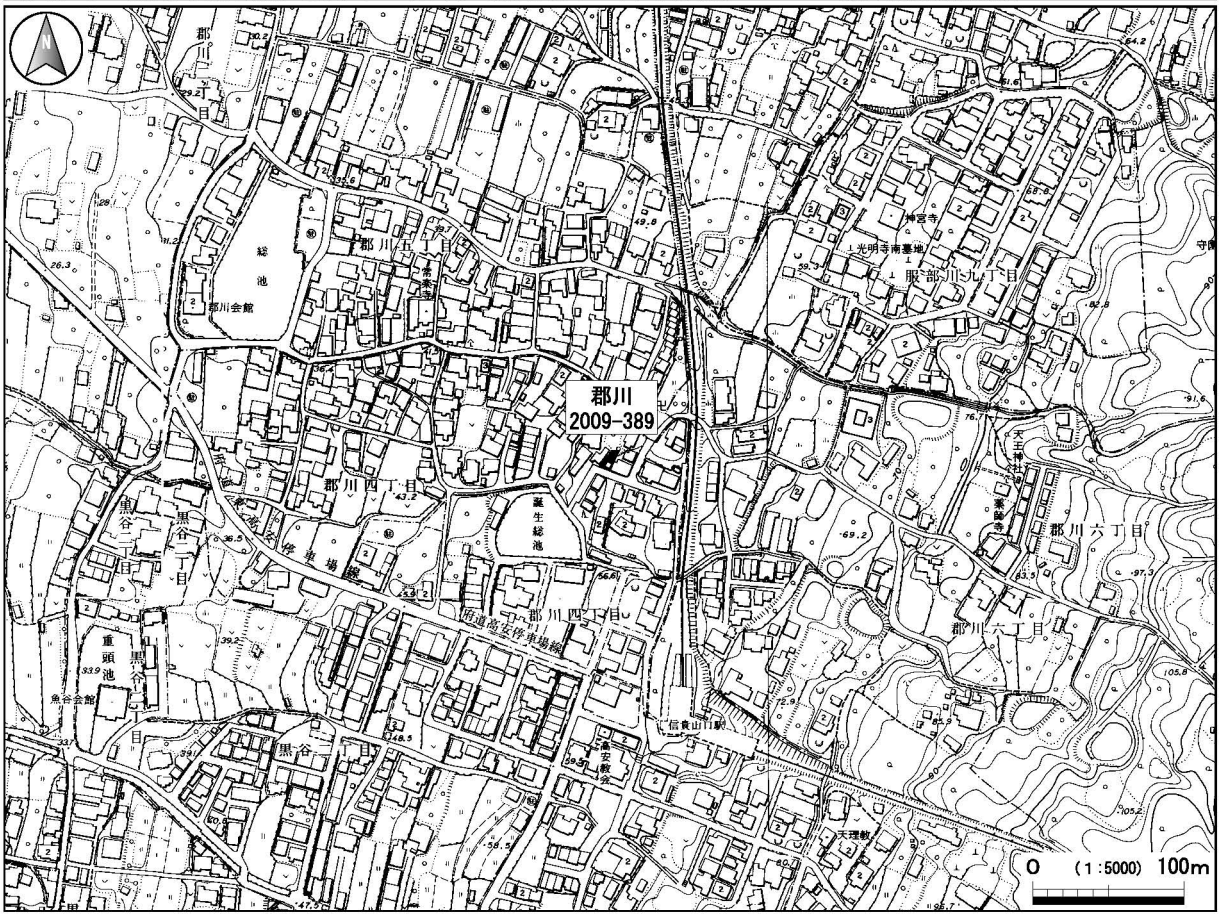
第２図


高安古墳群
2009-472
1区
2区
垣内二丁目
垣内四丁目
垣内六丁目
垣内公園
八尾市低区配水池
八尾市高区配水池
南高安中学校
恩智北町四丁目
恩智北町二丁目
恩智
2009-465
1区
2区
教興寺
信貴霊苑
(宅地造成中)
0 (1:5000) 100m

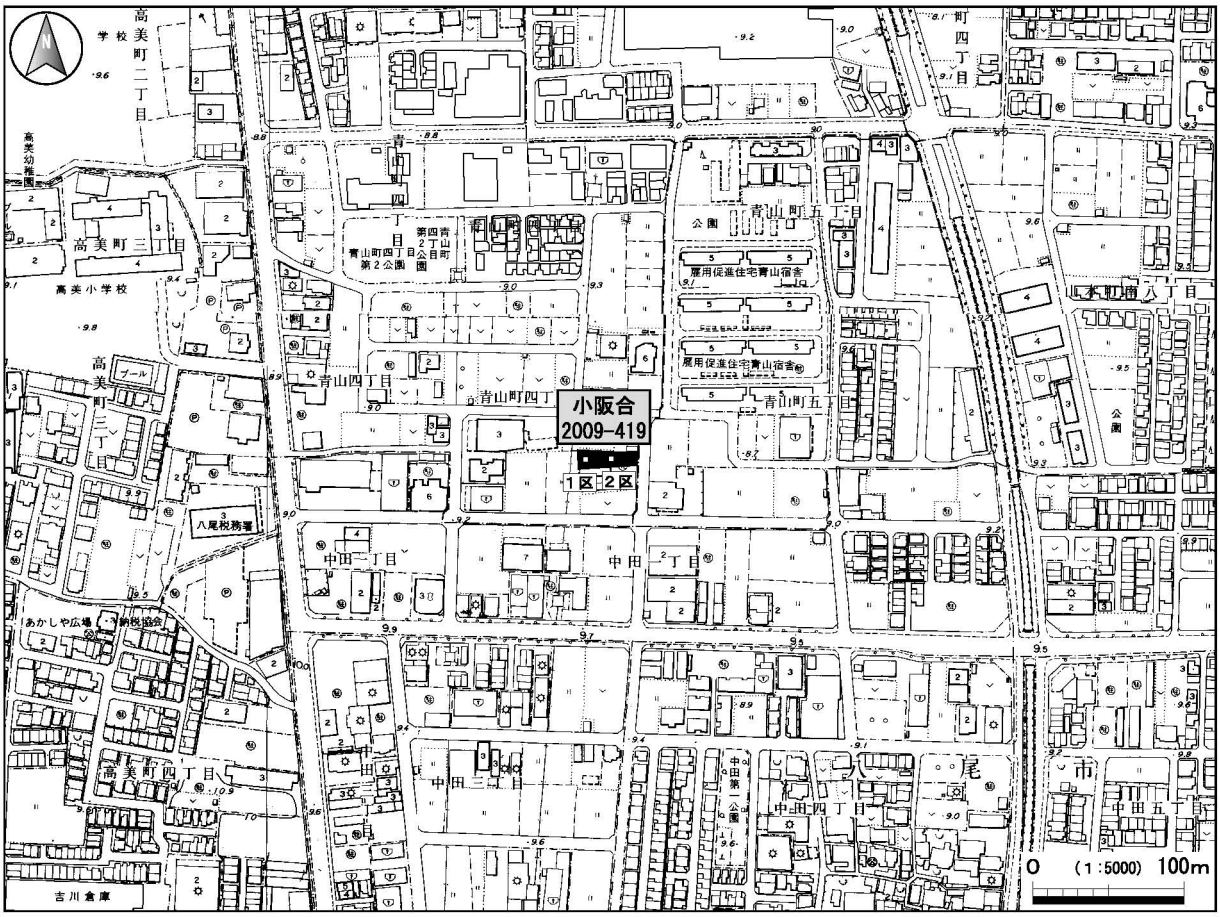

ハヤシ大阪中央流通センター
南根町四丁目
菅振町七丁目
菅振町五丁目
小畑町一丁目
加津良神社
菅振
2009-409
楠根町一丁目
菅振町四丁目
菅振公園
長池町一丁目
北本町四丁目
0 (1:5000) 100m

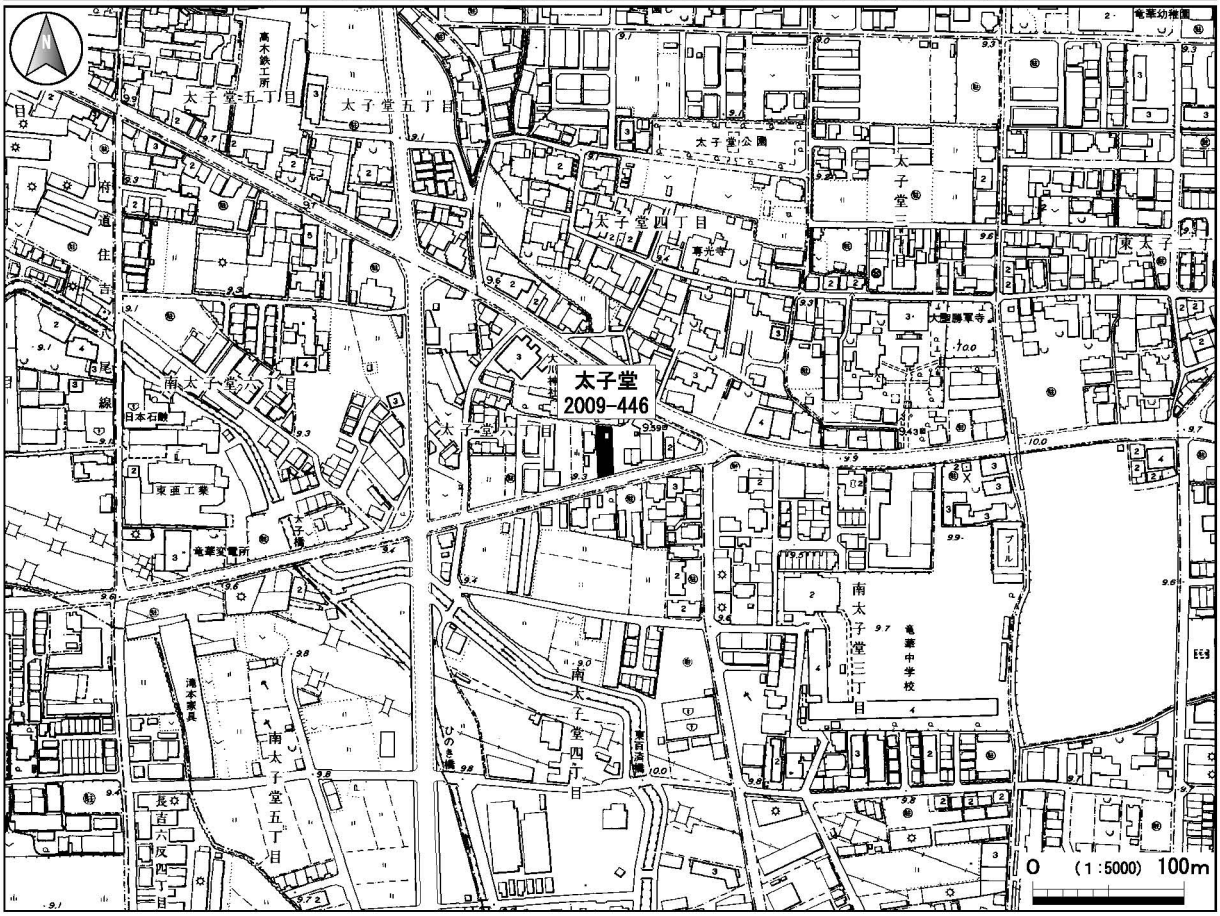
第３図


木の本
2009-347
1区
2区
3区
4区
大正北小学校
北小学校
木の本一丁目
西光寺
光蓮寺
西南橋
東南橋
大日鉄工
南木の本八丁目
谷町線車庫
若林町一丁目
大阪印刷団地協同組合
太田新町一丁目
0 (1:5000) 100m

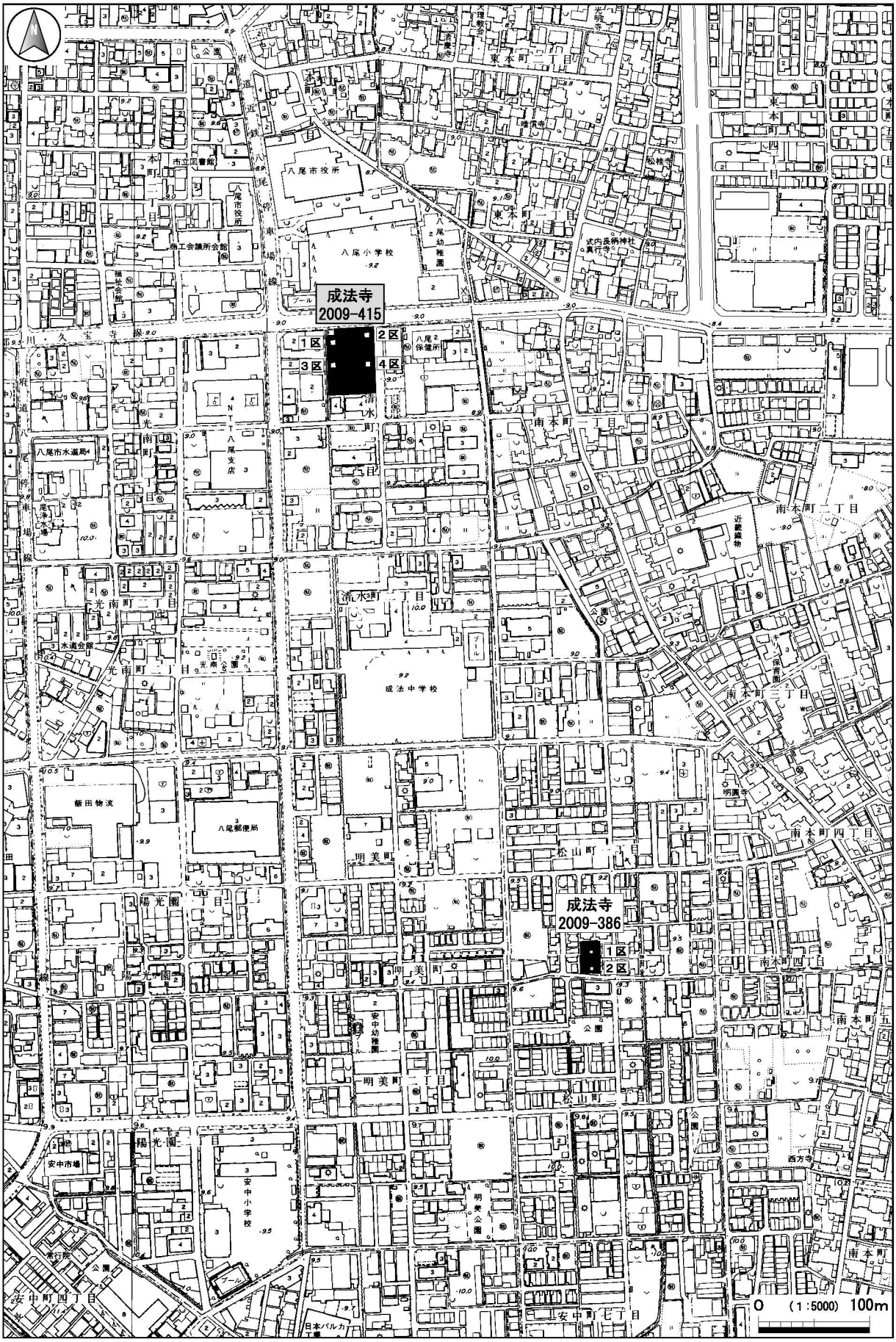

郡川
2009-389
郡川五丁目
総池
郡川会館
郡川四丁目
誕生総池
郡川六丁目
光明寺南墓地
服部川九丁目
黒谷一丁目
黒谷二丁目
重頭池
魚谷会館
信貴山口駅
天理教
0 (1:5000) 100m

第４図

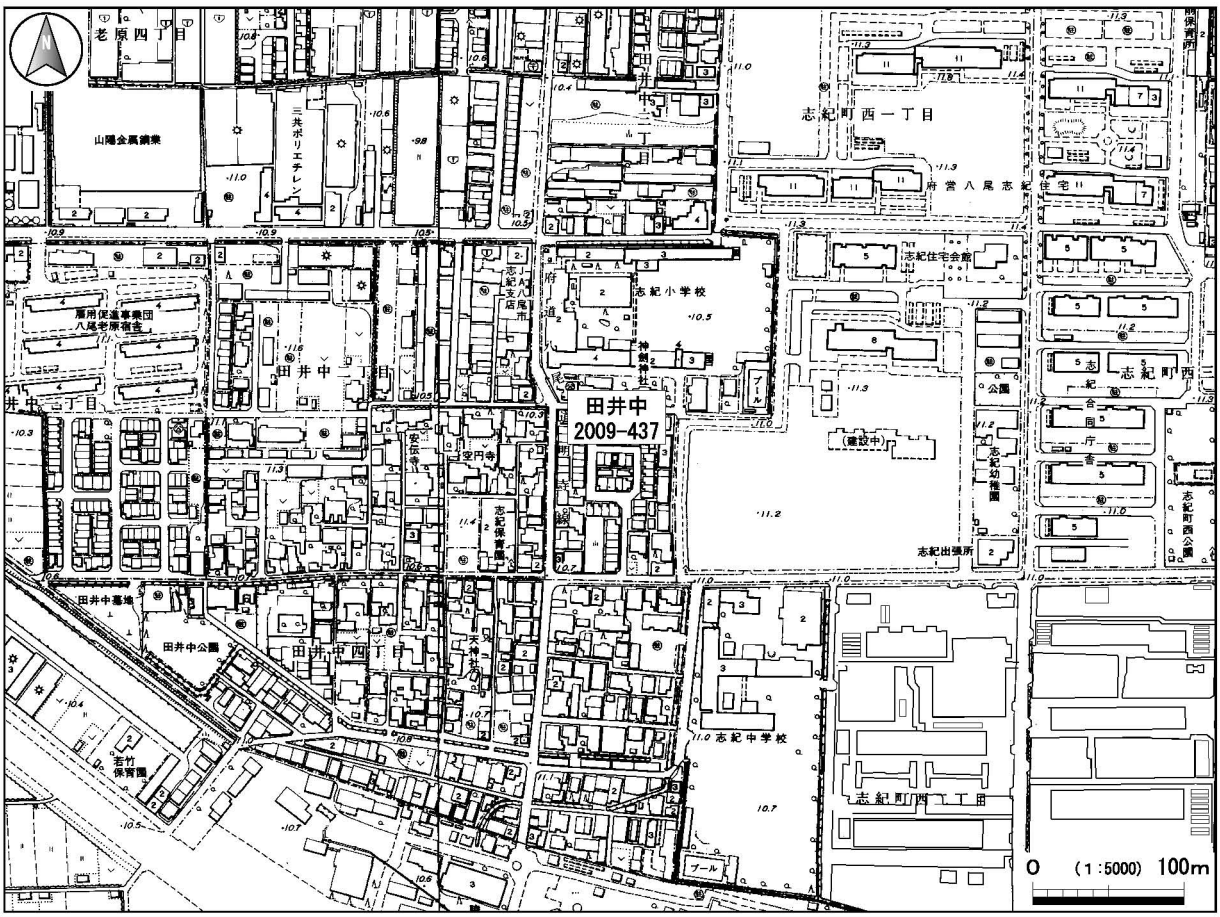

小阪合
2009-419
1区 2区
高美町二丁目
高美町三丁目
高美小学校
青山町四丁目
青山町五丁目
中田一丁目
中田三丁目
中田四丁目
中田五丁目
八尾税務署
吉川倉庫
尾市
0 (1:5000) 100m

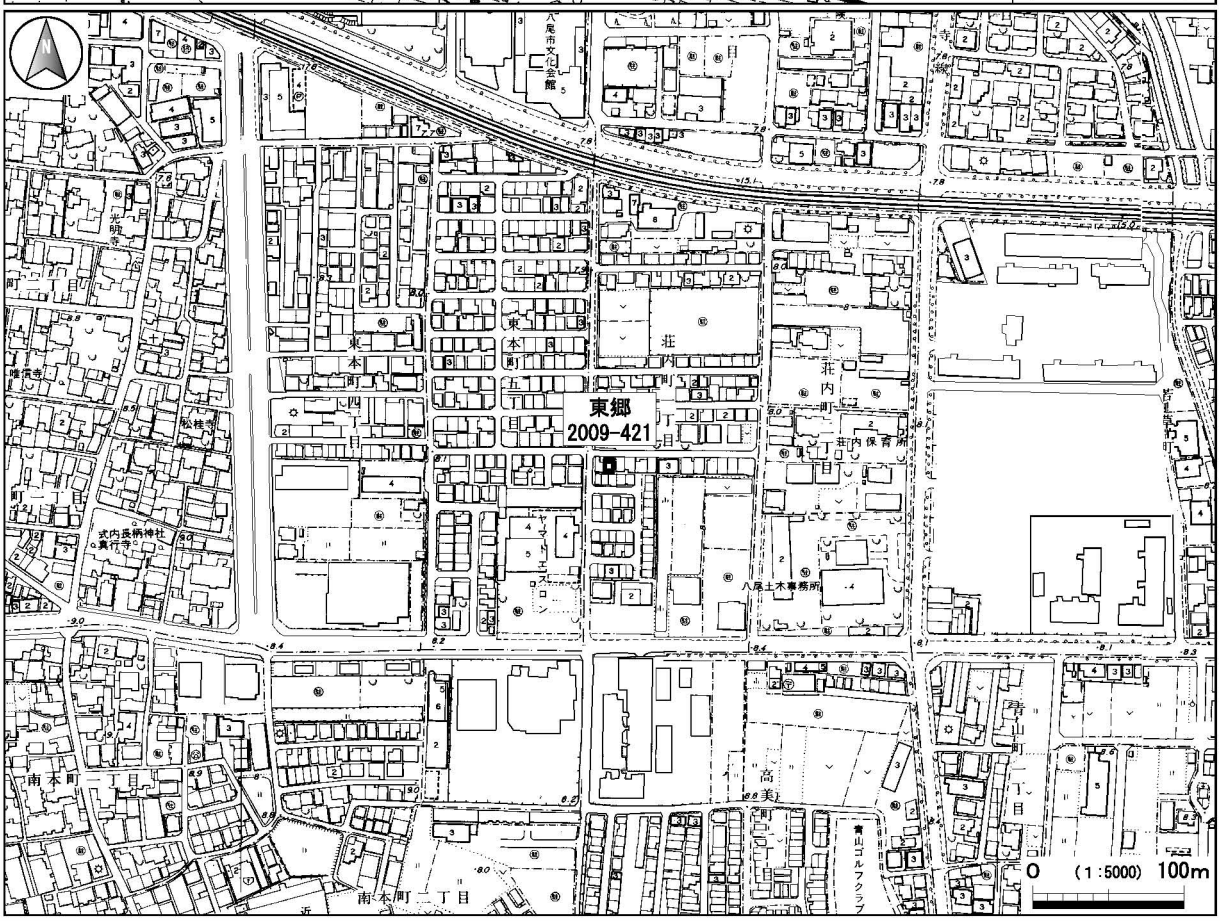

太子堂
2009-446
太子堂五丁目
太子堂四丁目
南太子堂三丁目
南太子堂四丁目
南太子堂五丁目
日本石鹸
東亜工業
竜華中学校
0 (1:5000) 100m

第５図

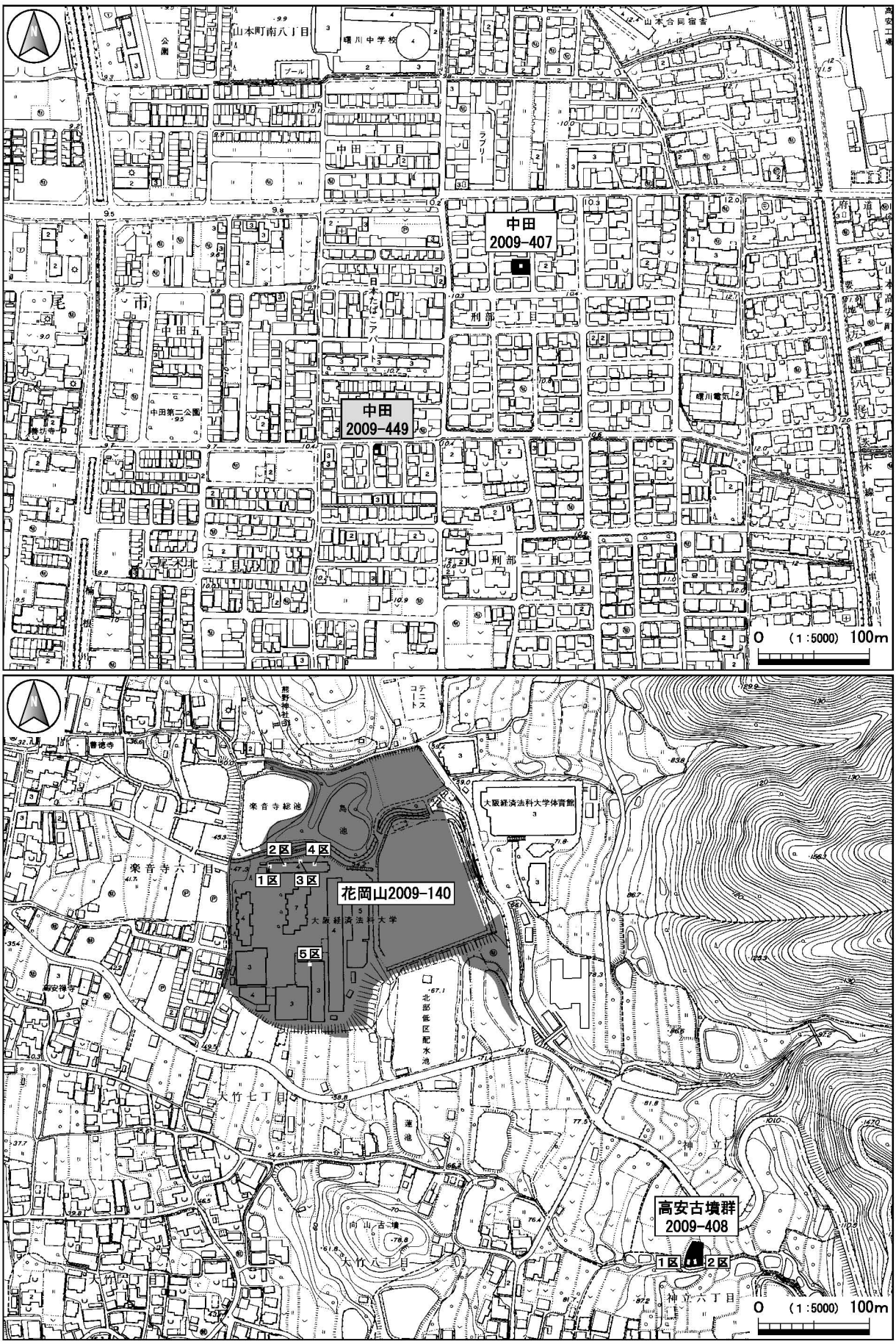

成法寺
2009-415
1区
2区
3区
4区
成法寺
2009-386
1区
2区
八尾市役所
八尾小学校
八尾市水道局
成法中学校
飯田物流
八尾郵便局
安中小学校
安中市場
明美公園
0 (1:5000) 100m

第６図


老原四丁目
山陽金属鋳業
三共ポリエチレン
志紀町西一丁目
府営八尾志紀住宅
志紀住宅会館
志紀小学校
田井中
2009-437
田井中一丁目
田井中四丁目
田井中墓地
田井中公園
志紀保育園
志紀幼稚園
志紀出張所
志紀町西公園
志紀中学校
志紀町西一丁目
若竹保育園
0 (1:5000) 100m

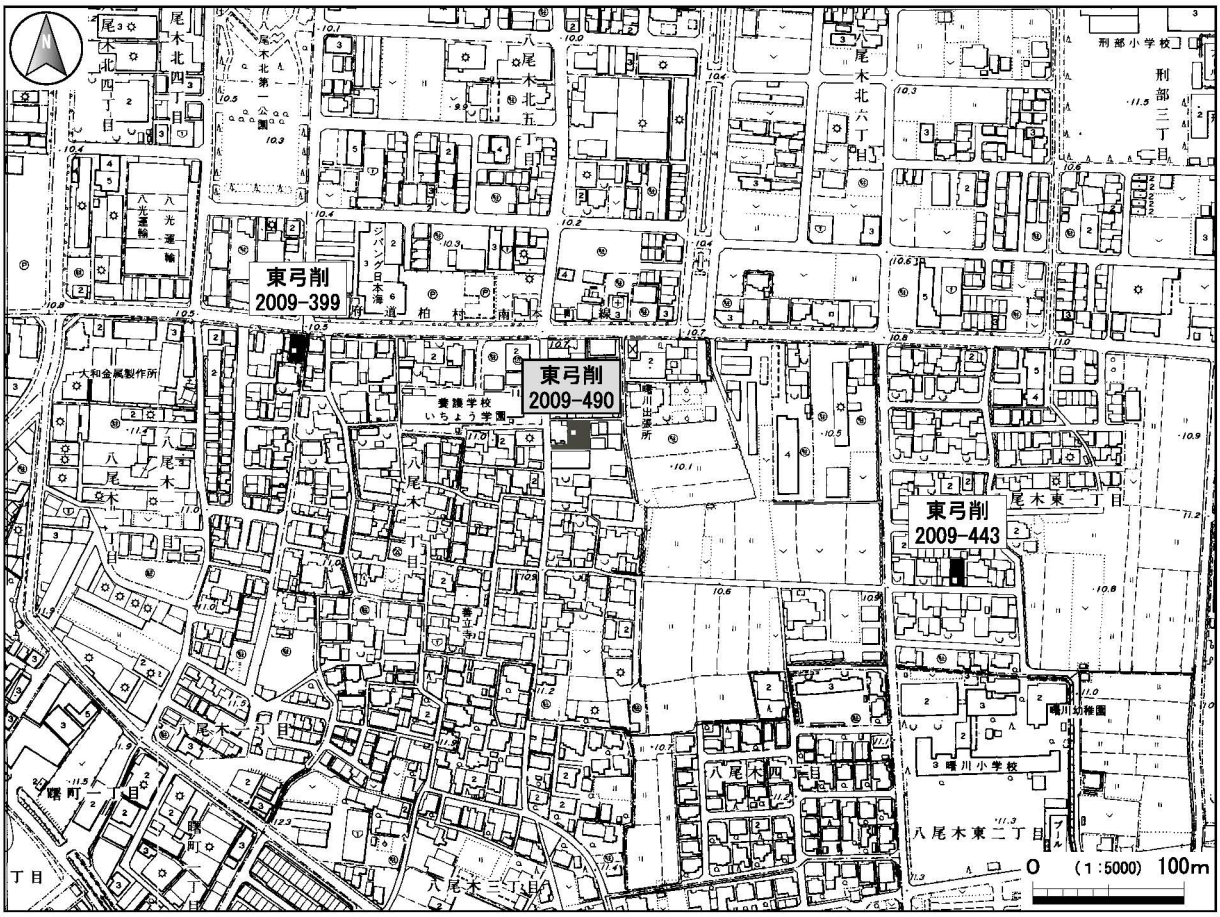

八尾市文化会館
東郷
2009-421
東本町四丁目
東本町五丁目
荘内町
荘内保育所
八尾土木事務所
式内長柄神社
真行寺
南本町一丁目
南本町二丁目
青山ゴルフクラブ
0 (1:5000) 100m

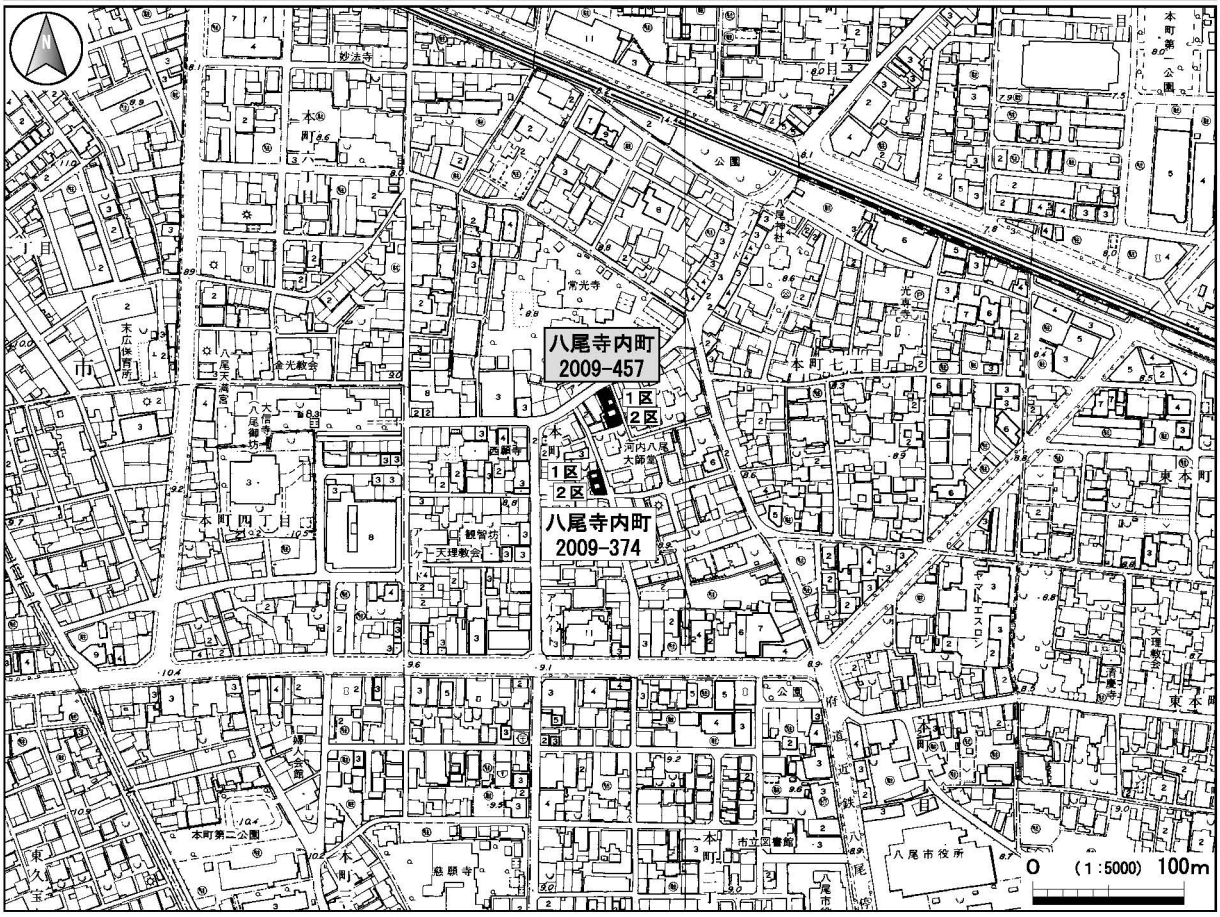
第７図



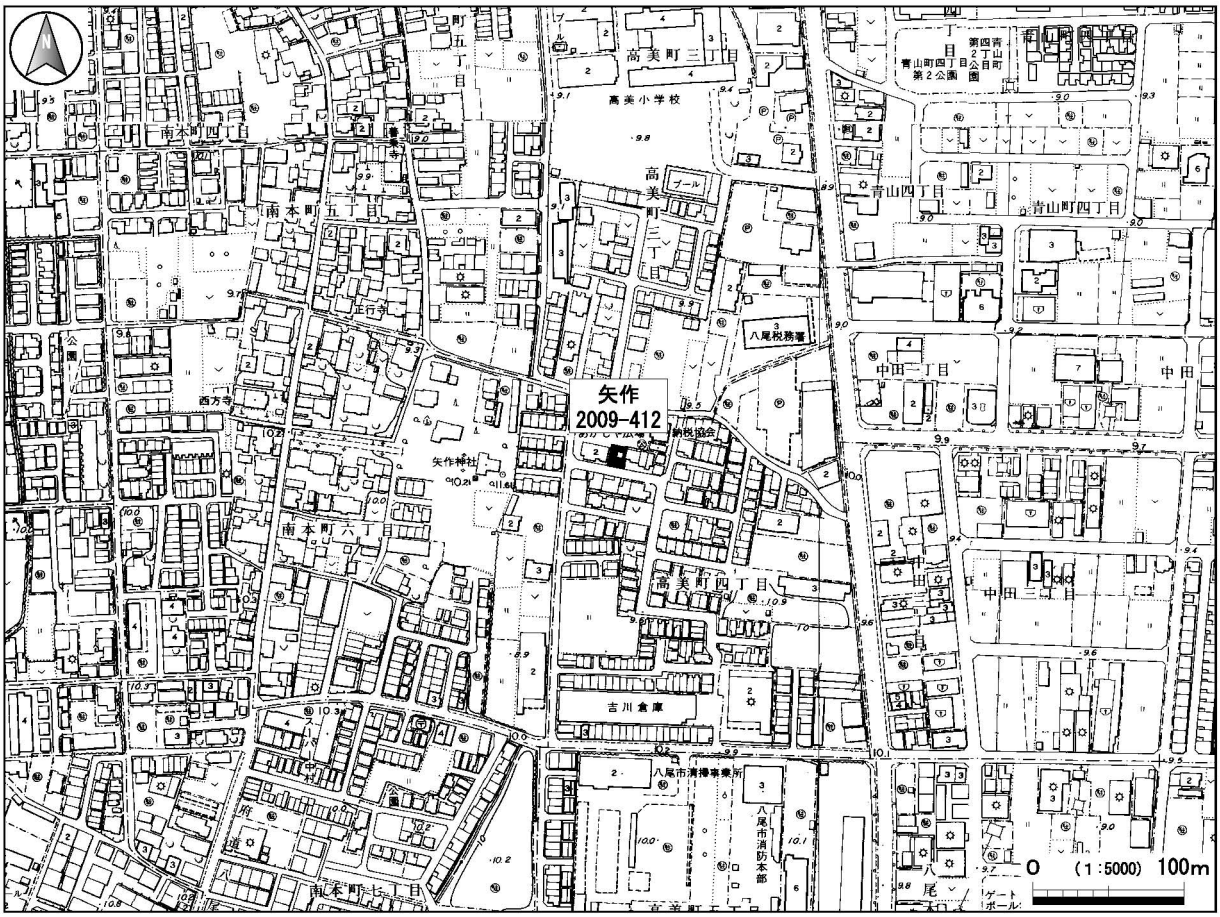
中田
2009-407
中田
2009-449
山本町南八丁目
曙川中学校
中田二丁目
ラブリー
尾市
中田五丁目
中田第二公園
日本たばこアパート
刑部一丁目
曙川電気
八尾木北二丁目
刑部二丁目
0 (1:5000) 100m
花岡山2009-140
1区
2区
3区
4区
5区
楽音寺総池
島池
大阪経済法科大学体育館
大阪経済法科大学
北部低区配水池
高安古墳群
2009-408
1区
2区
大竹七丁目
大竹八丁目
神立六丁目
0 (1:5000) 100m


第８図


東弓削
2009-399
東弓削
2009-490
東弓削
2009-443
0 (1:5000) 100m


八尾寺内町
2009-457
1区
2区
1区
2区
八尾寺内町
2009-374
0 (1:5000) 100m

第９図


矢作
2009-412
高美小学校
高美町三丁目
南本町五丁目
南本町六丁目
南本町七丁目
高美町四丁目
青山四丁目
青山町四丁目
中田三丁目
中田
八尾税務署
納税協会
矢作神社
吉川倉庫
八尾市清掃事業所
八尾市消防本部
西方寺
0 (1:5000) 100m

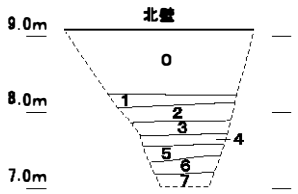
第10図

## ３．市内遺跡発掘調査報告

### １）跡部遺跡(2009-356)の調査

**（１）調査地**：春日町４丁目11番12の一部(**第１図参照**)

**（２）調査概要**：平面規模約2.5×1.5m、面積約3.75㎡１ヶ所を、現地表(T.P.+9.1m)下2.0m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市街区補助点4Ｂ122(調査地東部：T.P.+9.269m)である。




０：盛土層
１：暗オリーブ灰色極細粒砂混シルト質粘土(旧作土層)
２：緑灰色極細粒砂～細粒砂混シルト質粘土
３：灰オリーブ色極細粒砂～細粒砂混シルト質粘土(Fe斑)
４：にぶい黄色細粒砂～中粒砂混粘土質シルト(Fe斑・Mn斑)
５：にぶい黄橙色極細粒砂～細粒砂混粘土質シルト(Fe斑多・Mn斑多)
６：褐灰色極細粒砂～細粒砂混シルト質粘土(Fe斑)
７：灰色極細粒砂シルト質粘土(炭)

第11図　断面図（Ｓ＝１/100）

**【地層】**０層は客土・盛土層。以下現地表下2.0m前後までの2.0m間において７層の基本層序を確認した。１層(T.P.+8.1～8.2m)は旧作土層。２・３層(T.P.+7.7～8.1m)は撹拌の著しい作土層で、時期は中世～近世であろう。４～６層(T.P.+7.2～7.7m)は鉄分斑やマンガン斑を多く含む土壌化層で、淘汰不良の層相である。作土層と考えられるが詳細は不明である。７層(T.P.+7.2m以下)は古墳時代前期の遺物包含層で、炭を含んでおり遺構埋土の可能性もある。

**【検出遺構】**なし。

**【出土遺物】**３層から時期不明の土師器片が数点出土したほか、７層からは古墳時代前期(布留式期)頃までの土器片が少量出土した。

**（３）まとめ**：調査では周辺の調査地と同様、古墳時代前期頃の遺物包含層が検出され、遺構埋土の可能性もあり、当地が当該期の集落域に含まれていることを確認した。

**【参考文献】**

・原田昌則2004「Ⅱ跡部遺跡第23次調査（AT96-23)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告81』(財)八尾市文化財調査研究会

## ２） 跡部遺跡(2009-431)の調査

（１）**調査地**：跡部本町四丁目59（第１図参照）

（２）**調査概要**：平面規模約3.5×3.5m、面積約12.25㎡７ヶ所(総面積約85.75㎡)について、現地表(T.P.+9.5～10.0m)下3.0m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市街区多角補助点2A166(調査地北西：T.P.+9.411m)である。

**【地層】**現地表下0.6～1.0m前後までは客土・盛土層及び撹乱、以下現地表下2.2～3.0mまでで10層の基本層序を確認した。１層は旧作土層(T.P.+9.0m前後)である。２層は床土層である。３～７層は褐色～灰褐色系のシルト層からなり、５区では島畠の基盤層になる。北部に位置する１～３区では４～７層上面から切り込む遺構を確認している。また、７層は奈良時代の遺物包含層である。８～10層は河川堆積層で、この内８層上面を基盤層とする遺構を確認した。10層は河川堆積層である。３区では層厚1.0m以上を確認した。

**【検出遺構】１区**：４層上面(T.P.+8.7m前後)の壁面で遺構**ＳＫ101**を検出した。詳細は不明、幅0.3m・深さ0.2m、埋土は①炭混じり淡褐色砂質シルト。６層上面(T.P.+8.2m前後)で土坑**ＳＫ111**・溝**ＳＤ111**を検出した。**ＳＫ111**は東西に長い楕円形、長径0.8m・短径0.5m・深さ0.2m、埋土は灰色粘土。**ＳＤ111**は東西に伸び、幅1.8m・深さ0.4m、埋土は②灰色シルト～粗粒砂の互層。７層上面(T.P.+8.0m前後)で溝**ＳＤ112**・**ＳＤ113**を検出した。**ＳＤ112**は東西に伸び、幅0.5m・深さ0.15m・検出長3.0m、埋土は④灰色極細粒砂混粘土質シルトで、内部から土師器皿・杯・甕・須恵器杯等が出土。**ＳＤ113**は東西に伸び、幅0.9m・深さ0.3m、埋土は③灰色シルト～極細粒砂の互層・④灰色極細粒砂混粘土質シルトで、内部から土師器杯・皿・小型高杯１・製塩土器の可能性のある粗製鉢・須恵器片等が出土。８層上面(T.P.+7.7m前後)で土坑**ＳＫ121**・溝**ＳＤ121**を検出した。**ＳＫ121**は北西―南東に長い隅丸方形、長辺1.0m・短辺0.75m・深さ0.3m、埋土は⑥炭混じり暗灰色極細粒砂で、上部には炭が厚く堆積している。内部から土師器皿・杯・甕・粗製甕２・須恵器杯３・４・スサ等が出土。**ＳＤ121**は東西に伸びる、幅0.4m・深さ0.15m・検出長1.3m、埋土は⑤灰色粘土で、土師器杯・黒色土器Ａ類が出土。７層からは竈５・土師器杯６～10・甕11・須恵器杯12が出土。

**２区**：５層上面(T.P.+8.3m前後)で溝**ＳＤ211**を検出した。**ＳＤ211**は東西に伸び、幅2.0m以上・深さ0.6m、埋土は⑦灰色シルト～粗粒砂の互層・⑧灰色シルト～極細粒砂の互層。８層上面(T.P.+8.0m前後)では溝**ＳＤ221～223**を検出した。**ＳＤ221**はほぼ南北に伸び、幅1.2m・深さ0.3m、埋土は⑨灰色粘土で、土師器杯13・甕・須恵器等が出土。**ＳＤ222**は南北に伸び、幅0.35m・深さ0.15m・検出長0.75m、埋土は⑨灰色粘土。**ＳＤ223**は南北に伸び、幅0.2m・深さ0.15m・検出長1.0m、埋土は⑨灰色粘土、古墳時代の須恵器杯が出土。

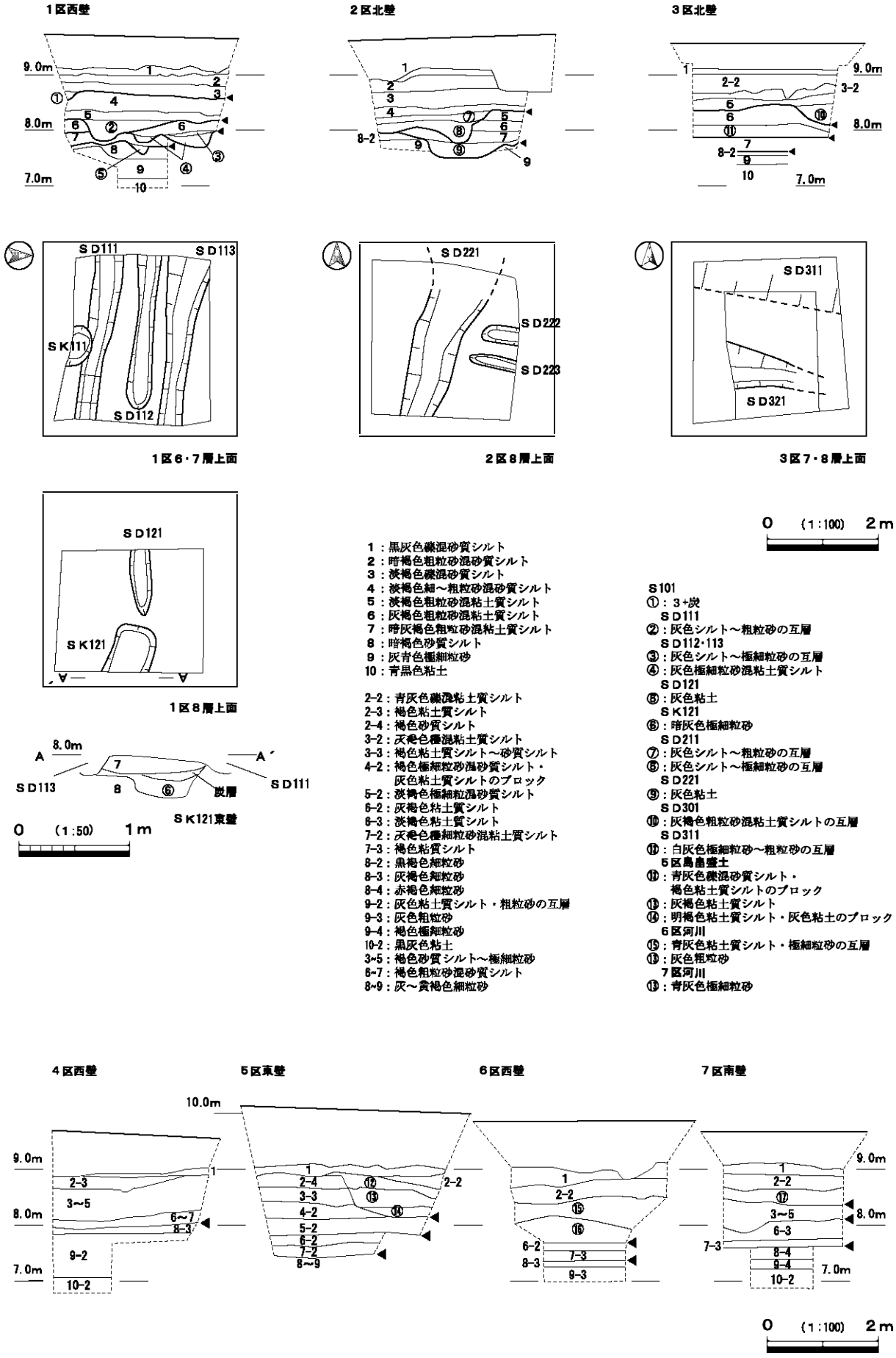
**３区**：６層上面(T.P.+8.5m前後)で溝**ＳＤ301**を検出した。**ＳＤ301**は北東―南西に伸び、幅1.0m以上・深さ0.4m、埋土は⑩灰褐色粗砂・粘土質シルトの互層。７層上面(T.P.+7.9m前後)で溝**ＳＤ311**を検出した。**ＳＤ311**は東西からやや南に振る、幅1.4m以上・深さ0.2m、埋土は⑪白灰色極細粒砂～粗粒砂の互層。８層上面(T.P.+7.6m前後)で溝**ＳＤ321**を検出した。**ＳＤ321**は東西からやや南に振り、幅0.8m・深さ0.3m、埋土は⑨灰色粘土。７層からは奈良時代の土師器杯14・甕のほか、須恵器が極少量出土。

**４区・５区**：検出遺構は無し。４区の６～７層から土師器・須恵器の小片が出土。

**６区**：2-2層直下(T.P.+ 8.4m)で、東西に伸びる河川流路を検出、深さは0.8m、6-2層まで切り込んでいる。埋土は⑮青灰色粘土質シルト・⑮灰色粗粒砂。

**７区**：2-2層直下(T.P.+8.8m)で、東西に伸びる河川流路を検出、深さは0.3m、３層まで切り込んでいる。埋土は⑰青灰色極細粒砂。

**【出土遺物】**小型高杯１は手づくねで作られ、火を受けている。９世紀前半に出現する器形である。２


1区西壁
2区北壁
3区北壁
9.0m
8.0m
7.0m
SD111
SD113
SK111
SD112
SD221
SD222
SD223
SD311
SD321
1区6・7層上面
2区8層上面
3区7・8層上面
SD121
SK121
1区8層上面
8.0m
A
A′
SD113
SD111
炭層
SK121東壁
0 (1:50) 1m
0 (1:100) 2m
1：黒灰色礫混砂質シルト
2：暗褐色粗粒砂混砂質シルト
3：淡褐色礫混砂質シルト
4：淡褐色細～粗粒砂混砂質シルト
5：淡褐色粗粒砂混粘土質シルト
6：灰褐色粗粒砂混粘土質シルト
7：暗灰褐色粗粒砂混粘土質シルト
8：暗褐色砂質シルト
9：灰青色極細粒砂
10：青黒色粘土
2-2：青灰色礫混粘土質シルト
2-3：褐色粘土質シルト
2-4：褐色砂質シルト
3-2：灰褐色礫混粘土質シルト
3-3：褐色粘土質シルト～砂質シルト
4-2：褐色極細粒砂混砂質シルト・
灰色粘土質シルトのブロック
5-2：淡褐色極細粒混砂質シルト
6-2：灰褐色粘土質シルト
6-3：淡褐色粘土質シルト
7-2：灰褐色礫細粒砂混粘土質シルト
7-3：褐色粘質シルト
8-2：黒褐色細粒砂
8-3：灰褐色細粒砂
8-4：赤褐色細粒砂
9-2：灰色粘土質シルト・粗粒砂の互層
9-3：灰色粗粒砂
9-4：褐色極細粒砂
10-2：黒灰色粘土
3~5：褐色砂質シルト～極細粒砂
6~7：褐色粗粒砂混砂質シルト
8~9：灰～黄褐色細粒砂
S101
①：3+炭
SD111
②：灰色シルト～粗粒砂の互層
SD112・113
③：灰色シルト～極細粒砂の互層
④：灰色極細粒砂混粘土質シルト
SD121
⑤：灰色粘土
SK121
⑥：暗灰色極細粒砂
SD211
⑦：灰色シルト～粗粒砂の互層
⑧：灰色シルト～極細粒砂の互層
SD221
⑨：灰色粘土
SD301
⑩：灰褐色粗粒砂混粘土質シルトの互層
SD311
⑪：白灰色極細粒砂～粗粒砂の互層
5区島畠盛土
⑫：青灰色礫混砂質シルト・
褐色粘土質シルトのブロック
⑬：灰褐色粘土質シルト
⑭：明褐色粘土質シルト・灰色粘土のブロック
6区河川
⑮：青灰色粘土質シルト・極細粒砂の互層
⑯：灰色粗粒砂
7区河川
⑰：青灰色極細粒砂
4区西壁
5区東壁
6区西壁
7区南壁
10.0m
9.0m
8.0m
7.0m
0 (1:100) 2m

第12図　平・断面図

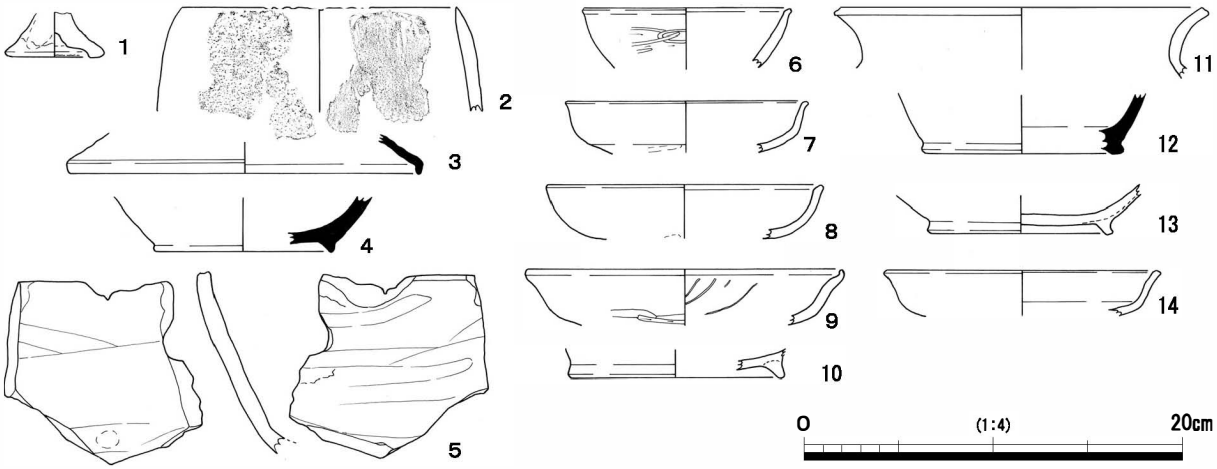
は製塩土器と考えられる粗製の鉢で、奈良～平安時代のものである。須恵器杯蓋３・杯身４は奈良時代（平城Ⅲ）までのものである。竈５は把手または焚口のひさし基部から欠損している。端部の形態や傾きなどから、８世紀（平城Ⅱ～Ⅲ）以降のものと考えられる。杯６は小型で深く、密なヘラミガキが施され、杯９は内面の暗文や口縁部の巻き込みから８世紀中頃（平城Ⅲ）以前におさまるもので、他の杯７・８・14もほぼ同時期のものであろう。杯10・13は９世紀（平城Ⅵ～Ⅶ・平安Ⅰ）以降に下るものと考えられる。

【まとめ】

今回の調査では、奈良時代～近世に至る遺構・遺物を検出した。おおむね４層は近世、５・６層は中世、７層は中世～平安時代、８層は奈良時代の遺構ベースにあたる。いずれの遺構も調査区北部に集中している。１区では奈良時代の炉址の可能性があるＳＫ121を検出したが、調査地北西部で行った既往調査でも奈良時代の井戸などが検出されており、これらとの有機的なつながりが推測できる。

**【参考文献】**

・岡田清一1993「Ⅱ　跡部遺跡（AT92-8）第8次調査」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告39』（財）八尾市文化財調査研究会




**第13図　出土遺物実測図**

**表１　出土遺物一覧**

| 番号 | 出土地 | 器　種 | | 法量（cm） | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ＳＤ113 | 土師器 | 小型高杯 | 裾　径 | 5.2 | ・手づくね・火を受ける　・９世紀前半以降 |
| 2 | ＳＤ121 | 土師器 | 粗製鉢 | 口　径 | 14.4 | ・製塩土器か |
| 3 | ＳＫ121 | 須恵器 | 杯蓋 | 口　径 | 18.3 | ・８世紀中頃以降 |
| 4 | ＳＫ121 | 須恵器 | 杯身？ | 高台径 | 9.3 | ・内面に自然釉　・９世紀中頃以前 |
| 5 | １区７層 | 土師器 | 竈 | | — | |
| 6 | １区７層 | 土師器 | 杯 | 口　径 | 10.8 | ・深い体部　・口縁部の特徴から８世紀中頃以前 |
| 7 | １区７層 | 土師器 | 杯 | 口　径 | 12.6 | |
| 8 | １区７層 | 土師器 | 杯 | 口　径 | 14.4 | ・火を受ける |
| 9 | １区７層 | 土師器 | 杯 | 口　径 | 16.5 | ・内面に放射状暗文　口縁部の特徴から８世紀中頃以前 |
| 10 | １区７層 | 土師器 | 杯 | 高台径 | 11.4 | ・火を受ける |
| 11 | １区７層 | 土師器 | 甕 | 口　径 | 19.0 | ・火を受ける |
| 12 | １区７層 | 須恵器 | 杯 | 高台径 | 10.6 | |
| 13 | ＳＤ221 | 土師器 | 杯 | 高台径 | 9.7 | ・火を受ける |
| 14 | ３区７層 | 土師器 | 杯 | 口　径 | 14.2 | ・９世紀中頃以前 |

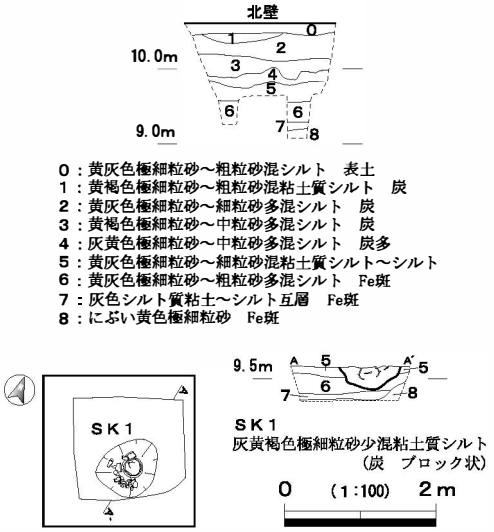
## ３）植松遺跡(2009-461)の調査

**（１）調査地**：植松町７丁目66の一部(**第２図参照**)

**（２）調査概要**：平面規模約2.0×2.0m、面積約4.0㎡１ヶ所を、現地表(T.P.+10.6m)下1.5m前後まで調査した。調査で使用した標高は、八尾市街区多角点20Ｂ83(調査地南東部：T.P.+10.399m)である。

**【地層】**０層は現表土層。以下現地表下1.5m前後までの1.4m間において８層の基本層序を確認した。１～４層(T.P.+9.8～10.5m)は締りの悪い層相で、起伏に富む。近世～近代の作土層と思われる。５層(T.P.+9.6～9.8m)は撹拌された土壌化層で、上面が１面である。６層以下(T.P.+9.6m以下)は水成層である。

**【検出遺構】**５層上面(T.P.+9.7m)で土坑１基(**ＳＫ１**)を検出した。平面形は85×70cmの不整円形を成し、深さは約30cmを測る。埋土はブロック状の単一層である。底から浮いた状態で土師器羽釜・皿、唐津焼鉢等が出土した。羽釜は底を欠く。土師器皿は南部に集中している。羽釜が正位で出土したため井戸枠の可能性も考えたが、土坑の底が８層湧水層に達しておらず、また羽釜の内・外に同一個体の唐津焼片が出土したことから、井戸ではないと判断した。時期的には出土遺物から17世紀代に比定される。



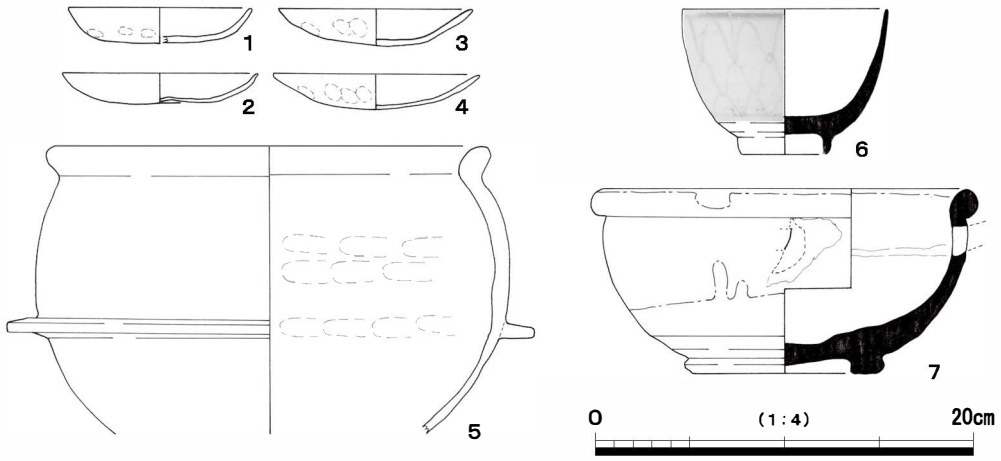

第14図　平・断面図(Ｓ＝１/100)

**【出土遺物】**１～４は土師器皿である。いずれも淡灰黄色で、口縁部が内湾する１・２と、直線的に開く３・４がある。５は土師器羽釜で、体部のやや下位に水平な短い鍔を巡らせる。鍔下面以下は煤けており、底部は欠損している。土圧により歪んでいる。６は肥前系磁器碗で、外面に一重網目文を描く。底部付近は断面が淡赤色を呈し、焼成不良と思われる。高台畳付き露胎。７は唐津焼片口鉢である。調整は高台脇のみ回転ヘラケズリを施し、他は回転ナデである。口縁端部・底体部外面は露胎。

**（３）まとめ**：調査では近世の遺構を確認した。17世紀代に比定されるもので、遺構検出の際にも17世紀代の伊万里焼碗が出土している。当地は奈良街道沿いに位置しており、宝永元年(1704)の大和川付け替え以前から近世集落が成立していたことが確認された。

**【参考文献】**

・西村公助2007「Ⅰ　植松遺跡（第９次調査)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告99』(財)八尾市文化財調査研究会




第15図　出土遺物実測図

## ４）萱振遺跡(2009－409)の調査

（１）**調査地**：萱振町６丁目53番の一部(第３図参照)

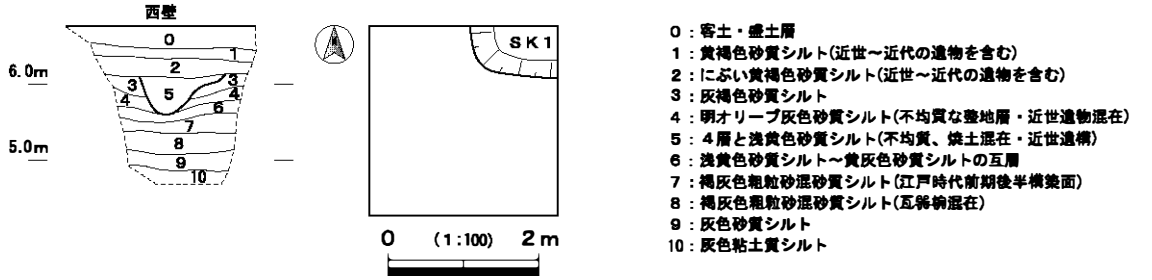
（２）**調査概要**：平面規模2.5×2.5m、面積6.25㎡１ヶ所を、現地表(T.P.+6.75m前後)下2.0m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市街区補助点3B143(調査地西方：T.P.+5.998m)である。

**【地層】**現地表(T.P.+6.75m前後)下0.3mは客土・盛土層である。以下現地表下2.0m前後において10層の基本層序を確認した。１・２層は近世～近代の遺物包含層である。３層は砂質シルト層で、上面を構築面とする近世後半の遺構(５層)が認められる。４・６層は共に近世遺物を含む不均質な層相で、整地層と考えられる。６層からは江戸時代前期後半以降の肥前系磁器碗、京焼碗が出土した。７層は砂質シルト層で、上面において土坑を１基(ＳＫ１)検出した。８層は砂質シルト層で、瓦器椀が極少量混在していた。９層は砂質シルト。10層は水成層である。

**【検出遺構・出土遺物】**７層上面(T.P.+5.5m)で土坑を１基(ＳＫ１)検出した。ＳＫ１は調査区北東隅で検出した。北・東側は調査区外に至る。検出部分で東西幅1.16m、南北幅0.65m、深さ0.3mを測る。埋土は炭が混在する砂質シルトで、肥前系磁器碗、京焼碗、備前擂鉢等が出土した。この内図化できたのは１～７である。１は肥前系染付け碗である。外面に草花文を描く。17世紀後半。２～４は京焼丸碗である。２が約1/2、３・４が体部下位から底部が残存している。２の体部外面に楼閣山水文が描かれている。底部裏面には、２に「木下弥」、３に記号文＋銘不明、４に「中村金」の印銘が認められる。そのうち２の「木下弥」については、鍋島藩窯出土遺物に認められるため、肥前産の京焼風陶器である。５は肥前産の三島手の大鉢である。６は備前焼擂鉢である。摺り目は７本を一単位とする。乗岡実氏分類の近世２期(17世紀第２～３四半期)に比定される。７は備前焼壷の底部である。

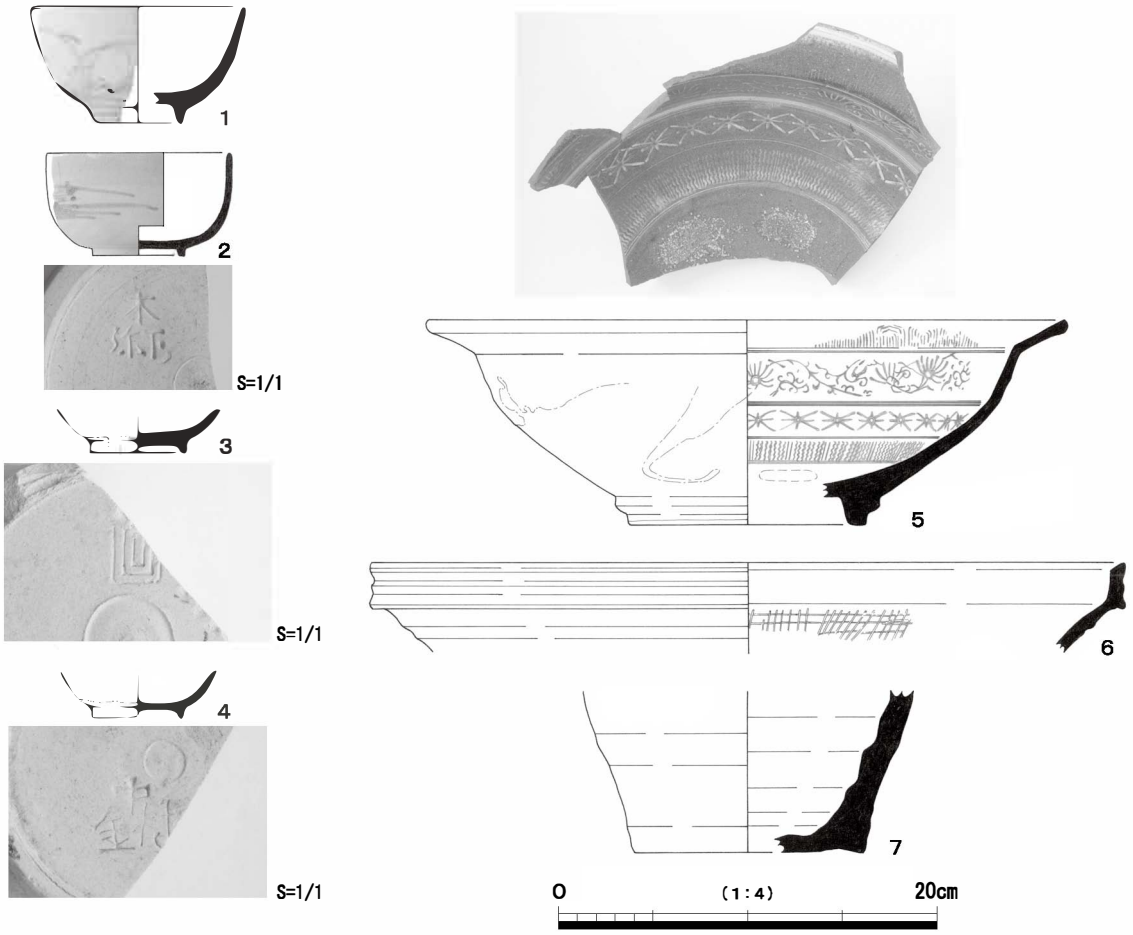
（３）**まとめ**：萱振寺内町は、文明二年(1470)に本願寺八世法主蓮如上人が河内布教後に門徒の要請にこたえて建立された恵光寺を中心とする寺内町である。明治十四年(1881)以前に描かれた「堺県下河内国第二大区四小区若江郡萱振村 地引図」には、現状と同様の集落域を囲繞する環濠が認められる。これ以前の寺内町を描いた絵図は、平成21年度に公開された享和二年(1802)の「萱振村絵図」がある。この絵図では、河内街道を挟んで恵光寺を含む三箇所の寺院を中心とし、東・西・北側に環濠が描かれており、この時点では南側に環濠が設けられていないことが窺がえる。

今回の調査地点は恵光寺の北に隣接する位置にあたり、７層上面で検出したＳＫ１から高台裏面に「木下弥」「中村金」の銘を持つ17世紀後半に比定される肥前産の京焼碗が出土している。７層上面の検出遺構は、「萱振村絵図」が描かれる100年以上前の遺構で、上部には焼土を含む整地層(４・６層)が見られるため、この両層の上面が「萱振村絵図」に描かれた享和二年(1802)に対応するものと推定される。




第16図　平・断面図(Ｓ＝１/100)

【参考文献】
・角谷江都子1992「肥前京焼風陶器と京焼ー新島会館地点資料を中心としてー」『関西近世考古学研究Ⅲ』関西近世考古学研究会
・乗岡　実1999「近世備前焼の擂鉢」『関西近世考古学研究Ⅶ』関西近世考古学研究会
・小谷利明2009『特別展　やお　まち　発見　八尾の寺内町ー久宝寺・萱振・八尾ー』八尾市立歴史民俗資料館




第17図　出土遺物実測図

## ５）小阪合遺跡(2009-419)の調査

（１）**調査地**：青山町４丁目247番(第５図参照)

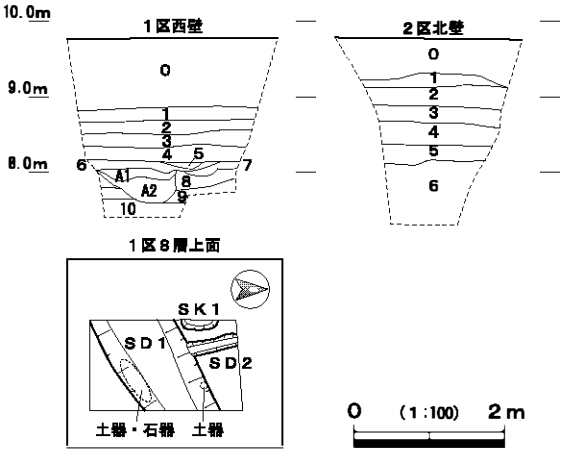
（２）**調査概要**：平面規模約2.5×2.5m、面積約6.25㎡２ヶ所(総面積約12.5㎡)について、現地表(T.P.+9.8m)下2.5m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市街区多角補助点1A235(調査地南東部：T.P.+9.624m)である。

**【地層】**

０層は客土・盛土層。以下現地表下2.5m前後までの1.4～1.9m間において、１区で10層、２区で６層の基本層序を確認した。

１区－１層は旧作土層(T.P.+8.7～8.8m)。２・３層(T.P.+8.3～8.7m)は中～近世の作土層であろう。４層(T.P.+8.1～8.3m)は古墳時代前期の遺物を含むが、作土層の可能性もある。５層(T.P.+8.1m)は砂礫層で、西部の一部で見られた。一時的な洪水の痕跡かもしれない。６・７層(T.P.+8.0～8.1m)は撹拌された土壌化層である。古墳時代初頭後半～前期前半(庄内式期新相～布留式期古相)の土器を含む。８層以下(T.P.+8.0m以下)は水成層で、上面で古墳時代初頭(庄内式期新相)の遺構を検出した。

２区－１層は旧作土層(T.P.+9.1～9.3m)。２・３層(T.P.+8.6～9.1m)は中～近世の作土層であろう。４・５層(T.P.+8.1～8.6m)はブロック層、６層(T.P.+8.1m以下)もややブロック状を呈している。５・６層からは瓦器椀の細片が出土した。４～６層は中世以降の大規模な埋め立て(池等)に伴う層と考えられる。




１区
０：盛土
１：暗オリーブ灰色極細粒砂～粗粒砂混シルト質粘土　旧作土層
２：緑灰色細粒砂～粗粒砂多混粘土質シルト
３：灰黄褐色細粒砂～粗粒砂混粘土質シルト　Fe斑多　Mn斑多
４：灰黄褐色細粒砂～粗粒砂多混シルト　Fe斑多　Mn斑多
５：暗オリーブ灰色シルト質粘土混細粒砂～細礫
６：暗灰黄色細粒砂～粗粒砂混シルト質粘土　Fe斑
７：暗灰黄色細粒砂～粗粒砂混粘土質シルト
８：にぶい黄色シルト質粘土
９：オリーブ灰色シルト混細粒砂～粗粒砂
10：暗青灰色粘土

ＳＤ１
A1：黄灰色細粒砂～粗粒砂混シルト質粘土　ブロック状
A2：灰色細粒砂～中粒砂混粘土

２区
０：盛土
１：暗オリーブ灰色極細粒砂～粗粒砂混シルト質粘土　旧作土層
２：にぶい黄橙色細粒砂～粗粒砂混粘土質シルト
３：灰黄褐色細粒砂～粗粒砂混シルト
４：暗灰黄色細粒砂～粗粒砂混シルト質粘土ブロック　Fe斑多
５：黄灰色細粒砂～粗粒砂混粘土質シルト　ブロック状
６：暗オリーブ灰色細粒砂～粗粒砂混粘土～粘土質シルト

第18図　平・断面図(Ｓ＝１/100)

**【検出遺構】**１区８層上面(T.P.+8.0～8.1m)で溝２条(ＳＤ１・２)、土坑１基(ＳＫ１)を検出した。ＳＤ１は北東－南西方向に延び、幅約1.0m・深さ約40cmで、断面逆台形を呈する。埋土は２層から成るが、上位にあたる西壁６層が溝の最上層の可能性がある。上層から古墳時代初頭(庄内式期新相)の甕・高杯・小形器台等の他、石器が出土した。ＳＤ２は南北方向に延び、南部でＳＤ１に接続する。幅約20cm・深さ約18cmを測る。遺物は出土していない。ＳＫ１は北西部に位置し西に続く。南北約50cm・深さ約10cmで、埋土は西壁７層である。遺物は出土していない。

**【出土遺物】**１区ＳＤ１－１～４は土師器である。１は小形器台で、調整はヘラミガキで、四方孔を有する。２・３は椀形高杯で、ヘラミガキを多用し、杯部内面には斜放射状に施す。４は布留式影響の甕で、体部最上位には縦方向の平行タタキを施す。５は敲き石、６は磨り石である。共に砂岩製で、一端に使用痕が認められる。

１区６・７層－７は有稜高杯で稜上辺には明瞭な沈線が生じている。８・９はＶ様式系甕で、外面のタタキは口縁部中位まで及んでいる。10は小形の高杯あるいは器台と思われ、搬入品であろう。杯部は

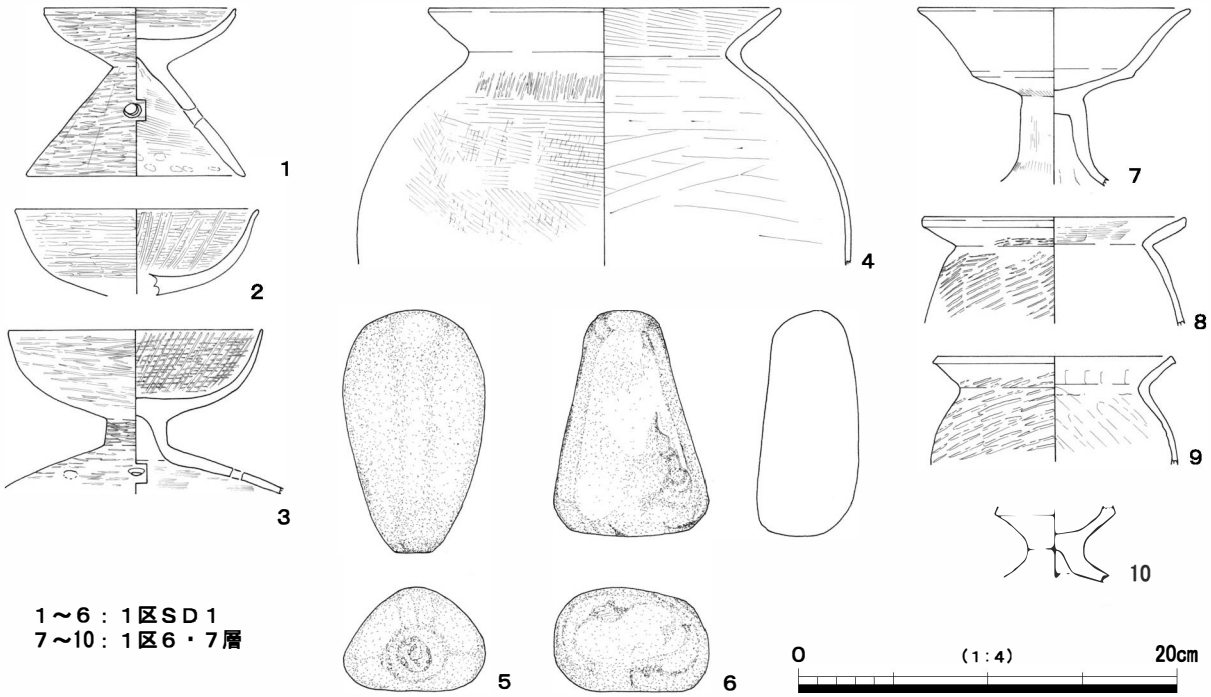
明瞭な稜から口縁部が上方に伸びると考えられる。

**（3）まとめ：**

調査では西の１区で古墳時代初頭(庄内式期新相)の遺構を検出し、北部・東部で確認している当該期の集落域の広がりを確認した。東の２区では中世以降の地層が深くまで及んでおり、遺構面は削平されているようである。

**【参考文献】**

・高萩千秋1988『小阪合遺跡－八尾都市計画事業南小坂合土地区画整理事業に伴う発掘調査－<昭和59年度第４次調査報告書>(財)八尾市文化財調査研究会報告15』(財)八尾市文化財調査研究会




第19図　出土遺物実測図

## ６）成法寺遺跡(2009-415)の調査

（１）**調査地**：清水町１丁目９番１、９番３（**第６図参照**）

（２）**調査概要**：平面規模約3.5×3.5m、面積約12.25㎡４ヶ所(総面積約49.0㎡)について、現地表(T.P.+9.1m)下3.0～3.4m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市街区多角点10Ｃ59(調査地北東部：T.P.+8.980m)である。

**【地層】**０層は既設建物築造・解体時の撹乱層。以下現地表下3.4m前後までの2.0m間において８層の基本層序を確認した。概ね上層から、中～近世の作土層(１～４層：T.P.+7.0～8.0m)、水成層(5A～5F層：T.P.+6.7～7.3m)、土壌化層(６・７層：T.P.+6.5～7.1m)、水成層(8A～8J層：T.P.+6.5～6.75m以下)となる。２・４区１～３層(T.P.+7.2～8.0m)は撹拌の著しい作土層である。２区４層(T.P.+7.0～7.3m)は淘汰不良で、２区で見られなかった５層を撹拌した作土層であろう。５層は粘土～シルト優勢の水成層で、４区5A層のシルト～細粒砂は一時の流路と思われる。６・７層はやや撹拌が認められ暗色を呈する土壌化層である。時期は古墳～飛鳥時代と考えられる。８層は水成層である。

**【検出遺構・出土遺物】**検出遺構はなし。出土遺物は以下の通りである。

２層－２区で古代～中世頃の土師器片少量出土。

6B層－２区で古墳時代前期頃の土師器片１点、４区で飛鳥時代の土師器杯片数点出土。１は口径13.6㎝・器高約4.5㎝を測る。調整は口縁部回転ナデ、底部内面ナデ・外面ヘラケズリである。

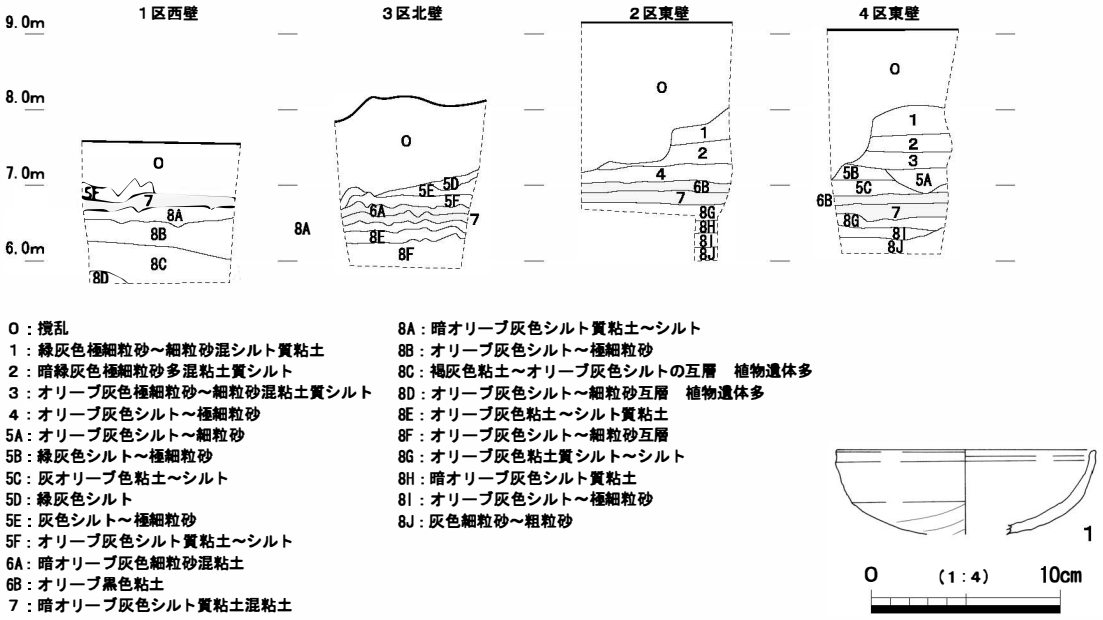
７層－４区で古墳時代前期頃の土師器片２点出土。

８層－３区でサヌカイト剥片１点出土。

（３）**まとめ**：調査では全域で中近世の作土層、古墳～飛鳥時代の土壌化層を確認し、東部の２・４区で土器が出土した。８層上面(T.P.+6.5～6.75m)が当該期の遺構面となろう。南西約100mの調査地では同レベルで古墳時代初頭の溝埋土と考えられる層位を確認している。飛鳥時代では北約150mの調査地で水田域を検出しており、また同調査では奈良時代の自然河川を検出しているが、５層の水成層はこの河川に相当すると考えられる。

**【参考文献】**

・原田昌則1999「Ⅱ　東郷遺跡第37次調査」『(財)八尾市文化財調査研究会報告64』(財)八尾市文化財調査研究会




第20図　断面図(Ｓ＝垂直１/100、水平１/200) 出土遺物実測図

## ７） 中田遺跡(2009-449)の調査

（１）**調査地**：刑部二丁目192番(**第８図参照**)

（２）**調査概要**：平面規模約2.5×2.5m、面積約6.25㎡１ヶ所について、現地表(T.P.+10.0m前後)下1.5m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市街区多角補助点1Ａ249(調査地西方：T.P.+10.431m)である。

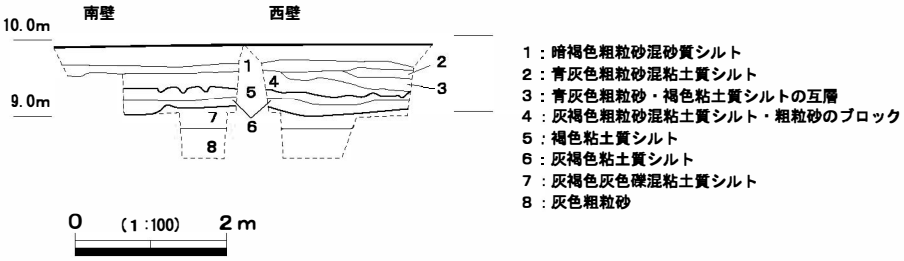
**【地層】**現地表(10.0m前後)下0.3m前後までは盛土層。 以下現地表下1.5mまでで８層の基本層序を確認した。１層は旧作土層(T.P.+9.7m前後)である。２～４層は床土層と考えられる。５層は中世頃の作土層(T.P.+9.3～9.4m)と推測される。上面で波状痕跡を確認した。６層は遺物包含層で。弥生土器が混在する。７層は弥生時代後期の遺構ベース層(T.P.+9.0～9.1m)である。８層は河川堆積層である。

**【出土遺物】**５層から土師器の極小片が極少量、６層および７層上面から、弥生時代後期末の土器が比較的まとまった状態で少量出土した。１は口径9.5cm･器高10cmを測る小型甕である。口縁部は擬口縁で、タタキの方向の変化から分割成形が観察できる。

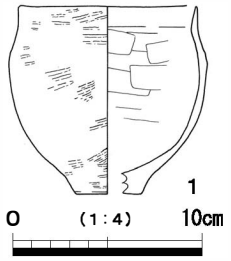
（３）**まとめ**：今回の調査では、現地表下1.0m(T.P.+9.0m)前後で、弥生時代後期末の遺構ベースや土器を検出することができた。調査地より北東300m地点に位置する第１次調査地では、弥生時代の遺構ベースは現地表下2.5m(T.P.+8.1～8.4m)程度で検出されており、北東が高く南西が低い。また、北東200地点の2009-407調査地ではT.P.+8.5m程度で弥生土器片を検出したが、遺構面に相当する地層は検出されなかった。これらのことから、第１次調査地で検出した集落と、今回検出した遺構ベースは別のグループに属するものと考えられる。

**【参考文献】**

・成海佳子1988「24.中田遺跡(第１次調査)」『八尾市文化財調査研究会年報　昭和62年度　(財)八尾市文化財調査研究会報告16』(財)八尾市文化財調査研究会




第21図　断面図




第22図　出土遺物実測図

## ８）東弓削遺跡(2009-490)の調査

（１）**調査地**：八尾木２丁目23番地・21番３・21番２の一部(**第９図参照**)

（２）**調査概要**：平面規模約2.5×2.5m、面積約6.25㎡１ヶ所について、現地表(T.P.+10.7m)下2.0m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市街区補助点10Ｅ48(調査地南東部：T.P.+11.056m)である。

**【地層】**現地表下2.0m前後までの間において10層の基本層序を確認した。１層は盛土層及び表土層。２層はシルト質土層、３層はシルト層、４層は粘土質シルト層、５層は粘質土層、６層は粘質シルト層で中世の土師器や瓦器の細片を少量含む。７層はシルト混微砂層で、この面から井戸を確認している。８層は粘質土層、９層は粘質土層、10層は細砂層で洪水層であろう。この層から地下水があった。

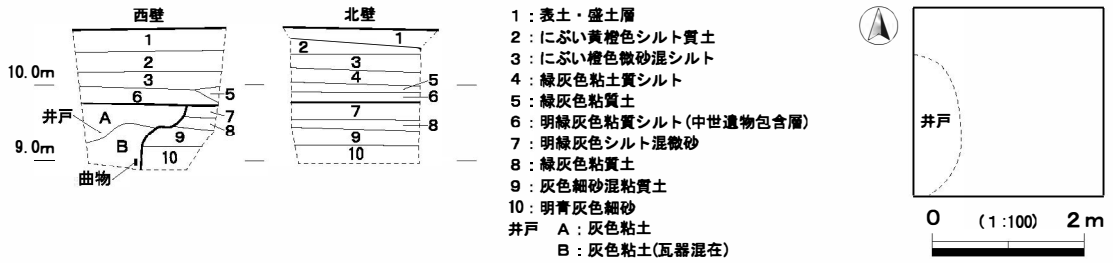
**【検出遺構・出土遺物】**

調査区の西側で井戸１基を確認した。上層にはN5/1灰色粘土、下層にはN4/1灰色粘土が堆積している。下層で曲物を検出した。井戸は10層水成層に達している。埋土から瓦器椀の破片が１点(１)出土した。１は瓦器椀である。見込みに平行線状暗文を施し、器高の低い形態で、13世紀前半に比定される。径の小さな低い高台を有するものと考えられる。

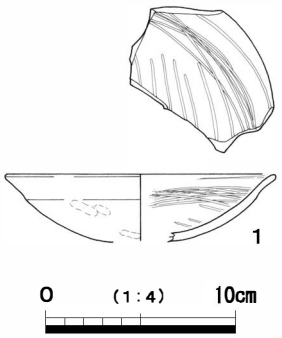
（３）**まとめ**：今回の調査では、周辺の調査で確認されている中世の遺構を検出し、集落域の広がりを確認した。

**【参考文献】**

・成海佳子1993「ⅩⅧ　東弓削遺跡第６次調査(ＨＹ92－６)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告　八尾市文化財調査研究会報告39』(財)八尾市文化財調査研究会




第23図　平・断面図(Ｓ＝１/100)



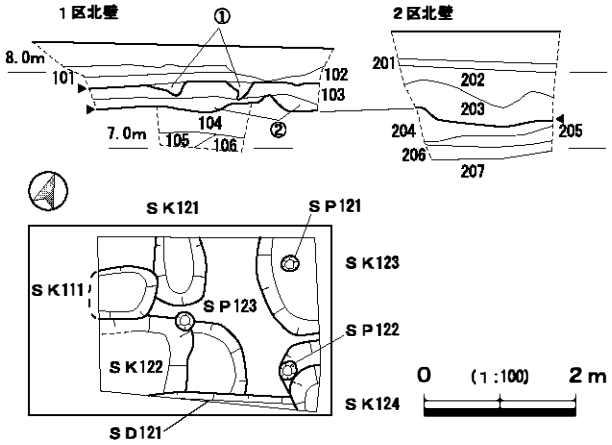

第24図　出土遺物実測図

## ９）八尾寺内町(2009-457)の調査

（１）**調査地**：本町五丁目57-2、57-3、58-7、58-8(**第９図参照**)

（２）**調査概要**：平面規模約4.0×2.5m、面積約14.0㎡１ヶ所(１区)、2.0×2.0m、面積約4.0㎡１ヶ所(２区)の計２ヶ所(総面積約18.0㎡)について、現地表(T.P.+8.5m前後)下1.7m前後までを調査した。調査で使用した標高は、八尾市街区多角点10C50(調査地西方：T.P.+8.536m)である。

**【地層】** １区・２区ともに現地表下0.5m前後までは盛土層及び撹乱である。以下の堆積状況は１区と２区では異なる。１区では砂質シルトを主とする101層～103層が堆積する。この内102・103層は焼土などを含むブロック層である。103層が近世の遺構ベース(T.P.+7.8m)である。この層上面で土坑ＳＫ111を検出した。104層は中世の遺構ベース層(T.P.+7.6m)である。104層上面では、土坑ＳＫ121～124、小穴３個ＳＰ121～123、溝１条ＳＤ121を検出した。104層上面検出遺構の埋土は、②茶褐色粘土混砂質シルトを主としている。以下の105層・106層は水成層である。２区では、201～207層が河川または沼沢地状の水成層である。




101：茶褐色礫混砂質シルト
102：茶褐色礫混砂質シルトに黄褐色粘土のブロック（焼土含む）
103：茶褐色礫混砂質シルト・黄褐色粘土質シルト・灰色粘土質シルトのブロック
104：黄褐色砂質シルト
105：灰色粗粒砂
106：灰色粘土質シルト
201：白灰色粗粒砂
202：茶褐色礫混砂質シルトに灰色粘土のブロック
203：暗茶褐色粗粒砂に灰色粘土質シルトのブロック
204：灰色粘土質シルト
205：灰色粘土質シルト・茶褐色粗粒砂の互層
208：灰色粘土質シルト
207：灰褐色粗粒砂
第１面遺構埋土 ①：茶褐色粘土・焼土・炭のブロック
第２面遺構埋土 ②：茶褐色粘土混砂質シルト

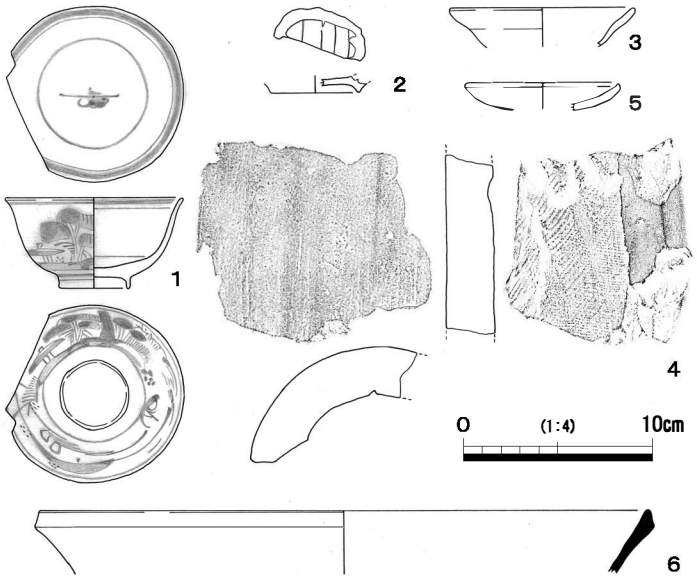
第25図　平・断面図(Ｓ＝１/100)

**【検出遺構】** ＳＫ111：隅丸方形を呈し、長辺0.9m・短辺0.7m・深さ0.85mを測る。埋土は茶褐色粗粒砂混砂質シルトで、土師器・陶磁器・平瓦等が数点出土している。このうち国産磁器碗(１)を図示した。ＳＫ121：南北に長い楕円形を呈し、南西部はＳＫ111に切られている。長辺1.0m以上・短辺0.7m・深さ0.2mを測る。内部から土師器・瓦器等の小片が出土している。ＳＫ122：東西に長い隅丸方形を呈し、東側にテラス状の段を持つ。長辺2.0m以上・短辺1.0m・深さ0.2mを測る。北側をＳＫ111・ＳＰ123・南側をＳＤ121に切られている。土師器・黒色土器Ａ類・瓦器椀(２)等の小片が出土している。ＳＫ123：長辺1.3m以上・短辺0.8m以上・深さ0.25mを測り、ＳＰ121を伴う。土師器杯(３)、瓦器椀、瓦質羽釜、丸瓦(４)等が出土している。ＳＫ124：長辺1.0m以上・短辺0.7m以上・深さ0.25mを測る。２段掘りで上段にＳＰ122を伴い、ＳＤ121を切る。土師器小皿(５)、丸瓦(６)等が出土している。ＳＰ121～123は長径0.25m・短径0.2m・深さ0.1m前後を測る。柱痕は認められない。ＳＤ121：ほぼ東西に伸び、幅0.2m以上・検出長2.2m・深さ0.1mを測る。土師器皿・瓦器椀の小片が出土した。

**【出土遺物】** １は口径9.2cmを測る小型の端反碗で、外面には船・島・木などを配した風景画を手描きし、見込みの圏線内には文が入る。形態や文様の特徴から、江戸時代末期(19世紀中頃)のものと考えられる。２は低い高台を持ち、見込みに粗い平行ヘラミガキを行う鎌倉時代後期(13世紀後半)のものである。３～６は鎌倉時代末～室町時代前期(14世紀前半頃)のものと考えられる。

（３）**まとめ**：今回の調査では、南側の１区で中・近世の遺構・遺物を検出した。北側の２区では、盛土直下で、河川・沼沢地を検出したが、このうち203層～204上面で土師器・瓦器の小片が出土したことから、204層は104層に対応するものと考えられる。平面的には表せなかったが、沼沢地と考えられる202・203層は西上がりで中央部が窪んでいることから、沼沢地は１区の西側に広がるものと考えられる。今回

の調査地から南50m地点の調査地(2009-374　第９図参照)でも同様に近世の沼沢地が検出されており、沼沢地の東限が明らかにできたと考えられる。




**第26図　出土遺物実測図**

# Ⅱ　平成22年度市内遺跡発掘調査報告

（平成22年４月～12月）

## １．平成22年度４～12月発掘調査一覧表

| 遺跡名<br>(申請番号) | 調査地 | 調査日 | 目的：対象<br>(調査原因) | 調査方法 | 面積<br>(㎡) | 調査結果 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 跡部遺跡<br>(2009-384) | 跡部本町３丁目109番 | H22年<br>４月13日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.5×2.5m－１箇所<br>現地表(T.P. +10.0m)下2.0m | 6.25 | 上層は生産域の地層と考えられる。下層は多量の地下水により詳細な調査ができなかった。 | 高萩 |
| 跡部遺跡<br>(2010-45) | 春日町２丁目７番５ | H22年<br>５月28日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.5×2.5m－１箇所<br>現地表(T.P. +9.45m)下2.0m | 6.25 | 古墳時代中期・平安～鎌倉時代の遺物を検出した。 | 成海 |
| 跡部遺跡<br>(2010-223) | 太子堂２丁目30番の一部 | H22年<br>10月７日 | 宅地・駐車場：<br>雨水貯留槽部分・雨水桝部分<br>(試掘・確認調査) | 1.5×1.5m－１箇所<br>2.5×2.5m－１箇所<br>現地表(T.P. +9.2m)下1.5～1.6m | 8.50 | 今回調査の最終深度であるT.P. ＋7.6mよりさらに下部に古　時代初頭から前期に対応する地　の存在が想定される。 | 原田 |
| 跡部遺跡<br>(2010-269) | 春日町３丁目12-１の一部、13-16の一部、13-17 | H22年<br>11月４日 | 分譲住宅：<br>人孔・管路部分<br>(試掘・確認　調) | 2.0×2.0m－５箇所<br>現地表(T.P. +9.6～9.7m)下2.0m | 20.00 | 詳細はⅡ－３－１)に記載 | 樋口 |
| 植松遺跡<br>(2010-50) | 植松町５丁目16番２ | H22年<br>５月31日 | 分譲住宅：<br>人孔・基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0m－４箇所<br>現地表(T.P. +9.8m)下2.0m | 16.00 | 当地では近世は水田であった可能性が高く、生産域として利用されていたことが判明した。 | 成海 |
| 植松遺跡<br>(2010-210) | 永畑町３-１-40 | H22年<br>９月９日 | 自走式駐車場建設：<br>基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.5×2.5m－４箇所<br>現地表(T.P. +10.8m)下2.5m | 25.00 | １・２区で平安　代以前に埋没した河川跡と考えられる砂層を確認した。 | 高萩 |
| 植松遺跡<br>(2010-265) | 植松町７丁目10番の一部 | H22年<br>11月15日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.5×2.5m－１箇所<br>現地表(T.P. +10.1～10.2m)下1.9m | 6.25 | 現地表下0.5m前後で近世の遺構、1.0m前後で古長瀬川に起因する河川埋土を検出した。。 | 成海 |
| 老原遺跡<br>(2010-164) | 老原１丁目90番11 | H22年<br>８月17日 | 分譲住宅：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0m－１箇所<br>現地表(T.P. +10.24m)下2.0m | 4.00 | ３層水田耕作土層には、土師器や瓦器が混在しており、当該期の遺構面が削平受けた可能性を示唆する成果として特筆される。 | 樋口 |
| 太田遺跡<br>(2010-220) | 太田３丁目187番 | H22年<br>10月12日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 3.0×3.0m－１箇所<br>現地表(T.P. +12.5m)下2.8m | 9.00 | ５層が古墳時代前期に対応する可能性がある。 | 原田 |
| 恩智遺跡<br>(2010-153) | 恩智中町２丁目322-6、322-7 | H22年<br>８月４日 | 個人住宅：<br>基礎・浄化槽部分<br>(記録保存調査) | 2.6×2.5m－１箇所<br>1.0×2.0m－１箇所<br>現地表(T.P. +13.1m)下2.0m | 8.25 | 詳細はⅡ－３－２)に記載 | 樋口 |
| 恩智遺跡<br>(2010-175) | 恩智中町３丁目126番6 | H22年<br>９月８日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.5×2.5m－１箇所<br>現地表(T.P. +16.7m)下0.8m | 6.25 | 詳細はⅡ－３－３)に記載 | 樋口 |
| 楽音寺遺跡<br>(2010-84) | 八尾市楽音寺１丁目61番１ | H22年<br>６月28日 | 分譲住宅：人孔・管路部分<br>(遺構確認調査) | 1.6×1.5m－１箇所<br>2.0×2.0m４箇所<br>現地表(T.P.+13.9～14.0m)下1.4～2.3m | 18.26 | 各調査区ともに、現代の整地に伴う客土・盛土層を確認したに留まった。 | 樋口 |
| 楽音寺遺跡<br>(2010-134) | 八尾市楽音寺３丁目100 | H22年<br>７月14日 | 兼用住宅：<br>基礎・浄　槽部分<br>(試掘・確認調査) | 2.5×2.5m－３箇所<br>現地表(T.P. +14.3～14.6m)下2.5m | 18.75 | T.P. +13.3m前後とT.P. +13.2～13.5mにおいて土壌化層を確認した。概ね前者が古墳時代初頭～前期、後者が弥生時代後期に比定される。 | 樋口 |
| 亀井遺跡<br>(2010-40) | 南亀井町１丁目38-3, -4, -5 | H22年<br>５月14日 | 工場：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 3.0×3.0m－２箇所<br>現地表(T.P. +9.3～9.4m)下2.5～3.0m | 18.00 | 詳細はⅡ－３－４)に記載 | 成海 |
| 亀井遺跡<br>(2010-185) | 南亀井町２丁目4-1、4-3、4-4、7-1、7-2、8-1、10-1、10-2、16、17、18、19、21 | H22年<br>９月６・７日 | 分譲住宅：<br>人孔・防火水槽部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0m－８箇所<br>4.0×4.0m－１箇所<br>現地表(T.P. +8.5～9.4m)下2.0～3.5mまで | 48.00 | 詳細はⅡ－３－５)に記載 | 樋口 |
| 萱振遺跡<br>(2010-61) | 八尾市萱振町７丁目100番 | H22年<br>６月14日 | 分譲住宅：人孔・排水管・基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0m－５箇所<br>現地表(T.P. +9.85m)下1.6m | 20.00 | 今回の調査地は、弥生時代中期以降中世に至るまでの遺構群が展開する自然堤防からはやや西に外れた、遺構群が希薄な地域であった可能性が高い。 | 樋口 |
| 萱振遺跡<br>(2010-140) | 八尾市北本町３丁目101.102 | H22年<br>７月20日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×2.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+6.3m)下2.0m | 4.00 | 中世以降現代に至るまで水田を中心とした生産域として利用されていたことが明らかになった。 | 樋口 |
| 萱振遺跡<br>(2010-214) | 萱振町１丁目106-１の一部 | H22年<br>９月９日 | 分譲住宅：<br>基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0m－１箇所<br>現地表(T.P. +6.8m)下2.0m | 4.00 | T.P. 5.5m以下で水成層を確認したほか、このような低湿な地形環境を基盤として、中世以降現代に至るまで水田耕作　層が形成されることを明らかにした。 | 樋口 |

| 遺跡名<br>(申請番号) | 調査地 | 調査日 | 目的：対象<br>(調査原因) | 調査方法 | 面積<br>(㎡) | 調査結果 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 萱振遺跡<br>(2010-173) | 萱振町１丁目112 | H22年<br>９月30日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×2.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+6.8m)下2.0m | 4.00 | T.P.+6.6m以下で水成層を確認したほか、このような低湿な地形環境を基盤として、１・２・４層といった水田耕作土層が形成されることを明らかにした。 | 樋口 |
| 萱振遺跡<br>(2010-231) | 萱振町２丁目100番の一部 | H22年<br>10月６日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×3.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+9.3～9.6m)下2.5m | 6.00 | 中世以降の水田遺構と極少量ではあるが２層から中世遺物が出土しており、　近一帯に中世集落が存在した可能性がある。 | 原田 |
| 萱振遺跡<br>(2010-239) | 北本町３丁目163番３ | H22年<br>10月14日 | 分譲住宅：<br>人孔部分・管路部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0m－３箇所<br>現地表(T.P.+7.4～7.6m)下2.0m | 12.00 | 詳細はⅡ－３－６)に記載 | 原田 |
| 萱振遺跡<br>(2010-240) | 萱振町２丁目100番の一部及び101番、102番１ | H22年<br>12月１日 | 分譲住宅：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.5×2.5m－２箇所<br>現地表(T.P.+6.5m)下2.0m | 12.50 | 中世頃に形成されたと推測される５層は、２区の６層湿地性堆積層に対応すると考えられることから、南方へは展開しない可能性が高くなった。 | 樋口 |
| 木の本遺<br>(2010-110) | 南木の本４丁目１番19の一部、１番21の一部 | H22年<br>８月31日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.5×2.5m－１箇所<br>現地表(T.P.+10.2m)下2.5m | 5.25 | 古墳時代初頭～中期に比定される10層土壌化層が、本調査地を中心に、より北や東に展開している可能性が高くなった。 | 樋口 |
| 木の本遺<br>(2010-285) | 南木の本２丁目22番53 | H22年<br>11月８日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.5×2.5m－１箇所<br>現地表(T.P.+10.8m)下2.0m | 6.25 | 近世頃までの地層を確認したに留まった。 | 成海 |
| 木の本遺<br>(2009-478) | 南木の本３丁目１－１ | H22年<br>11月26日 | 公園造成：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.5×2.5m－２箇所<br>現地表(T.P.+10.4m)下2.0m | 12.50 | 　現地表下2.0m程度までが平安時代後期以降の作土であることが判明した。 | 成海 |
| 久宝寺遺跡<br>(2009-484) | 北亀井町３丁目204番６ | H22年<br>４月７日 | 工場：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 3.0×3.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+7.9m)下2.7m | 9.00 | 近辺で検出の平安時代末～鎌倉時代の水田耕作土層を確認した。 | 成海 |
| 久宝寺遺跡<br>(2010-11) | 渋川町５丁目10－82 | H22年<br>４月７日 | 分譲住宅：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 1.8×1.8m－１箇所<br>現地表(T.P.+10.0m)下1.3m | 3.24 | 調査は現地表下1.3m前後で終了。周辺で確認の古墳時代後期～奈良時代の地層には達していないと考えられる。 | 坪田 |
| 久宝寺遺跡<br>(2009-488) | 南久宝寺２丁目29番 | H22年<br>４月27日 | 分譲住宅：人孔部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0m－４箇所<br>現地表(T.P.+8.6～9.0m)下1.6～2.0m | 16.00 | 詳細はⅡ－３－７)に記載 | 坪田 |
| 久宝寺遺跡<br>(2010-27) | 北久宝寺３丁目63番及び57番、60番、62番の各一部 | H22年<br>４月28日 | 事務所・作業場：<br>基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.5×2.5m－２箇所<br>現地表(T.P.+7.6m)下2.7m | 12.50 | 詳細はⅡ－３－８)に記載 | 坪田 |
| 久宝寺遺跡<br>(2010-43) | 八尾市渋川町４丁目<br>17．18．<br>19．20．22 | H22年<br>６月７日 | 道路、水道、下水道：<br>人孔部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0m－２箇所<br>現地表(T.P.+9.85m)下1.5m | 8.00 | １・２区ともに、南北に伸びるヒューム管が埋設されており、それに伴う客土・盛土層を確認したに留まった。 | 樋口 |
| 久宝寺遺跡<br>(2010-249) | 神武町122-１・183 | H22年<br>10月12・13・14日 | 倉庫：基礎部分<br>(試掘・確認　調) | 3.0×5.0m－５箇所<br>現地表(T.P.+7.8m)下3.0～3.5m | 75.00 | 詳細はⅡ－３－９)に記載 | 坪田 |
| 久宝寺寺内町<br>(2010-48) | 八尾市久宝寺３丁目139番・142番 | H22年<br>６月21日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×3.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+8.7m)下2.0m | 6.00 | 詳細はⅡ－３－10)に記載 | 樋口 |
| 郡川遺跡<br>(2010-33) | 垣内３丁目203番1 | H22年<br>５月６日 | 個人住宅：<br>基礎・浄化槽部分<br>(記録保存調査) | 2.5×2.5m－１箇所<br>1.2×2.6m－１箇所<br>現地表(T.P.+15.6m)下2.4m | 9.37 | ４・７・８層は、調査地西方で確認の弥生時代後期、　墳時代中期、鎌倉時代等の遺構面に相当する可能性が高い。 | 坪田 |
| 郡川遺跡<br>(2009-483) | 教興寺３丁目81番 | H22年<br>５月11日 | 分譲住宅・倉庫：<br>浄化槽部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0m－２箇所<br>現地表(T.P.+11.1～11.2m)下2.1～2.4m | 8.00 | 調査地付近は谷筋にあたるためか、当地では生活の痕跡は見出せなかった。 | 成海 |
| 郡川遺跡<br>(2009-477) | 郡川３丁目82－１の一部 | H22年<br>６月３・４日 | 特別養護者人ホーム：<br>基礎・浄化槽部分<br>(試掘・確認調査) | 3.0×3.0m－３箇所<br>現地表(T.P.+16.2～18.7m)下1.7～2.4m | 27.00 | 詳細はⅡ－３－11)に記載 | 成海 |
| 郡川遺跡<br>(2010-17) | 郡川３丁目５番、６番の一部 | H22年<br>６月10日 | 個人住宅：<br>基礎・浄化槽部分<br>(記録保存調査) | 1.0×2.5m－２箇所<br>現地表(T.P.+28.4～28.5m)下2.0m | 5.00 | 詳細はⅡ－３－12)に記載 | 坪田 |
| 郡川遺跡<br>(2010-35) | 八尾市教興寺４丁目８番、９番 | H22年<br>６月24日・９月13日 | 分譲住宅：<br>擁壁・宅地部分<br>(試掘・確　認調) | 2.0×2.0m－１箇所<br>3.0×3.0m－１箇所<br>2.5×2.5m－２　箇所<br>現地表(T.P.+17.4～17.5m)下2.5～3.0m | 25.50 | 詳細はⅡ－３－13)に記載 | 樋口 |

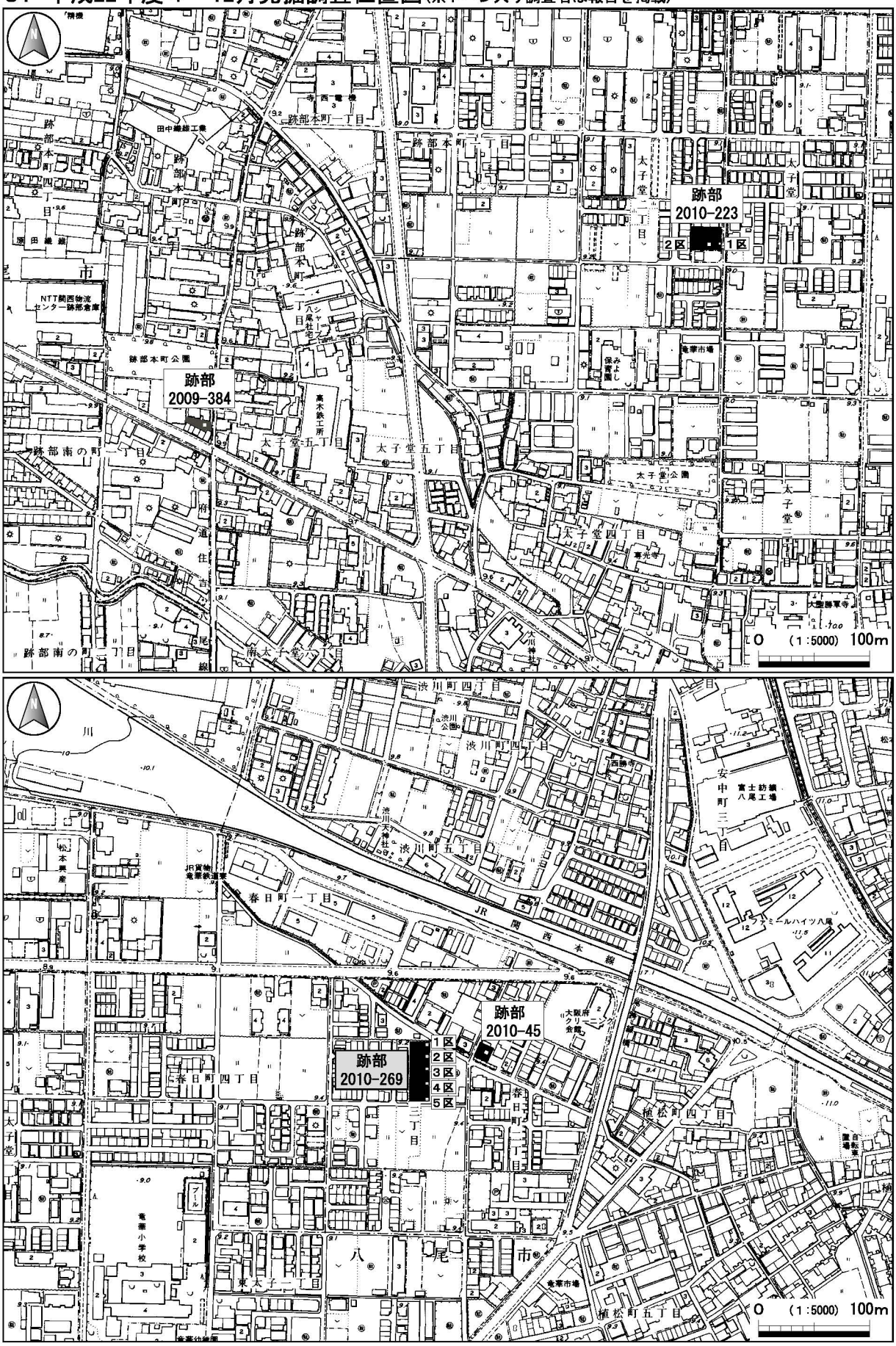
| 遺跡名<br>(申請番号) | 調査地 | 調査日 | 目的：対象<br>(調査原因) | 調査方法 | 面積<br>(㎡) | 調査結果 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 郡川遺跡<br>(2010-328) | 教興寺７丁目56番３ | H22年<br>12月21日 | 個人住宅<br>：基礎・浄化槽部分<br>(記録保存調査) | 1.5×2.0m－１箇所<br>2.5×2.5m－１箇所<br>現地表(T.P.+17.4m)下1.9m | 9.25 | 詳細はⅡ－３－14)に記載 | 成海 |
| 小阪合遺跡<br>(2010-12) | 山本町南８丁目110番 | H22年<br>４月８日 | 分譲住宅：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+10.0m)下2.1m | 4.00 | 詳細はⅡ－３－15)に記載 | 坪田 |
| 小阪合遺跡<br>(2010-146) | 南小阪合町２丁目53番の一部 | H22年<br>８月18日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.5×2.5m－１箇所<br>現地表(T.P.+9.5m)下2.0m | 6.25 | 中世頃の当地周辺は、水田を中心とした生産域であったことが明らかになった。 | 樋口 |
| 小阪合遺跡<br>(2010-232) | 青山町４丁目166 | H22年<br>10月５日 | その他建物<br>(寄宿舎)：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 3.0×3.0m－３箇所<br>現地表(T.P.+9.3～9.6m)下2.6m | 27.00 | 詳細はⅡ－３－16)に記載 | 樋口 |
| 小阪合遺跡<br>(2010-105) | 青山町４丁目253、255、256 | H22年<br>10月８日 | 分譲住宅：<br>人孔及び管路部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0m－４箇所<br>現地表(T.P.+9.6～9.8m)下2.1～2.6m | 16.00 | 詳細はⅡ－３－17)に記載 | 坪田 |
| 小阪合遺跡<br>(2010-188) | 小阪合町２丁目46番14 | H22年<br>11月１日 | デイサービス<br>センター：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.5×2.5m－２箇所<br>現地表(T.P.+8.5m)下2.0m | 12.50 | ３層が中世以降、４層が平安時代末～鎌倉時代、５層が古墳時代中期～平安時代、６層が弥生時代後期～古墳時代前期、７層が弥生時代後期以前に比定される。 | 樋口 |
| 小阪合遺跡<br>(2010-320) | 山本町南７丁目109番15 | H22年<br>12月２日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 3.0×3.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+10.9m)下2.0m | 9.00 | T.P.+9.1m以下で玉串川の前身河川と推測される８層河川堆積層を確認したほか、この上位には、現代に到るまで連綿と水田耕作土層が形成されることを明らかにした。 | 樋口 |
| 小阪合遺跡<br>(2010-349) | 南小阪合町２－１ | H22年<br>12月16日 | 広告塔設置<br>：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+9.0m)下2.0m | 4.00 | T.P.+7.4m以下で７層河川　　層を確認したほか、この上位には、現代に至るまで連綿と水田耕作土層の続くことを明らかにした。 | 樋口 |
| 佐堂遺跡<br>(2010-178) | 末広町５丁目91、86-2 | H22年<br>９月２日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.5×2.5m－１箇所<br>現地表(T.P.+9.2m)下2.5m | 6.25 | T.P.+7.9m以下で水成層が存在するほか、このような低湿な地形環境を基盤として、１～４層といった水田耕作土層が形成されることを明らかにした。 | 樋口 |
| 渋川廃寺<br>(2010-96) | 八尾市春日町１丁目８番２ | H22年<br>６月22日 | 学習塾：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0m－１箇所<br>2.6×2.5m－２箇所<br>現地表(T.P.+9.76m)下1.6～2.5m | 16.50 | 詳細はⅡ－３－18)に記載 | 樋口 |
| 成法寺遺跡<br>(2010-65) | 八尾市高美町１丁目10－２ | H22年<br>６月８日 | 特別養護者人ホーム：<br>基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 3.0×3.0m－２箇所<br>現地表(T.P.+8.7m)下3.0m | 18.00 | 詳細はⅡ－３－19)に記載 | 樋口 |
| 成法寺遺跡<br>(2010-158) | 明美町１丁目37-3・37-4・37-6 | H22年<br>８月６日 | 分譲住宅：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0m－３箇所<br>現地表(T.P.+9.9m)下2.0m | 12.00 | 当地一帯が近・現代まで水田を中心とした生産域として利用されていたことが判明した。 | 樋口 |
| 成法寺遺跡<br>(2010-165) | 南本町２丁目39番2 | H22年<br>８月20日 | その他住宅建設：<br>基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.5×2.5m－１箇所<br>現地表(T.P.+8.9m)下1.0m | 12.50 | 詳細はⅡ－３－20)に記載 | 樋口 |
| 神宮寺遺跡<br>(2010-169) | 神宮寺４丁目113番 | H22年<br>９月24日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×2.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+15.0m)下2.4m | 4.00 | T.P.+13.4m前後において、近世以前と考えられる２・３層水田耕作土層の存在を確認したに留まった。 | 樋口 |
| 太子堂遺跡<br>(2010-217) | 南太子堂６丁目113番・114番・115番・116番１・118番１・119番・124番・125番の一部 | H22年<br>９月28日 | 倉庫・事務所：<br>基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.5×2.5m－４箇所<br>3.0×3.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+9.2～9.5m)下2.1～2.7mまで | 34.00 | 北に位置する１・２区(T.P.+8.0m前後)で古代の遺構面を確認した。 | 坪田 |
| 太子堂遺跡<br>(2010-219) | 東太子２丁目24番３ | H22年<br>10月５日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.5×2.5m－１箇所<br>現地表(T.P.+9.6m)下2.2m | 6.25 | T.P.+7.9mの６層が奈良時代頃の作土と考えられ、以降、連綿と生産域としての土地利用が続いていることを確認した。 | 坪田 |
| 田井中遺跡<br>(2010-67) | 八尾市田井中４丁目19番、22番、23番 | H22年<br>６月25日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 3.0×3.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+11.3m)下2.5m | 9.00 | T.P.+10.4～10.5mで土壌化層を確認した。 | 樋口 |
| 田井中遺跡<br>(2010-70) | 八尾市空港１丁目126 | H22年<br>７月８日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.5×2.5m－１箇所<br>現地表(T.P.+11.1m)下2.5m | 6.25 | 近世の木樋を検出した。北側に存在する平野川と周辺の水田とを繋ぐ水路であったと推定される。 | 原田 |
| 田井中遺跡<br>(2010-152) | 田井中４丁目５番 | H22年<br>８月23日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.5×2.5m－１箇所<br>現地表(T.P.+11.4m)下2.6m | 6.25 | 水田耕作土層が連綿と形成されることが明らかになった。 | 樋口 |

| 遺跡名<br>(申請番号) | 調査地 | 調査日 | 目的：対象<br>(調査原因) | 調査方法 | 面積<br>(㎡) | 調査結果 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 田井中遺跡<br>(2010-295) | 田井中３丁目113・114 | H22年<br>11月９日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.5×2.5m－１箇所<br>現地表(T.P.+11.4m)1.8m | 6.25 | 本調査地付近から西に展開する河川の存在が予測される。 | 樋口 |
| 高安古墳群<br>(2009-309) | 黒　４丁目6番3の一部、17番2，17番3，17番4，19番、34番 | H22年<br>12月17日 | 分譲住宅<br>：人孔・浄化槽部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0m－３箇所<br>現地表(T.P.+47.6～49.5m)下2.3m | 12.00 | 調査では南の３区で北に向かって下がる地山層が見られ、調査地は谷地形を埋め立てた状況であることを確認した。 | 坪田 |
| 東郷遺跡<br>(2010-15) | 桜ヶ丘３丁目112番１ | H22年<br>４月19日 | 兼用住宅：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+8.0m)下2.2m | 4.00 | ５層上面(T.P.+6.3m)が北西部で確認した古墳時代前期布留式期の遺構面に対応するが、当調査地では遺構・遺物は見られなかった。 | 坪田 |
| 東郷遺跡<br>(2010-4) | 桜ヶ丘３丁目111番 | H22年<br>４月26日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.6×3.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+7.7m)下2.7m | 7.60 | ４・５層(T.P.+6.8～6.1m)が周辺で確認の弥生時代後期・古墳時代前期の遺構面に対応する可能性があるが、当調査地では中世頃に作土化していると考えられる。 | 坪田 |
| 東郷遺跡<br>(2010-51) | 北本町２丁目２番５ | H22年<br>５月27・28日 | 学校：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 4.0×4.0m－２箇所<br>3.0×3.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+7.9～8.0m)下3.3m | 41.00 | 全域で中世～近世頃の作土・　作構を、また１区では同時期頃の河川堆積を確認した。それ以下では基本的には当地は河川埋没後に沼沢地化した状況が続いていたと考えられる。 | 坪田 |
| 東郷遺跡<br>(2010-76) | 八尾市桜ケ丘２丁目14番 | H22年<br>７月15日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×3.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+8.0m)下3.0m | 7.50 | 詳細はⅡ－３－21)に記載 | 原田 |
| 東郷遺跡<br>(2010-230) | 東本町４丁目２番８の一部 | H22年<br>９月24日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×2.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+7.6m)下2.1m | 4.00 | 中世～近世頃の作土と、以下の水　層を確認し、遺構・遺物は全く見られなかった。 | 坪田 |
| 東郷遺跡<br>(2010-221) | 光町１丁目48番・49番 | H22年<br>10月１日 | 銀行：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0m－１箇所<br>2.5×2.5m－３箇所<br>現地表(T.P.+7.7～7.8m)下1.5～2.5m | 16.50 | 詳細はⅡ－３－22)に記載 | 樋口 |
| 東郷遺跡<br>(2010-244) | 桜ケ丘１丁目92番・90番２ | H22年<br>10月18日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×2.5m－３箇所<br>現地表(T.P.+7.8～7.9m)下2.0m | 15.00 | 詳細はⅡ－３－23)に記載 | 樋口 |
| 東郷遺跡<br>(2010-177) | 東本町１丁目79 | H22年<br>11月22日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.6×2.5m－１箇所<br>現地表(T.P.+8.8m)下2.0m | 6.25 | 詳細はⅡ－３－24)に記載 | 成海 |
| 中田遺跡<br>(2010-44) | 八尾木北５丁目34番 | H22年<br>６月４日 | 分譲　宅：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+10.7m)下2.5m | 4.00 | T.P.+9.2m以下において湿地性堆積層を確認した。中世以降は、水田を中心とした生産域として利用されていたことを明らかにした。 | 樋口 |
| 中田遺跡<br>(2010-79) | 八尾市刑部４丁目359番及び360番の各一部 | H22年<br>６月10・11日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×3.0m－２箇所<br>現地表(T.P.+12.0m)下3.0m | 12.00 | 古代以降現代に至るまで、当地一帯が水田を中心とした生産域として利用されていたことが判明した。古墳時代初頭～前期については、状況を確認することができなかった。 | 樋口 |
| 中田遺跡<br>(2010-81) | 八尾市八尾木北１丁目71番 | H22年<br>６月18日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×2.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+10.45m)下2.0m | 4.00 | T.P.＋8.5m付近で確認の７層は、土壌化の進行が顕著なことが注目される。層相からは、付近において遺構が検出される可能性が高いと推測される。 | 樋口 |
| 中田遺跡<br>(2010-142) | 八尾木北２丁目53番２ | H22年<br>８月２日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×4.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+10.6m)下2.0m | 8.00 | 詳細はⅡ－３－25)に記載 | 樋口 |
| 中田遺跡<br>(2010-56) | 刑部１丁目106 | H22年<br>８月５日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.5×2.5m－１箇所<br>現地表(T.P.+10.6m)下2.1m | 6.25 | 調査では中世以降と考えられる湿地性堆積や河川堆積、作土層を確認した。周辺では未確認の奈良時代の土器が見られたことから、当該期の集落が存在する可能性がある。 | 坪田 |
| 中田遺跡<br>(2010-198) | 刑部１丁目83番２ | H22年<br>９月16日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×2.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+10.75m)下2.0m | 4.00 | 詳細はⅡ－３－26)に記載 | 原田 |
| 中田遺跡<br>(2010-215) | 中田１丁目72番 | H22年<br>９月17日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×2.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+9.4m)下2.3m | 4.00 | T.P.+8.2mで大部分がＮＲ１に切られる古墳時代初頭～前期の土壌化層を確認した。本調査地の西方において当該期の遺構が検出される可能性が高い。 | 樋口 |
| 中田遺跡<br>(2010-218) | 八尾木北４丁目16、17 | H22年<br>９月22日 | 店舗：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 3.0×3.0m－２箇所<br>現地表(T.P.1.0m)下1.5m | 18.00 | T.P.+10.0m以下で２層河川堆積層を確認した。直上には１層旧水田耕作土層しか形成されないことから、本調査地一帯が、近代まで河川域に位置したことが明らかになった。 | 樋口 |
| 中田遺跡<br>(2010-235) | 八尾木北１丁目74番 | H22年<br>９月29日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 1.5×2.0m－１箇所<br>現地表(T.P.10.7m)下2.0m | 3.00 | 古墳時代初頭～前期の土壌化層が、付近一帯に分布していることが明らかになった。 | 樋口 |
| 中田遺跡<br>(2010-257) | 刑部４丁目110番１・112番の各一部 | H22年<br>10月26日 | 分譲　宅：人孔部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0m－２箇所<br>現地表(T.P.+10.9m)下2.0m | 8.00 | 詳細はⅡ－３－27)に記載 | 樋口 |

| 遺跡名<br>(申請番号) | 調査地 | 調査日 | 目的：対象<br>(調査原因) | 調査方法 | 面積<br>(㎡) | 調査結果 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 中田遺跡<br>(2010-272) | 八尾木１丁目21番１の一部、21番２ | H22年<br>12月６日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×2.5m－１箇所<br>現地表(T.P.+10.2m)下2.3m | 5.00 | T.P.+8.8m以下で湿地性堆積層を確認したほか、この上位には、現代に至るまで運搬と水田耕作土層の続くことを明らかにした。 | 樋口 |
| 中田遺跡<br>(2010-315) | 八尾木北３丁目225番２ | H22年<br>12月27日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.5×2.5m－１箇所<br>現地表(T.P.+10.6m)下2.5m | 6.25 | 詳細はⅡ－３－28)に記載 | 成海 |
| 花岡山遺跡<br>(2009-140-2) | 楽音寺６丁目１番地 | H22年<br>８月９日 | 学校新棟建設：<br>防火水槽部分<br>(試掘・確認調査) | 3.0×3.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+48.8m)下2.5m | 9.00 | 今回の調査では、客土・盛土層直下において地山層が存在することを確　した。したがって、表土などは、現代の開発等に伴い削平されていることが明らかになった。 | 樋口 |
| 東弓削遺跡<br>(2009-481) | 都塚１丁目37番 | H22年<br>４月23日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×2.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+14.4m)下2.5m | 4.00 | 詳細はⅡ－３－29)に記載 | 成海 |
| 東弓削遺<br>(2009-453) | 八尾木２丁目182番 | H22年<br>５月10日 | 分譲住宅：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.5×2.5m－２箇所<br>現地表(T.P.+11.0m)下1.7～2.4m | 12.50 | 詳細はⅡ－３－30)に記載 | 成海 |
| 東弓削遺跡<br>(2010-57) | 八尾木３丁目32番７、45番１ | H22年<br>６月２日 | 分譲住宅：宅地部分<br>(試掘・確認調査) | 3.0×3.0m－２箇所<br>現地表(T.P.+12.4m)下2.4m | 18.00 | 埋没河川上面でブロック層を検出した。当地付近は旧長瀬川の河道跡にあたることから、河川埋没後に整地が行われたと考えられる。 | 成海 |
| 東弓削遺跡<br>(2010-72) | 八尾木３丁目39番１ | H22年<br>６月２日 | 分譲住宅：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.5×2.5m－２箇所<br>現地表(T.P.+12.2m)下2.0m | 12.50 | 中世頃の作土層を確認した。南接する2010-64調査地は旧長瀬川の影響を強く受けていたようであるが、当地は旧河川の周縁部に位置し、水田開発が行われたものと考えられる。 | 成海 |
| 東弓削遺<br>(2010-181) | 八尾木東１丁目163番２号 | H22年<br>８月25日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×2.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+11.1m)下2.0m | 4.00 | 本調査地の最終掘削面が第４次調査の第１面より上部にあたることから、塚ね古墳時代中期以降の堆積層であることが想定される。 | 原田 |
| 東弓削遺跡<br>(2010-291) | 八尾木東１丁目109番１ | H22年<br>12月３日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×3.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+10.7m)下2.2m | 6.00 | 詳細はⅡ－３－31)に記載 | 樋口 |
| 東弓削遺<br>(2010-359) | 八尾木４丁目10番の一部 | H22年<br>12月24日 | 共同住宅：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.5×2.5m－２箇所<br>現地表(T.P.+10.6m)下2.5m | 12.50 | 詳細はⅡ－３－32)に記載 | 坪田 |
| 水越遺跡<br>(2009-425) | 大字大窪486番26 | H22年<br>５月25日 | 地区集会所：<br>浄化槽部分<br>(試掘・確認　調査) | 1.5×2.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+22.0m)下2.0m | 3.00 | ３層は弥生時代後期以降の遺物包含層に対応すると考えられる。３層上面は平安時代後期以降の耕盤の可能性がある。 | 成海 |
| 水越遺跡<br>(2010-107) | 大窪943番５ | H22年<br>９月14日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×3.0m－１箇所<br>2.0×1.5m－１箇所<br>現地表(T.P.+16.9m)下2.1～2.3mまで | 9.00 | 詳細はⅡ－３－33)に記載 | 原田 |
| 美園遺跡<br>(2010-179) | 美園町４丁目109-３ | H22年<br>８月24・25日 | 診療所建設：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 3.0×3.0m－４箇所<br>現地表(T.P.+7.2～7.4m)下2.5m | 36.00 | 詳細はⅡ－３－34)に記載 | 樋口 |
| 宮町遺<br>(2010-87) | 宮町２丁目38-２ | H22年<br>６月17日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×3.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+5.1m)下2.0m | 6.00 | 詳細はⅡ－３－35)に記載 | 坪田 |
| 宮町遺跡<br>(2010-288) | 本町６丁目56番８ | H22年<br>11月18日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×3.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+8.0m)下2.0m | 6.00 | T.P.+7.0m以下に５～８層水成層が存在するほか、このような低湿な地形環境を基盤として、１～４層水田耕作土層が形成されることを明らかに押した。 | 樋口 |
| 宮町遺跡<br>(2010-356) | 本町７丁目196番２・197番２ | H22年<br>12月22日 | 住宅型有料老人ホーム：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.5×2.5m－２箇所<br>現地表(T.P.+8.4m)下2.0m | 12.50 | 旧表土直下で近世の遺構を確　した。南東200m地点の調査地(東郷34次・70次)では、中世の集落が検出されているが、当地は中世には河川であったと考えられる。 | 成海 |
| 八尾寺内町<br>(2010-146) | 八尾市本町５丁目29番の一部及び30番の一部 | H22年<br>７月23日 | 工場：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.5×2.5m－２箇所<br>現地表(T.P.+8.0～8.2m)下2.0m | 12.50 | 詳細はⅡ－３－36)に記載 | 樋口 |
| 八尾南遺跡<br>(2010-207) | 西木の本３丁目77 | H22年<br>９月10日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×2.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+9.6m)下2.0m | 4.00 | 今回の調査地一帯は、低湿な地形環境を基盤として、水田を中心とした生産域として利用されていたことが判明した。 | 樋口 |
| 八尾南遺跡<br>(2010-278) | 若林町３丁目91番１ | H22年<br>11月30日 | 個人住宅：基礎部分<br>(記録保存調査) | 2.0×3.0m－１箇所<br>現地表(T.P.+12.7m)下2.0m | 6.00 | ６層水田耕作土層は、府センターが実施した八尾南遺跡の調査やＹＳ90－17次調査で確　されている弥生時代後期中葉の４層に対応する可能性が高い。 | 樋口 |
| 八尾南遺跡<br>(2010-319) | 西木の本２丁目113 | H22年<br>12月13日 | 分譲住宅：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.5×3.5m－２箇所<br>現地表(T.P.+10.0m)下2.1m | 17.50 | 近世頃の耕作土を確認した。 | 坪田 |

| 遺跡名<br>(申請番号) | 調査地 | 調査日 | 目的：対象<br>(調査原因) | 調査方法 | 面積<br>(㎡) | 調査結果 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 矢作遺跡<br>(2009-442) | 安中町８丁目40番２ | H22年<br>５月24日 | 分譲住宅：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.0×2.0ｍ－２箇所<br>現地表(T.P.+11.5m)下1.5m | 8.00 | 作土層や河川埋土を検出した。近辺の調査成果から、４層上面は近世の、６層上面は中世の生活面と考えられる。 | 成海 |
| 矢作遺跡<br>(2010-85) | 八尾市高美町６丁目48-1、48-2、49-1の一部、49-2の一部 | H22年<br>７月28日 | 兼用住宅：基礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.5×2.5ｍ－１箇所<br>現地表(T.P.+11.4m)下2.0m | 6.25 | 本調査地一帯が、近代まで河川域に位置したことを明らかにした。 | 樋口 |
| 矢作遺跡<br>(2010-129) | 南本町５丁目21番６ | H22年<br>８月10日 | 個人住宅：　礎部分<br>(記録保　調査) | 2.0×2.0ｍ－１箇所<br>現地表(T.P.+9.86m)下2.0m | 4.00 | 今回の調査では、当地が中世以降、水田を中心とした生産域として利用されていたことを明らかにした。2005-104調査地では居住域が検出されており、その関連性が注目される。 | 樋口 |
| 矢作遺跡<br>(2010-176) | 高美町３丁目２番 | H22年<br>10月４日 | 店舗：　礎部分<br>(試掘・確認調査) | 2.6×2.6ｍ－２箇所<br>現地表(T.P.+9.4m)下2.0m | 12.50 | １区７層上面で遺構の存在を確認　ることができた。 | 樋口 |
| 弓削遺跡<br>(2009-433) | 弓削町南３－21－２ | H22年<br>４月21日 | 事務所：基礎部分<br>(試掘調査：<br>堺市文化財包蔵地外) | 2.5×2.5ｍ－２箇所<br>現地表(T.P.+13.5～13.8m)下3.0～3.4m | 12.50 | 詳細はⅡ－３－37)に記載 | 坪田 |
| 池島・福万寺遺跡隣接地<br>(2010-125) | 山本町北3丁目52番1号 | H22年<br>９月27・28日 | 礼拝所：　礎部分<br>(試掘調査：<br>堺市文化財包蔵地外) | 2.5×2.5ｍ－５箇所<br>現地表(T.P.+9.3～9.7m)下2.5m | 31.25 | 玉串川の前身河川と推測される２・４層河川堆積層を確認　ることができた。 | 樋口 |
| 萱振遺跡隣接地<br>(2009-489) | 旭ケ丘５丁目10番１・２・３、75番１・６ | H22年<br>４月13・14日・７月16日 | 分譲住宅：<br>人孔・防火水槽部分<br>(試掘調査：<br>堺市文化財包蔵地外) | 2.0×2.0ｍ－８箇所、<br>3.5×3.5ｍ－１箇所<br>3.0×7.0ｍ－１箇所<br>現地表(T.P.+8.4～8.9m)下2.0～3.2m | 53.00 | 中世～近世頃の作土層を確認。西部で確認の古墳時代前期や古代の居住域は当地には及んでいないと考えられる。 | 坪田<br>樋口 |
| 東郷遺跡<br>隣接地<br>(2010-201) | 旭ヶ丘１丁目112番、113番 | H22年<br>９月３日 | 店舗：<br>貯水槽・オリフィス枡部分<br>(試掘調査：<br>堺市文化財包蔵地外) | 2.6×2.5ｍ－２箇所<br>現地表(T.P.+8.1m)下2.3m | 12.50 | T.P.+5.8m以下で河川堆積層が存在するほか、この上位には、現代に至るまで、逼綿と水田耕作土層が形成されていることが明らかになった。 | 樋口 |
| 矢作遺跡<br>隣接地<br>(2010-147) | 高美町７丁目13番１・14番１・14番２の一部・14番３の一部・23番１の一部・40番１ | H22年<br>９月14日 | 遊技場建設：<br>礎・防火水槽<br>(試掘調査：　堺市文化財包蔵地外) | 3.5×3.5ｍ－１箇所<br>3.0×3.0ｍ－４箇所<br>現地表(T.P.+10.9～11.3m)下2.0mまで | 48.25 | 今回の調査では、客土・盛土層直下において長瀬川の前身河川に伴う砂礫優勢の堆積層を確認したに留まった。 | 樋口 |

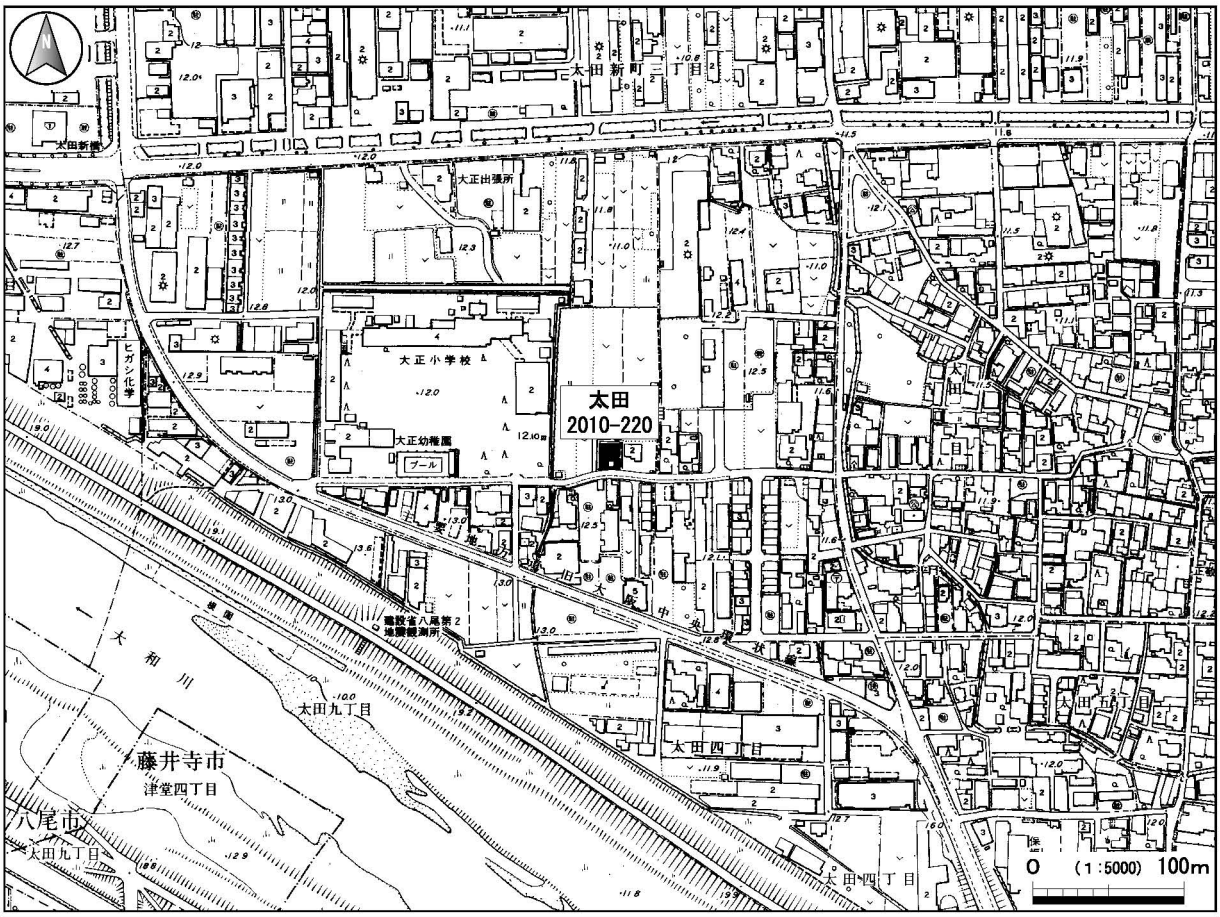
## ３．平成22年度４～12月発掘調査位置図(※トーン入り調査名は報告を掲載)

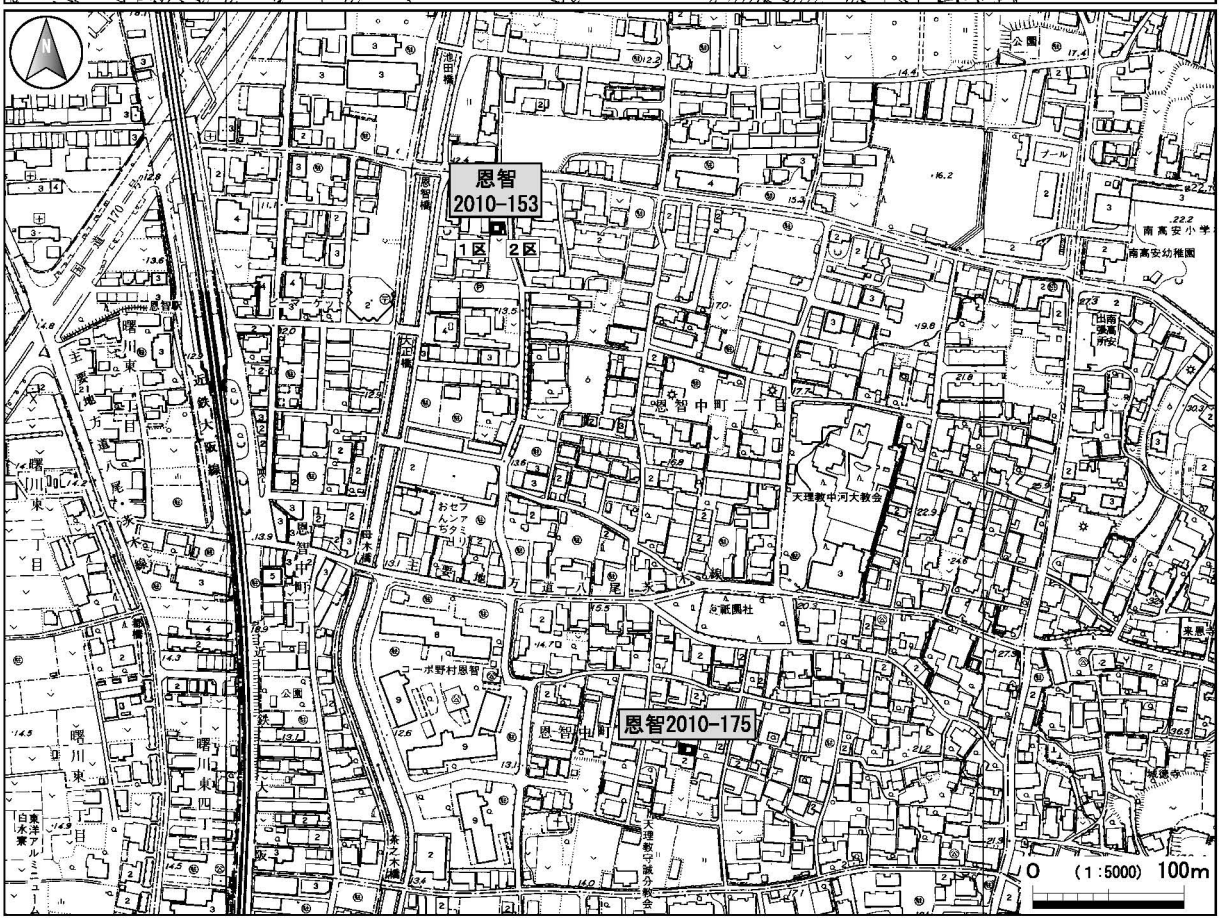



第27図

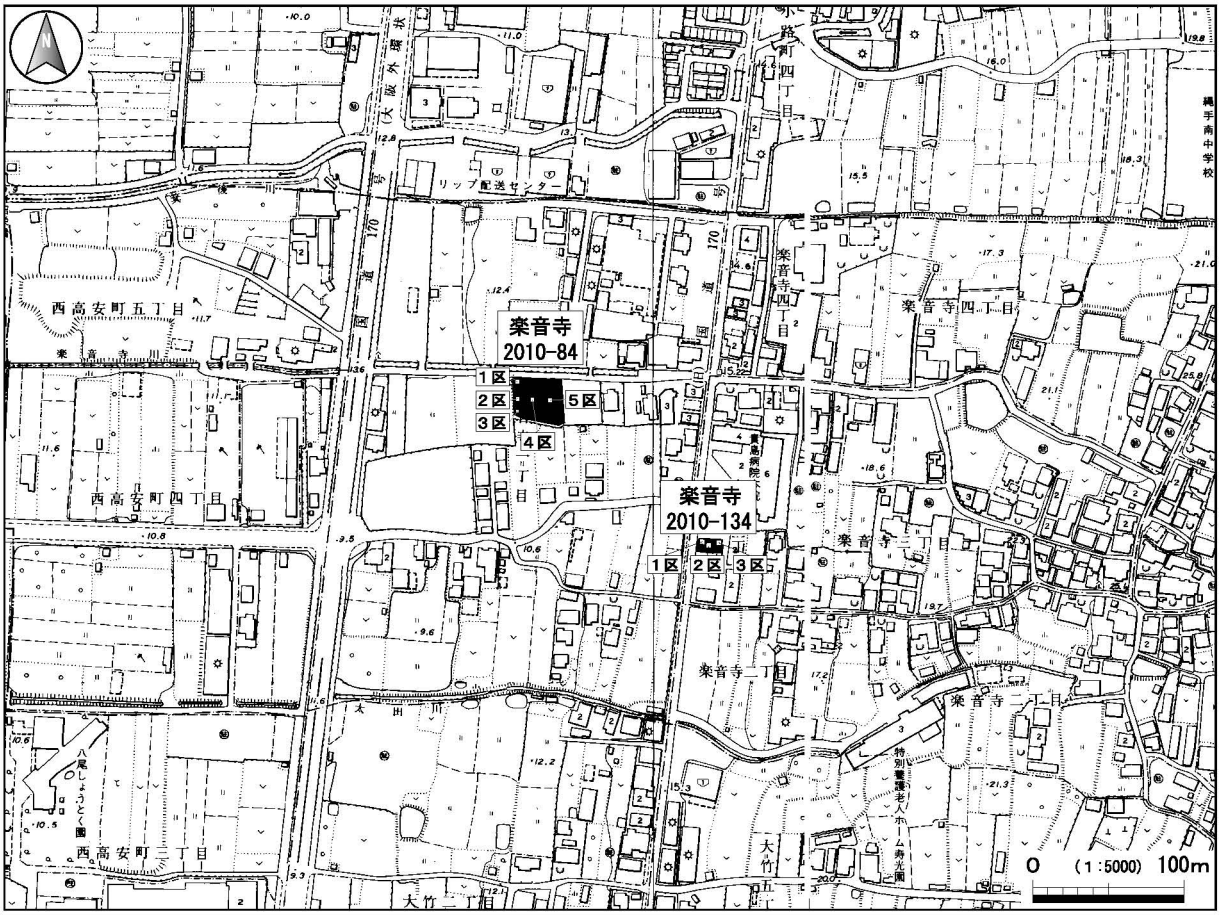
植松
2010-50
1区
2区
3区
4区
植松
2010-265
植松
2010-210
1区
2区
3区
4区
0 (1:5000) 100m
老原2010-164
0 (1:5000) 100m

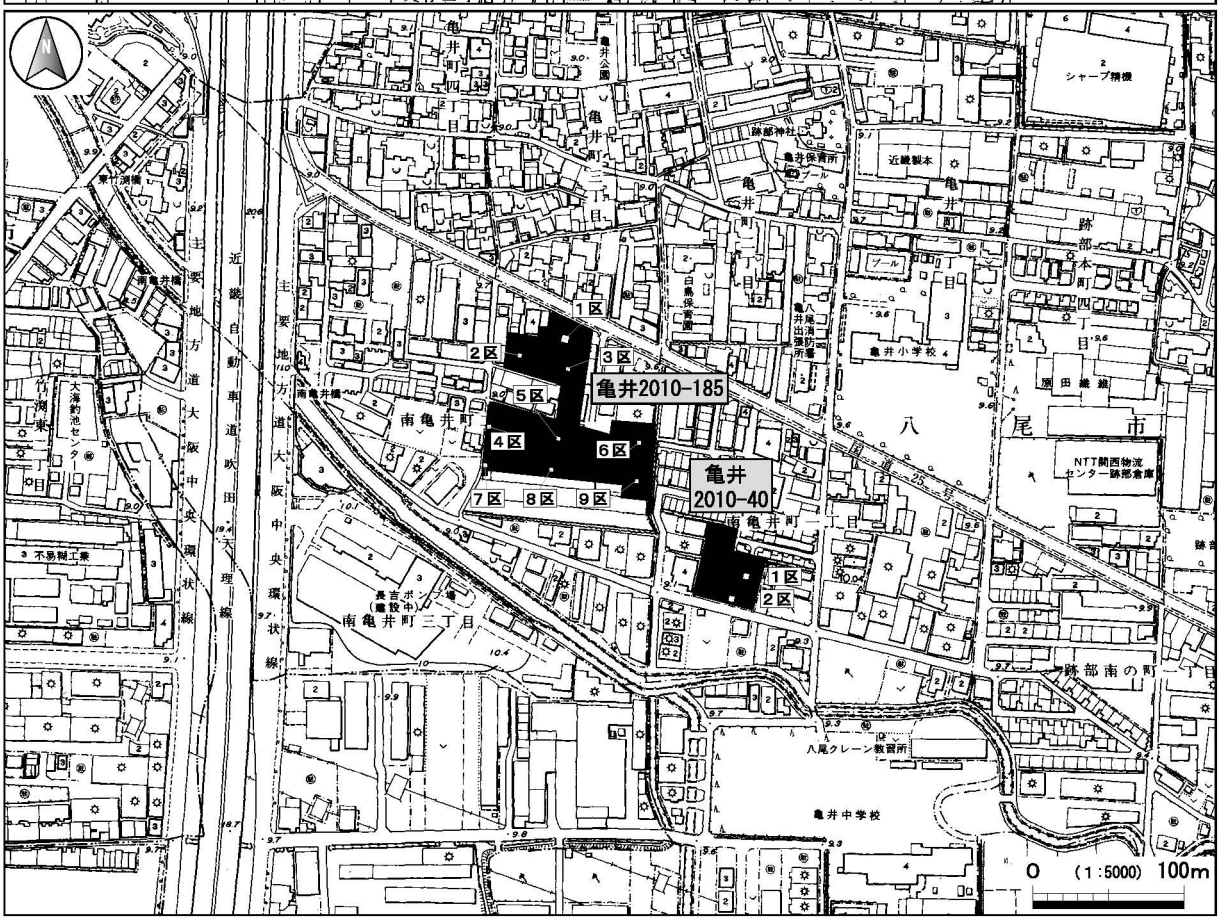
第28図


太田新町一丁目
太田新橋
大正出張所
大正小学校
大正幼稚園
ヒガシ化学
太田
2010-220
建設省八尾第2
地震観測所
大和川
太田九丁目
藤井寺市
津堂四丁目
八尾市
太田九丁目
太田四丁目
太田五丁目
太田四丁目
0 (1:5000) 100m

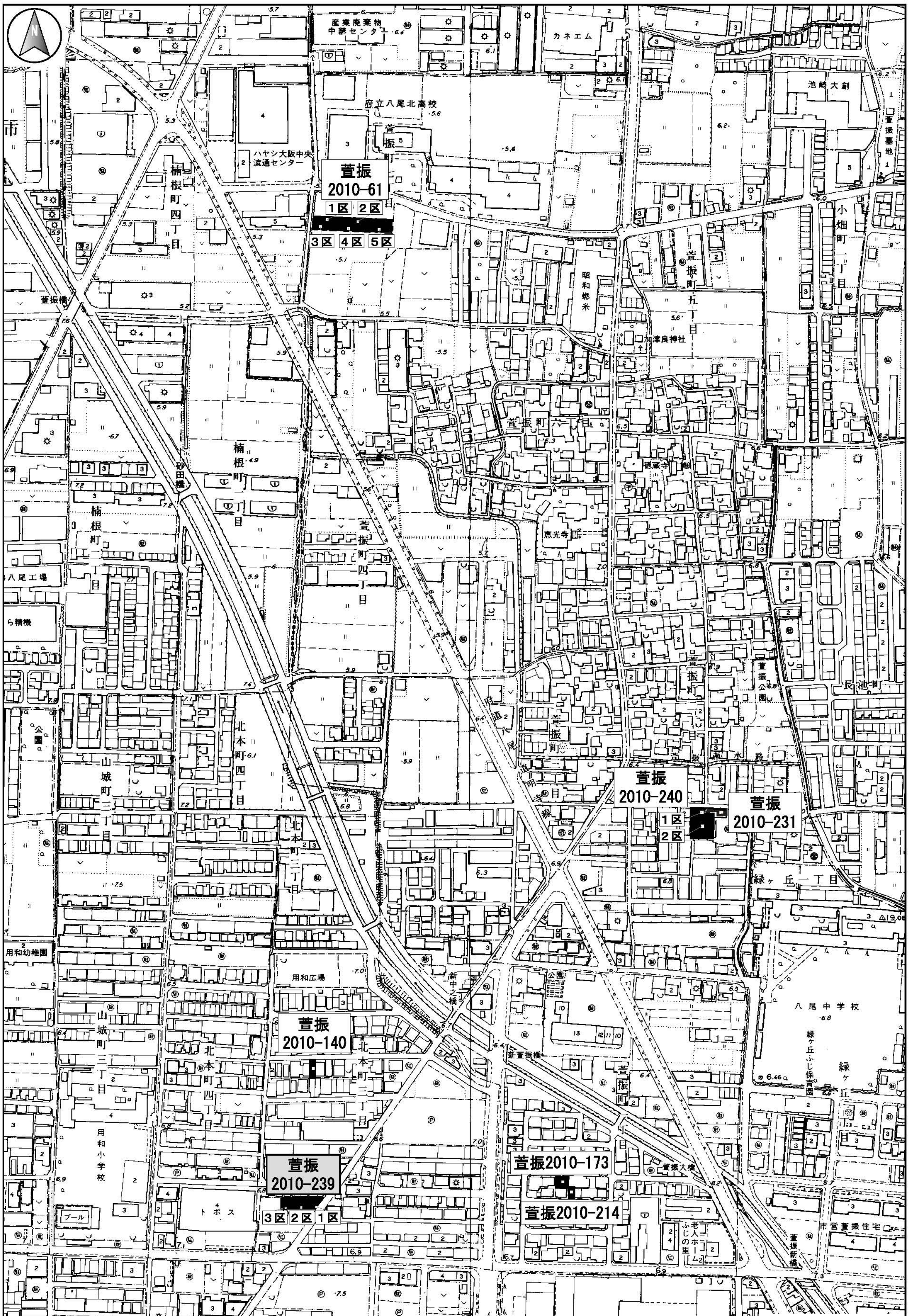

恩智
2010-153
1区
2区
恩智駅
恩智中町一丁目
天理教中河大教会
南高安小学
南高安幼稚園
恩智中町
恩智2010-175
天理教守誠分教会
0 (1:5000) 100m

第29図

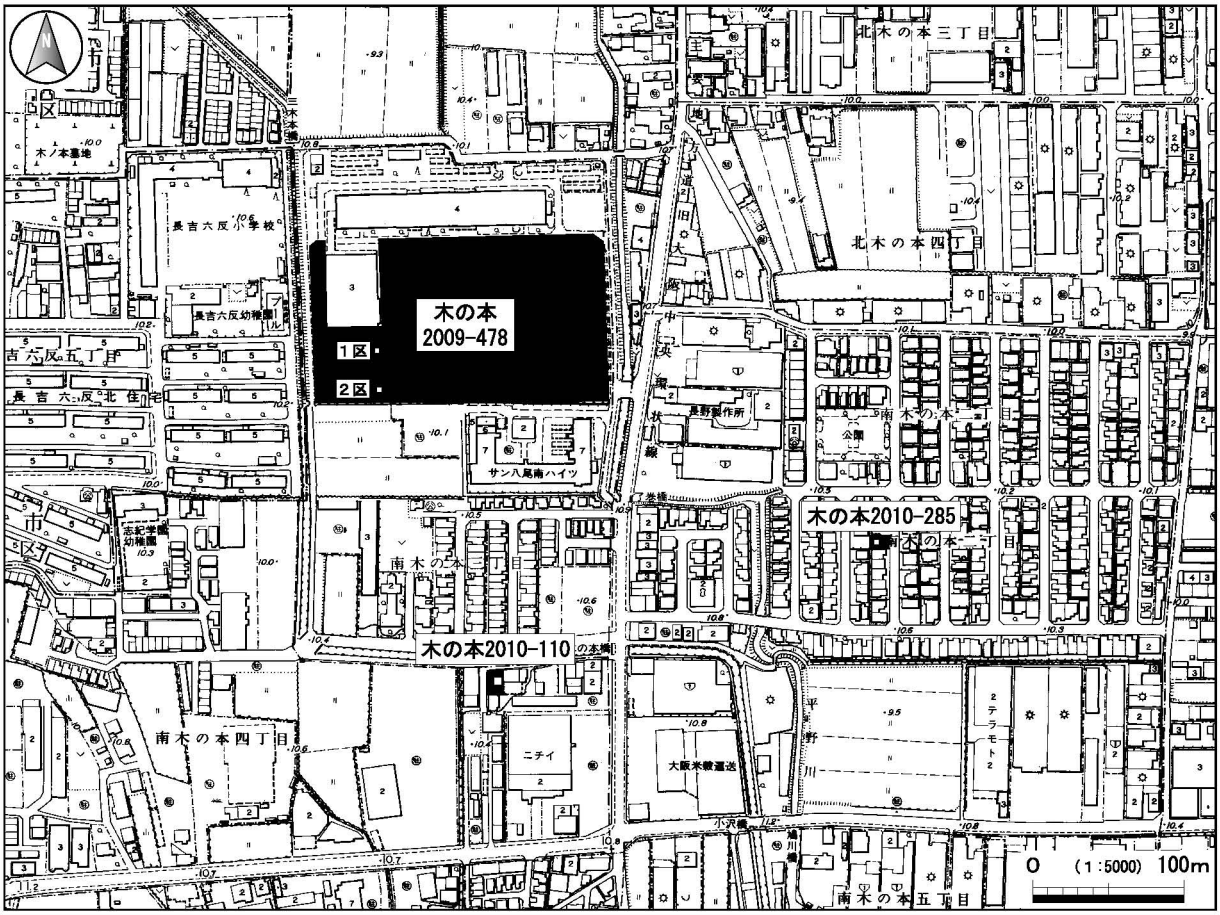

楽音寺
2010-84
1区
2区
3区
4区
5区
楽音寺
2010-134
1区
2区
3区
西高安町五丁目
西高安町四丁目
西高安町二丁目
楽音寺四丁目
楽音寺二丁目
楽音寺三丁目
楽音寺四丁目
リップ配送センター
0 (1:5000) 100m


亀井2010-185
1区
2区
3区
4区
5区
6区
7区
8区
9区
亀井
2010-40
1区
2区
南亀井町
南亀井町三丁目
亀井中学校
八尾市
0 (1:5000) 100m

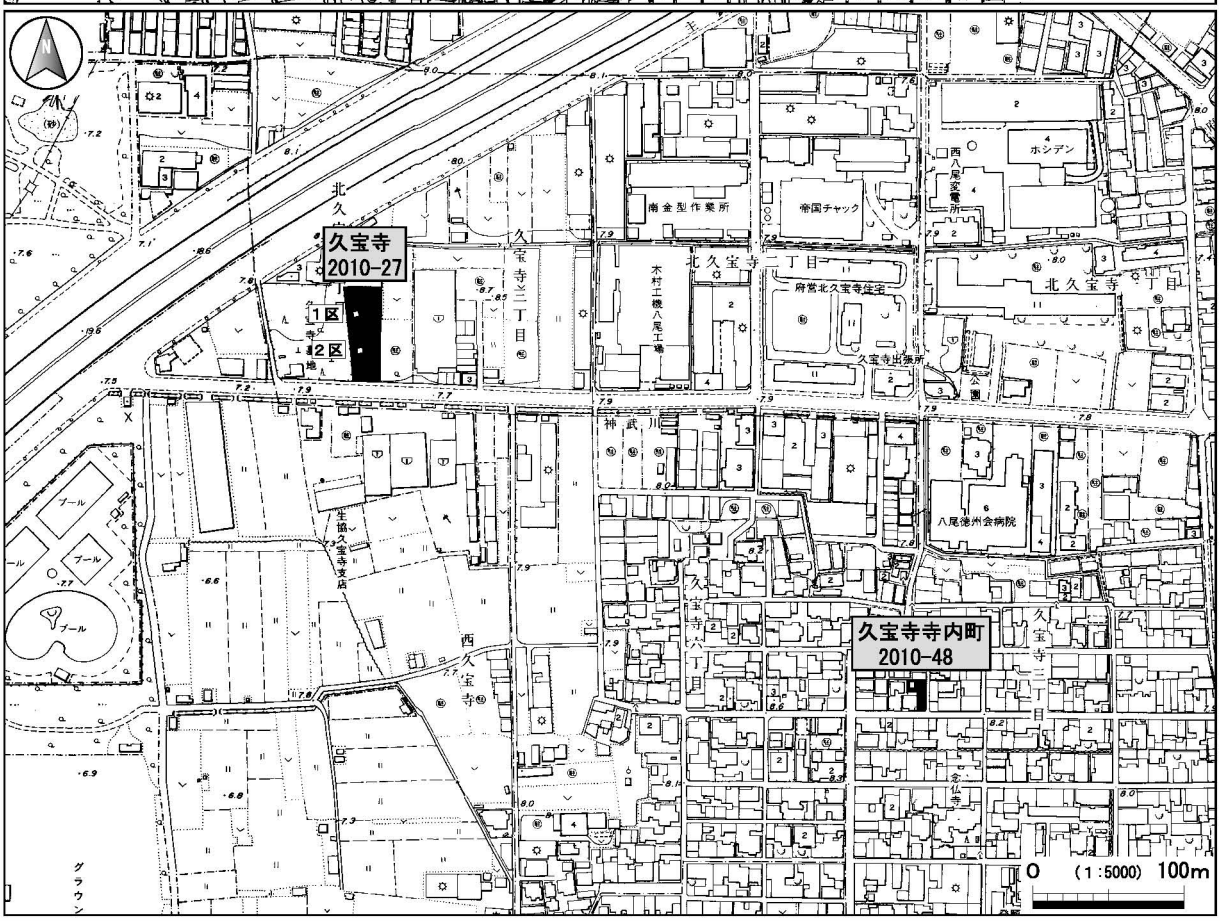
第30図


萱振
2010-61
1区 2区
3区 4区 5区
萱振
2010-240
1区
2区
萱振
2010-231
萱振
2010-140
萱振
2010-239
3区 2区 1区
萱振2010-173
萱振2010-214
府立八尾北高校
ハヤシ大阪中央流通センター
産業廃棄物中継センター
カネエム
池崎大創
昭和燃糸
加津良神社
恵光寺
用和広場
用和幼稚園
用和小学校
トポス
八尾中学校
緑ケ丘ふじ保育園
市営萱振住宅
新萱振橋
萱振大橋
萱振新橋
砂田橋
萱振橋
八尾工場
公園
萱振公園
0 (1:5000) 100m

第31図

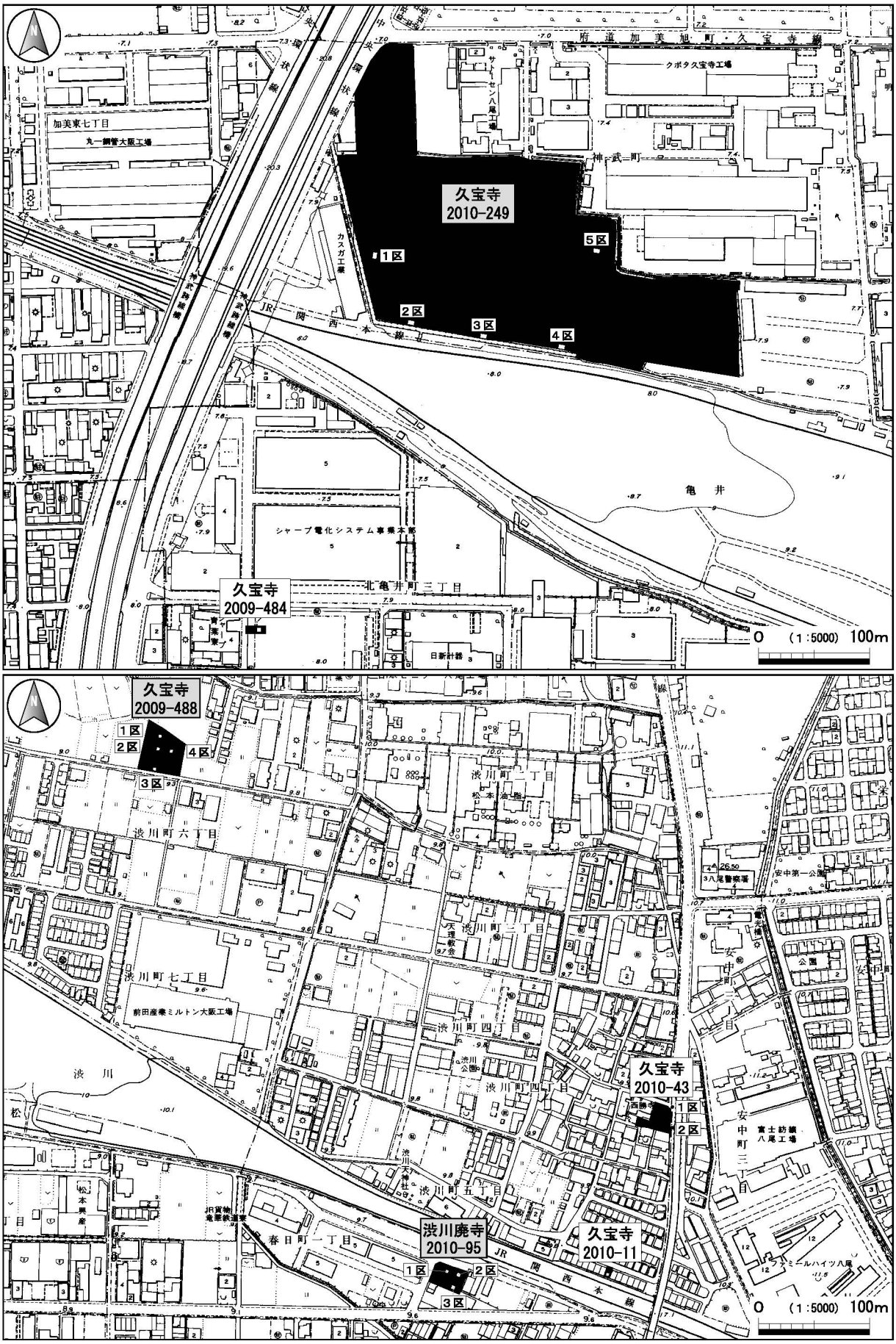


木の本
2009-478
1区
2区
木の本2010-285
木の本2010-110
北木の本三丁目
北木の本四丁目
南木の本四丁目
南木の本五丁目
長吉六反小学校
長吉六反幼稚園
長吉六反北住宅
志紀学園幼稚園
サン八尾南ハイツ
長野製作所
ニチイ
大阪米穀運送
テラモト
0 (1:5000) 100m

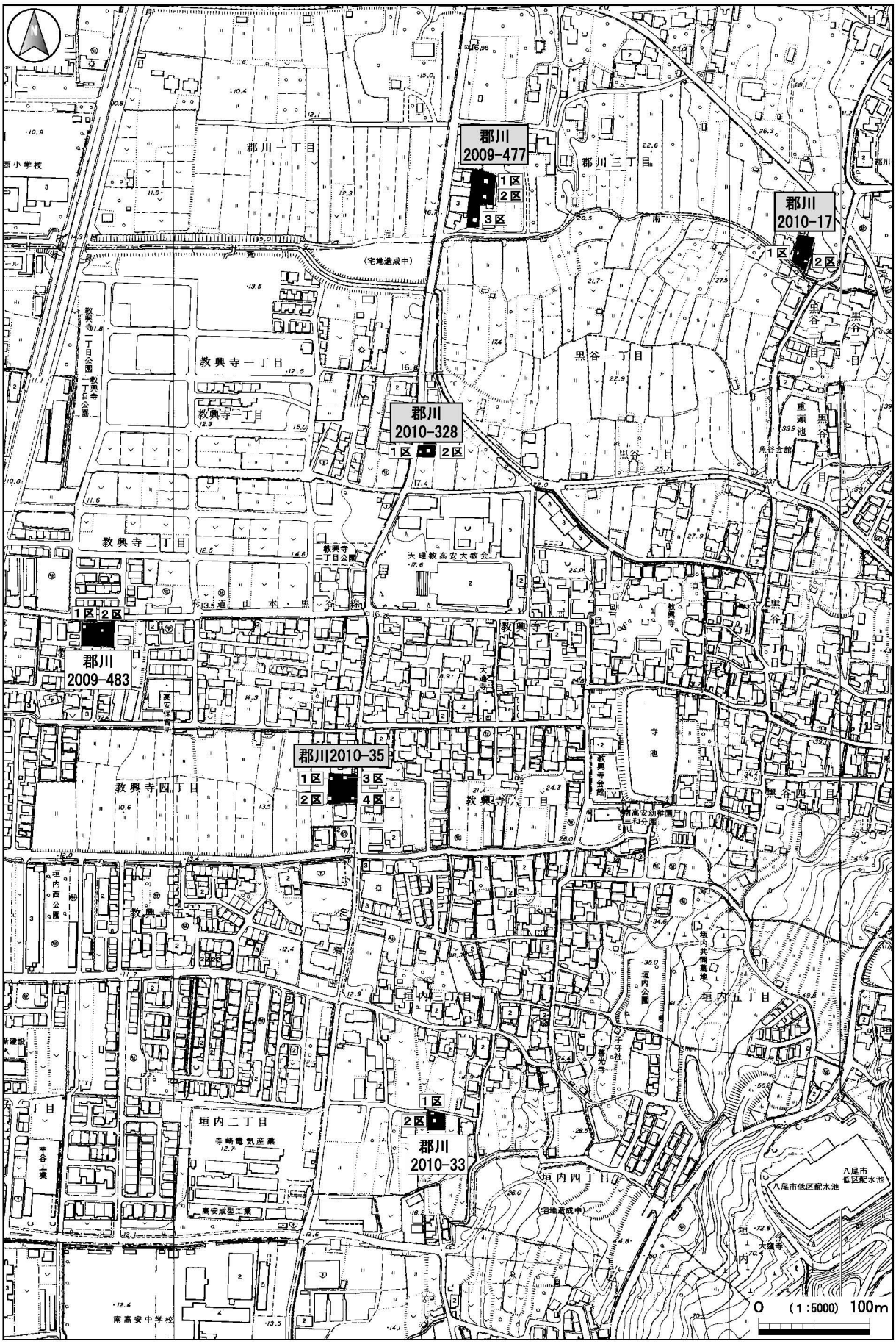



久宝寺
2010-27
1区
2区
久宝寺内町
2010-48
北久宝寺二丁目
北久宝寺三丁目
久宝寺三丁目
久宝寺六丁目
南金型作業所
帝国チャック
ホシデン
府営北久宝寺住宅
久宝寺出張所
八尾徳州会病院
生協久宝寺支店
神武川
0 (1:5000) 100m


第32図


府道加美旭町・久宝寺線
クボタ久宝寺工場
サーセン八尾工場
加美東七丁目
丸一鋼管大阪工場
神武町
久宝寺
2010-249
1区
2区
3区
4区
5区
カスガ工業
JR関西本線
亀井
シャープ電化システム事業本部
北亀井町三丁目
久宝寺
2009-484
日新計器
0 (1:5000) 100m
久宝寺
2009-488
1区
2区
3区
4区
渋川町一丁目
松本油脂
渋川町六丁目
安中第一公園
八尾警察署
渋川町三丁目
天理教会
渋川町七丁目
前田産業ミルトン大阪工場
渋川町四丁目
渋川公園
渋川
久宝寺
2010-43
1区
2区
安中町三丁目
富士紡績八尾工場
渋川天神社
渋川町五丁目
松本興産
JR貨物
春日町一丁目
渋川廃寺
2010-95
1区
2区
3区
久宝寺
2010-11
JR関西本線
ミニミルハイツ八尾
0 (1:5000) 100m

第33図


郡川
2009-477
1区
2区
3区
郡川
2010-17
1区
2区
郡川
2010-328
1区
2区
郡川
2009-483
1区
2区
郡川2010-35
1区
2区
3区
4区
郡川
2010-33
1区
2区
郡川一丁目
郡川三丁目
黒谷一丁目
教興寺一丁目
教興寺二丁目
教興寺四丁目
教興寺五丁目
教興寺六丁目
教興寺七丁目
垣内二丁目
垣内四丁目
垣内五丁目
垣内西公園
垣内公園
天理教高安大教会
寺池
寺崎電気産業
高安成型工業
南高安中学校
八尾市低区配水池
0 (1:5000) 100m

第34図